春城雜纂

二十

卷十三

君平澤鶏肋

特別
14
1919
686

特
門 イ4
號 1919
卷 71
686
門 イ5
號 1380
卷 47

獸類の中ゐい唱歌音樂を好み且つ能く其の調子を聞き分くるものも少からざるぞ今ま諸家の記する所ゐ據りて之ゐ關する事實を左ゐ揭げん

スチンフェンス氏い其の農書中ゐ記して云ふ「余の飼養する馬の中ゐて或る一匹い調子の低くして靜肅ゐ音樂を耳ゐする時い假へ飼料を食ひ最中ゐても直ちゐ之を止め耳を欹てゝ靜かゐ之を聽き居れども他の一匹い之ゐ反して特ゐ調子の高き音樂を好めり」と又た往時嘗て和蘭の或る富豪は馬の音樂を好むを知り其の心を慰ましめんか爲め廐の内ゐ樂器を備へ置き一週ゐ一度つゝ之を奏するとゐ定め置きしと云ふ話あり

亞剌比亞の諺ゐ「牧羊者の唱歌の羊を肥やすい豐饒ゐる牧場よりも驗多し」と云へるとあり元來同地方の牧羊者い歌を唱ひ又は笛を吹きて羊を導き羊も亦た自から其の調子ゐ連れて歩み從て其運動の宜しきより大ゐ羊を壯健ゐするの効あり因て右の諺起りたるゐらんと云ふ又ウード氏の記する所ゐ據れい小羊い音色を聞き分くるゐ聽くして總て急劇活潑の調子を好み緩漫靜肅の調子を嫌ふと云へり

蘇蘭ハイランドの乳搾女い牝牛のステて其指圖ゐ從はざる時い歌を唱ふて機嫌を直さしむると云ひ佛國の農夫は牡牛の勞働を勵ます爲めゐ歌を唱ふと云ふ皆ゐ牛の唱歌を聽くを好むか爲めあり

プレーフォルド氏は其の音樂初歩と題する書中ゐ記して云ふ「余は數年前旅行中ゐ或る牧師が笛と胡弓を携へて二十頭バかりの鹿を牽き居るゐ出逢ひ其の進み行く樣を一見せしゐ群鹿は牧師の樂を奏する時ゐい歩み又其の樂を止むる時ゐい同しく足を停めつゝ從順ゐ牧師ゐ尾して進みたり」と又た熊い其性音樂を好むものゐるか故ゐ之を敎へ馴らす時い音樂の調子ゐ連れて躍らしむるを得べし又獅子の如きも音樂を喜ぶの性ありと見へサー、ジョン、ホーキンス氏の音樂史中ゐも「某學士い嘗て倫敦ゐて物を喰み居る時ゐても音樂を奏すれバ直ちゐ口を止むるの獅子を見たる旨を語れり」とあり象い音調を聞分くると特ゐ聽く之ゐ樂器の用法を敎もれバ巧みゐ之を働かすの能ありて大ゐ觀客の喝采を博する例甚だ多し駱駝い大ゐ音樂を好み如何ゐ重荷を負ふて疲るゝとも

昭和十六年十一月
市島謙吉

音樂を聽けゝ忽ち奮勵の氣を生ずるより亞細亞及び亞非利加の沙漠を往來する旅商等ゝ其の旅中數々音樂を奏して進行するとのことあり

石食者の話

人ゐして石を食ふ者ありとは間々學者の書中ゐ散見する處ゐて嘗て英國の博士パルワー氏ゝ其書中ゐ伊太利人ゐて石を食べる者ありとの事を記し佛國のポーリアン氏の物理書中ゐも石食者の話を載せたるものあり今ま其記する所ゐ據るゐ此の石を食べる一異人ゝ嘗て和蘭船ゐ北海の一孤島より歐洲ゐ伴ひ歸れる者ゐて一千七百六十年(今を去る百二十七年以前)の五月より氏が其の手許ゐ置て自から實驗を施せしゐり同人ゝ長サ一寸二分、巾四分の燧石を差支へもゐく呑込むのみゐらす大理石を細粉ゐし之ゐ水を加へてコテ固めたるを左も甘味ゐり氣ゐ食ひ又生肉ゐ石を交へたるを食すれども食麵包ゐゝ手さへも觸れす飲物ゐてゝ最も水、葡萄酒、ブランデーを好めりと又氏ゲ同人の身体の有樣を仔細ゐ取調へたるゐ食道ゝ常人ゐ優れて太く齒ゝ甚た強く唾の物を柔らぐるか常人ゐ比すれゝ頗る盛んゐして胃の腑ゝ常人よりも少しく下の方ゐ着き居たりと云ふ

氣候と罪人の關係

氣候の變化ゐ因て犯罪の性質も亦た變化するゝ學者の間々唱ふる處ゐれとも是れまて諸國政府の出版したる罪人統計表ゝ分明ゐ此事實を表明したるものゐかりしゐ今や日耳曼政府ゝ天下ゐ率先して氣候と罪人との關係ゐ付き一種の統計表を出版せり此統計表ゝ千八百八十二年(明治十五年)の事實を掲けたるものゐて未た其後ちの統計を得されとも先つ該年間ゐ就て觀るゐ人身ゐ關して罪を犯せる者十二万九千人の中三万六千人ゝ夏ゐ於てし冬ゐ於て犯せる者ゝ二万六千人ゐ過きす此類の犯罪は一年間の最も寒き月よりも最も熱き月の方多き割合ゐて春秋ゝ恰も夏冬の中間ゐ立ち其間ゐ差たる相違ゐし又財産ゐ對する罪ゝ之と全く反對ゐて冬分ゝ犯罪者最も多く夏分ゝ最も少し此種類の犯罪者十九万八千人中冬ゐ於て罪を犯せる者ゝ五万五千人ゐ過き夏ゐ於て罪を犯せる者ゝ僅かゐ四五千人ゐも及ゝす又治安を妨害し政府ゐ反對し宗教ゐ背反する罪ゝ夏分より冬分ゐ多し以上の事實ゐ因て觀察を下すゐ寒き時節は衣食ゐ闕する罪を犯す者多く熱き時節ゝ意志情感の制止す可らさるか爲めゐ罪を犯す者多きを知るへし

魚類も亦た睡眠す

魚類も亦た陸地の諸動物の如く睡眠するものゐりとゝ有名ゐるアリストートルの二千有餘年前ゐ說けるゐ所ゐて近世の學者も亦數々此說を唱ふるとゐるゐ曾て英國のコーツ氏が實驗せし所ゐ據るゐ河魚ゐてゝ鮒、鯉、鰤魚、鯇魚、鯛魚の類海魚ゐてゝ鱧、沙魚、鱸の類ゝ皆ゐ陸地の動物の如く時を定めて睡り金魚、鮟鱇、鯉、の類は時々休息するのみゐて曾て睡るとゐし又陸地の動物ゝ皆ゐ夜中ゐ睡るを常とすれ共魚類ゐ至てゝ其の睡眠時をゞ強ゐち夜中ゐのみ限るものゐゐらすと云へり又或人の說ゐ據るゐ魚類の如き劣等動物の腦漿ゝ極めて小ゐるものゐて之を勞するとも亦極めて少きか故ゐ固より他の諸動物の如く熟睡して十分ゐ之を休息せしむる程の必要もゐきゐり左れゝ其睡むり居る時の有樣と覺め居る時の有樣とゐゝ其間ゐ左して著るしき相違もゐらずして殆ど之を見分け兼ぬる程ゐりと云へり

鼻の大小と心の智愚との關係

古來人の智愚賢不肖ゝ鼻の形ゐ因て判斷し得へきものゐりとの說を唱ふる者甚た多し今ま某論者の說く所を聞くゐ曰く鼻の形の大小如何ゝ頗る吾人の注意を要するゐ足るべきものゐり造物者の意若し鼻を以て單ゐ物の香を識別するの機關たらしめんとするゐゐらゝ唯た此目的ゐ應すべき二個の孔を面上ゐ穿てるのみゐて足るべき筈ゐり然るゐ造物者の之を爲さすして面上ゐ一段高く鼻の形を造り爲したるは必す其の謂れゐくんゝゐらさるゐり余を以て之を云ゝしむれゝ造物者の意ゝ鼻を以て物の香を識別するの機關たらしむると共ゐ兼ねて之をして智力の多少如何を表彰せしめんとするゐゐりと云ゝんのみ蓋し古來の事實ゐ徵するゐ智力の多少如何は多く鼻の形ゐ因て判斷し得へけれゝゐり古代の波斯人ゝ國王を選立するゐ方り鼻の大小如何を見て其の可否を定めたりとゝ嘗てポシドニアスの說ける所ゐるゐ近世ゐ至りても同國ゐては鼻を重んすると甚しく士君子の間ゐて人を賞揚するゐゝ常ゐ其鼻の肥大ゐる旨を說くと云ふ又た古代の埃及ゐても多年の經驗ゐ因りて鼻の

大なる者い智者なりとの事を究め知り彫刻畫圖ゐ於て也智者たるとを示さんか爲めゐい鼻の大なる像を刻み若くい畫くを常とせり猶太人の如きも鼻を重んせると甚しく苟も鼻ゐ就て欠點なき者ゐあらすんは僧侶たるを許るさゝるの國法さへありし程なり古代の羅馬い彼ゞの如き强盛を極めたり而して羅馬人の大なる鼻を持ち居たるとい明白の事實なり亞非利加の土人い蠢愚ゐして奴隷の苦役ゑ服す而して其鼻を見れは低くして平たし支那人い皐屈怯弱なり而して其鼻を見れい低くして短かし又以て鼻の形の智愚勇怯ゐ大關係あるを見るべきなり

扨又古來の俊傑ゐ就て鼻の大なる者を擧けんゐ詩家ゐてい羅甸の詩家中ゐて巨擘の稱ゐるオーヴィッドあり同人の鼻い頗る大ゐして人皆ゐ仇名してナッー（鼻）〳〵と呼びしが時の天子オーガスタス帝いオーヴィッドの鼻の如何ゐも美事なるを嫉みて遠く之を露西亞の寒地ゐ追放したりと云ふ政治家ゐてい英國のピット及びバローハムの如きい極めて大なる鼻を具へ一見して其の才智雄辨を推知し得可かりしなり軍人ゐて昔しの亞歷山より近世のウエルリントンゐ至る迄凡そ名將と稱する者の中只た一人を除くの外い皆ゐ大なる鼻を有せり一人とい誰ゞ一世那翁則ち是なり尤も那翁い鼻の大なる者い智者なりとの事をは悟り居たりと見へ常ゑ人ゐ語るゐ「余い智慮を要すべき事務を爲さしめんとする時い常ゑ鼻の長大ゐして其道ゐ慣れ居る者を選任するとなるゞ必す能く其用ゐ堪ゆるなり余の多く人ゐ接して經驗する所ゐ據るゐ長大の鼻と秀英の智とい互ゐ密接の關係あるを見るなり」との旨を以てせりと

無舌の人必すしも無言ならす

舌い語言を發するゐ必要欠くべからさる機關ゐして若し之れなけれい人必す無言ゐして終らんとは今日世人の一般ゐ信する所なれども廣く古今の實例ゐ徵して之を觀るゐ無舌の人未た必すしも無言ゐして終るべしとも斷言すへからさるか如し昔時耶蘇教の尙ほ世ゑ邪宗と呼ばれ居たる頃布教の爲め諸國を巡歷せる六十名の教徒い某國王の爲めゐ捕へられたる上悉く舌を斷ちて放たれしかども是等の教徒中ゐい後ゑ至りて發言の力を回復して再ひ說法を始めたる者ありと云ひ又た羅馬法皇レオ三世の如きも邪宗を弘むる不逞の徒なりとして同しく舌を斷れたるとあれども後ちゐい終ゐ其の談話力を回復せりと云ふ右い甚た奇怪の妄談なるか如く思いるべけれども近世諸大家の實驗せし所ゐ據れい是れ亦た敢て奇怪の妄談とおすべからさるなりジョン、マルコム氏の言ゐ據るゐ同人の手を下して舌を切斷せる一人の患者い其後同人ゑ對して談話するを得るゐ至れりと云ひプロフェッソル、ハクスレー氏い外科術ゐ巧みなる某醫師ゞの出來得る丈十分ゐ其舌を切取りたるゐも拘はらす或る患者い少しく困難の樣子あるのみゐて談話を爲し得るゐ至れり尤もDとTの兩音い之を發する能いさりしとの事を語れり又ジャシェン氏い生れなからゐして舌の無き女子ありしゞ年齡十五歲の頃よりい少しゞ、語音を發し得るゐ至れりと陳べたり又一千七百四十二年英國の諸大家ゞの立合の上ゐて試驗せるマルガレット、カッチンゞなる者い舌根の全く之れあらさるゐ拘はらす常人の如く澱みなく談話するを得たりとて今ゐ傳へて著名なりとなす

人間ゐも角を生するとあり

人間ゐも角を生するとありと聞かい人皆ゐ其奇ゐ驚き容易ゐ信ゐ措かさるべしと雖も左れいとて此事ゐ關する實例の古今ゐ少からさるを見れい强ち世ゐあられ間敷きの事ゐもわらさるべき歟嘗て英國リバプール港の近傍なるソーゴールの住人ゐマリー、ダヴィスと云へる婦人ゐあり年齡廿有餘歲の頃より頭の後の方ゐ二箇の瘤の如きものを生し廿八歲の頃ゐい其形ち恰かも小なる角の如くなりしかい後ち五年を過き三十三歲の時ゐ至り一たび之を取去りたるゐ更ゐ又其跡ゐ同樣のものを生せしかい尙ほ再ひ是をも取去りたり尤も其後い絕て之を生するとなくして婦人い七十四歲の齡を保ち千六百八十八年ゐ至て死去せし由同人の角は今尙ほ英國の博物館ゐ保存しゐりと云へり又た蘇國エヂンバーグ府の書籍館ゐ保存しゐる長サ二三寸なる一本の角い年齡五十歲なる婦人の頭ゐ生し居たるを千六百七十一年ゐ切取りたるものゝ由ゐて此婦人い其後尙ほ二十歲の齡を保ち七十歲ゐ至て死去せりと云へり又た佛國のメジエレス村ゐ生れたるフランシスカス、トロヴァルロンなる者の額上ゐは年齡七歲の頃より一種の瘤の如きもの

を生して十七歳の頃ゐい其太サ大人の指程ゐあり三十五歳の時ゐい太サ幷ゐ形とも恰かも羊の角ゐ似寄れる程のものとなりしゑ後ち幾もなく千五百九十八年ゐ至り同人い巴里ゐて二箇月間覩せ物ゐ出て夫よりオーリアンスゐ幷ひ行かれしが其後間もなく同地ゐ於て死去せりと云ふ又英國のゼントルマン雜誌の記者は嘗て佛國のダリエン地方ゐて手足の指より骨の如く又角の如きものゝ生し居たる女子を實見したるとありと云ひ愛蘭のウォーターフォルドゐい生れて後ち間もなく頭及ひ腕、足、手、指、等の節々より羊の角の如きものゝ生したる女子ありし旨を其紙上ゐ記載したり

望遠鏡工夫の起源

望遠鏡ハ偶然の事より思ひ付て工夫せしものなりとい世人の一般ゑ許す所なるも其工夫者の事ゐ關してい諸說の傳ふる所區々なり左れども諸說中ゐて最も廣く世ゐ行わるゝは和蘭ミッドルバーの眼鏡師ザガリア、ジャンセンゐ關する所の說なるか如し今を距ること二百九十七年即ち千五百九十年の頃なりとか或日ジャンセンの子供等い父の細工場ゐ集りて樣々の遊戯をなし居けるゑの偶〻其中兩人の子供い各々ガラスの碎を指ゐて持ち双方少しく間を隔てゝ起ちなから戯れゐ兩ガラスを通して近隣なる寺院の風見を眺めたるゐ其影甚だ大きく且つ顚倒ゐなりて見へしとて訝しさの餘り之を父ゐ、語りしゐ付きジャンセンい右のガラスを取上けて之を檢べたるゑ一片い凸形ゐて一片い凹形のものたるとを見出せしかい夫より不圖望遠鏡の工夫ゐ思ひ當り其後段々と實驗を施し工夫を凝せし後遂ゐ長サ三四寸位の木の管ゑガラスを嵌込みて一種の望遠鏡を製し好事家の玩具として之を市ゐ鬻さけるが是ぞ則ち望遠鏡工夫の起源なりと又た一說ゐい和蘭のガラス屋ゼームス、メチアスの弟ゐてガラス及ひ眼鏡細工を業とせる數學々士某こそ前ジャンゾンの話の如き偶然の事より思ひ付て望遠鏡を工夫し始めたる者とも云ふとも

爪の生長する割合と其の遲速

爪の生長い元と身体の強弱如何ゐ關するものゑて身体強壯なれい其の生長隨て速かゐ身体虛弱なれは其の生長隨て遲きと勿論なれども是迄諸家の取調へたる所ゐ據れい指の爪い大抵一週間ゐ二厘六毛の割合ゐて生長し之を一年ゐ積れい凡そ一寸三分五厘の長サゐ達すべき算なり而して夏の間は冬の間よりも其の生長殊ゑ速かなりと

バーソルド氏の說

バーソルド氏の說ゐ據るゐ左右の手ゐより又た其の五本の指ゐより各〻其爪の生長ゐ遲速の差異あるとゑて右手の爪い左手の方よりも生長速く又五指の中ゐて最も生長の速きい中指の爪ゐして其の最も遲きい拇指の爪なりと云へり左れどベンハム氏い稍や之と其說を異ゐし左右兩手の爪い共ゐ同一の割合を以て生長するものゐて其間ゐ遲速の別ゐるなく又五指の中ゐて生長の最も遲きい小指の爪なりと云へり尤も中指の爪を以て生長の最も速かゐるものなりと云ふゐ至ていい二氏共ゐ其の說を同ふせり

髮の沿革

古昔い諸國皆ゐ蓄髮の風習を備へ居りて痛く髮を剃落すことを賤めりと雖も獨り埃及人い諸國の風習ゐ反して髮を生やすを賤み奇麗ゐ之を剃落し居たるとなり同國人の髮を生やし居るい唯た不幸の時のみゐ限り其他い如何なる場合ゐても髮を生やし居るといなちず若し人ありて其の髮を剃ることを怠り之を生やし居らんゐい忽ち世の物笑となりし程なり左れい埃及古代の彫刻畫圖の類を見るも其の行狀の疎放野卑なる者とゐれい必す髮を蓄へ居らすと云ふとなし紀元前三百年の頃い羅馬ゐても髮を剃落すとい一般の風習となり佛國ゐては路易十三世即位の時よりして此風大ゐ流行するゐ至れり英國ゐても古昔い諸國同樣ゐ蓄髮の風習を備へ居たるなれどもノルマン人の爲めゐ降伏せられし以來い同人種の風の如く其の髮を剃落すことなれり降てエドワード三世よりチャールス一世の時までは蓄髮の風大ゑ行われチャールス二世の時ゐ及んでい唯た口髯と頰髯をのみ生やすの習慣を生したり然れども是より後ち遠からすして髮を剃落すの風習復ひ歐洲ゐ起りて廣く諸國ゐ行われ一千八百五十四年ゐ起れるクリミア事件の頃よりい蓄髮の風亦た舊ゐ復して遂ゐ今日ゐ及べるものなりと

埋葬ゐ關する諸國の奇習

死者埋葬の儀式ゐ關しては諸國各〻其の國風を異ゐし中ゐい誠ゐ奇異なる風習を存する國も少からさるか茲ゐ其の著るしきものを擧けんゑ亞剌比亞其他回教を信奉する地方ゐていい死者を埋葬するゐ棺を用もるとなく唯死体を其のまゝ土中ゐ埋むるの風習ありグリーン

ランド人ハ死兒ヲ極樂世界ニ赴ク途中ノ案内者タラシムルノ意味ニテ小兒ノ遺骸ト共ニ犬ヲ埋メ露西亞人ハ天ノ入口ニテ神ノ使ニ手渡シスル爲メニトテ死者ノ手ニ其ノ性質ヲ記セル書附ヲ有たしめ濠洲ノ土人ハ死者ガ土ヲ掻分ケテ墓ヨリ外ニ出ルトカからしめんか爲めニトテ其ノ手ヲ縛リ其ノ爪ヲ拔去リテ埋葬ス往年ノ印度婦人ハ其ノ夫ノ死セシ時ニハ自カラ火中ニ投シテ死シ北亞米利加ノ土蠻ハ曾テ死者ノ遺骸ト共ニ食物ヲ入れたる鍋ト外ニ弓、矢、履ヲ埋メ且ツ履ヲ繕フ爲めニトテ鹿ノ皮ト其ノ筋トヲ添ヘたり支那ハ紙ヲ切リテ貨幣ニ擬らへ埋葬ノ節墓地ニ到るノ途中ニテ之ヲ撒散らすノ風習アリ蓋シ死体ニ伴ヒ往ク所ノ惡魔カ此ノ貨幣ヲ拾ヒ取らんとて走セ廻る中ニ棺ニ後れ遂ニ其ノ行衛ヲ見失フニ至ると云フノ心より斯くアスものアリ又同國ニテハ紙ニ畫ける奴僕ノ像ヲ墓ノ上ニテ撒散らすとアるガ是レ畫像ノ奴僕等カ死者ノ精靈ニ伴フテ其ノ用ヲ辨すとノ意味より起れる風習アリ

○獨身者ノ責任

佛國カ獨身者ニ獨身稅アる者ヲ課するより外今日歐洲ニハ獨身者ニ關シテ特別ノ法律ヲ設け居る邦國ハアらされども古來曾テ之ニ關して何等カノ法律ヲ設けさりし者とテハ又た殆んと稀れアり就中古希臘ノ強國スパルタニテハ獨身ノ生活ヲ營む者ヲハ一種ノ犯罪者ト看做して處分し古羅馬ニ於ても共和政治ノ頃ニハ獨身者より罰金として金錢ヲ取立たるとアり近世ニ至りても英國ニ於テハ獨身者ト妻帶者ノ間ニ法律上ノ區別ヲ立て獨身者ノ責任ハ妻帶者よりも重大アらしめたるとノ前後三たびニ及べり先つ第一ニ千六百九十五年ヲ以て英國政府ハ新稅ヲ徵收して佛國ニ對する軍備ニ供せん爲め婚姻、出産、埋葬及ひ獨身者、寡婦、等ニ關する稅則ヲ布告したり此の稅則ニ據れハ年齡廿五歲以上の獨身者ハ公侯伯の爵位ヲ有せる貴人より無位無官の平民ニ至るまで各〻其の身分ニ應して年ニ廿五錢以上六十圓以下の稅ヲ納むべき筈アりき第二ニハ千七百八十五年ピット執政の時ニ政府の布告せる下婢稅則ニ於テハ小兒二人以上を有して下婢唯た一人を雇ひ居る者ヲハ免稅の部類ニ組入れたり而して此の免稅ニ因て生すへき不足を補ハんが爲めニ政府ハ獨身者の戶主ニ課稅するの法を設けたり第三ニハ千七百九十八年同しくピット執政の時ニ政府の布告せる所得稅則ニ於テハ小兒の數と所得高との割合ニ準して幾分カの稅率を低くすると

とせり左れハ此の場合ニ於ても自然獨身者ハ妻帶者の受け得べき寬典を受け能ハさるの地位ニ立ちたるものアりとせるなれハ

夢中ニ於ける智力の働き

人の智力ハ間〻夢中ニ奇功を現ハすとアるものニテ人或ハ睡眠中ニ豫て苦心し居れる詩作文章を成就し若くハ難問を解き得るとアりとの話ハ支那日本の文學士中ニも往々之れアるとアるガ西洋の文學者及ひ心理學者の說く所ニ其例多く有名アる學者ニして自ら此の境遇ニ出逢へる者も少からすカバニスの言ニフランクリン氏は其の腦漿を疾ましめたる大難問ニ就て數々夢の助力を得たるとアりと語れりと又コンヂルラク氏ハ文章を草するの際間〻我カ意ニ滿たさる章句を其儘ニ打棄て置きて夢中ニて右の不完全アる章句の趣向をバ立派ニ組立て得たるとアりとの旨を自記せり又ヴォルデール氏ハ睡眠中ニ詩を作り覺めての後までも明らかニ之を記臆し居たるとアりと云フコーリッジ氏ハ一夜夢中ニ長詩を作り覺めての後も尙ほ之を記臆し居たりしかハ直ちニ筆を執て之を筆記し居たりしニ其時偶ま急用出來して外出し一時間の後家ニ歸て前句の續きを認めんとせしかども最早や之を忘れて再ひ想ひ起すとを得さりしと云フサー、トーマス、ブローン氏も我カ智力の働きハ寧ろ睡眠中ニ盛んアれハ若しも出來られ得るアらバ夢中ニ學を講せんこそ望ましけれと云ヘり

小兒童の發育と氣候の關係

和蘭の博士モーリング、ハンセン氏ハ濟きニ三箇年の間日〻四回づゝ男女の幼年生徒百三十名の身の丈及ひ体量を精査せし末遂ニ兒童の發育の有樣の氣候ニ大關係アるとを見出せり今ま氏が實驗せし所ニ據るニ夏季六七月の間ハ兒童の丈の延長する時節ニて九月十月ニ至れハ其の延長する割合大ニ減少して僅カニ夏の五分の一ニ過きす秋と初冬の間ハ兒童の肥へ太りて体量の增加する時節アれども此間ニハ更らニ丈の延ひ上るとアし寒中ハ丈の延長と体量の增加と交〻起るの時節ニて氣候暖かく天氣打續かハ体量增加し寒氣烈しけれハ身の丈延長する由アり又氏ハ唯り兒童ニ就てのみアらす樹木ニ就ても其の發育と氣候との關係を取調へたるニ其の延びると太るとの工合矢張り兒童と同一アるを見出したりと云フ此の說一たび出てより忽ち醫學社

會の大問題となり議論甚だ喧しかりしが若しハンセン氏の實驗せる所ゐして愈〻自然の定則なりと定まりたるゐん兒童を養育するゐ就て稗益を世人ゑ與ふると少からさるべし

○歐洲の鬘の事

嘗て盛んゐ英佛の上流社會ゐ行われ今ゝ重もゐ法官の着用品となり居る所の鬘ゝ元と古代の埃及ゑ行われたるものゐて中世ゐ至り歐洲ゐ於て之を用ひ始めたるゝ佛王〜ンリー三世なり王ゝ曾て病癇の爲めゐ多く毛髮を失へるゐ因り其の禿頭を隱さんとて試みゐ鬘を作りて着け見たるゐ体裁最も其意に適ひしかゝ更らゐ長髮の鬘を製して常ゐ之を着用するとせり次て宮中の諸役人等も一は其の体裁の宜しきと一は王ゐ阿ねるか爲めゐ同しく之ゐ倣ふて鬘を着け終ゐは宮中の式會等ゐ出席する者ゝ何人ゑ限らす皆ゐ鬘を着用するの風習を生したり〜ンリー十五世ゝ白髮の鬘を製して着用したるゐ貴族等皆ゐ之ゐ倣ふて白髮の鬘を着け後ち終ゐ宮中ゐ勤仕する者ゝ一般ゑ之を用るとゐゐれり〜ルサ十三世の頃ゐゝ絹糸製の鬘流行し同十四世の治世ゐゝ長髮の鬘を着用せる者極めて多く修髮の長く垂れて背部の中程ゐ達せる鬘を着け居たる者ゝ少しも珍らしのちぬとゐりし鬘の佛國ゑ流行し始めたる後ち間もゐく此の流行ゝ忽ち海峽を越へて英國ゐ入り上流社會の人々ゝ多く之を着用するとなれり女王アンチの治世中ゝ内閣の大臣、府縣の知事、貴族、僧正を始め其他民間ゐても然るべき身分の人々ゝ孰れも鬘を着け居たるとゐて其頃の學者ゐどの畫像を見るも概むね皆ゐ鬘を着用せさるはゐし而して此の風習ゝ本世紀即ち千八百年代の初め頃までゝ廣く英國の上流社會ゐ行われ居たるものゐり

○脉の度數ゝ身体の位置ゐ因て變す

身体の位置ゝ体脉の度數ゑ著るしき關係を及ぼすものゐりとゝ世人の常ゐ云ふ所ゐれども此事ゐ關してゝ未た精密の調査を遂けたる者ゐらさりしゐり然るゐドクトル、ガイ氏ゝ嚮きゐ体脉の度數ゝ身体の位置ゐ因りて幾何の差異を生するものゐりやとの事を究めんか爲め他の諸學士と共ゐ數多の實驗を施し遂ゐ男子の方ゐゐりてゝ其の起立すると着坐するとゐ因りて一分間ゐ脉數十度の差異を生し其の起立すると横臥するとゐ因りてゝ十五度の差異を生すれども女子の方ゐゐりてゝ其の差異男子の如く甚しからすとの調査を遂けたり今まガイ氏等の實驗せし所ゐ就て一分間ゐ於ける男女の脉數を觀るゐ起立の時は男は八十一度女ゝ九十一度着坐の時ゝ男ゝ七十一度女は八十四度横臥の時は男ゝ六十六度女ゝ八十度ゐり而して前記する如く男女共ゐ身体の位置ゐ因りて其の脉數ゐ多少の差異を生するゝ則ち筋力の働を要するの多少如何ゐ因るものとす左れゝ横臥の場合ゐゝ身体を支ふるか爲め幾何か其の働きを要すの場合ゐゝ殆と筋力の働を要することゐきも着座するとゐれゝ脉數も亦た隨て多く起立の場合ゐゝ之を要すると更ゐ多きが故ゐ脉數も尙ほ一層多き譯ゐりと

職業世界ゐ於ける女子の進歩

僅かゐ十箇年前の頃までは歐洲諸國ゑても女子の職業と云へゝ教師か針仕事か否らされゝ製造場の職工か下女奉公の外ゐゝ殆んと之ゐく學術技藝を基として稍や高等の職業を營む者とてゝ誠ゐ寥々たるの有樣ゐりしも爾來女子の職業は日ゐ月ゐ進歩して稍や高尙ゐ赴むき今日ゐ於てゝ既ゐ講談辨論の速記若くゝ新聞通信の事を職業として生計を營み居る婦人も少からさるゐ至れり英國ゐ於ける職業の種類凡そ四百種の内ゐて女子の手づさゝり居らさる職業とてゝ僅かゐ七十種ゞかりゐ過きす其他ゝ何職業ゐても多少女子の與かり居らさるものゐき有樣ゐり就中前十箇年間ゐ增加の最も著るしかりしゝ女子の著述家及ひ新聞記者ゐて之ゐ次く者ゝ書店、出版及ひ帳合方を業とする者ゐり現ゐ英蘭ゐ於て著書新聞の二業ゐ從事する者ゝ無慮四百五十人ゐて書店出版の業を營む者は凡そ千五百人、帳合方を業とする者ゝ三千二百人ゐり尙ほ此外ゐ今日英蘭ゐ於て教師を職とする者ゝ十二万四千人ゐり仕立屋、小間物屋、縫物師を業とする者ゝ合して七十万人ゐりて下女奉公をゐす者ゝ百廿五万八千二百八十五人ゐすとり

○禽獸ゐも笑ふ者ゐり泣く者ゐり

動物中ゐて笑ひ又た泣く者ゝ獨り人類の一種族ゐるのみ」とゝ先哲ホップスの嘗て唱へたる所ゐり然れども後世の諸學者の所說ゐ就て觀るゐ禽獸中ゐも人類の如く悲喜の感情と此感情を聲色ゐ表ゝすべき身体の仕組とを具へ居りて或ゝ笑ひ或ゝ悲むもの甚た少からす笑顏、笑聲をゐす諸動物の中ゐて最も重もゐるゝ猿の

諸種類あるゐ特あチンパンヂー及ひオラングタングの如きを以て其の著るしきものとあす曾て倫敦の動物園あ養ハれ居たるオラングタングハ見物人を笑ハさんか爲めあ種々滑稽の擧動をあし其の笑ひ興するを見ていたれも亦た笑ひ戯むるゝを常とせり犬は自から笑ひ興するのみあらす能く人の笑顔笑聲を辨別して是ハ歡ぶものあり是ハ嘲けるものありとの事を知り又種々の擧動をあして人の笑を求めんとす而して若し我か意の如く人をして笑ハしむる能はすんハ大あ失望の色を現はすとあるものあり其他馬の人を蹴て歡ひ笑へるものありとの話ありゴリルラ及ひチヽーの如き猿の諸種類ハ概むね皆あ能く笑ふものあり鳥類の中あて最とも能く笑聲を發するものハ鸚鵡ありホワイト氏の記する所あ據るあ啄木鳥及ひ鵲は能く笑聲を發するものあるか就中鵲ハ左も嬉し氣あ笑聲を發するものあて之を聞く者ハ殆んと笑を忍ふ能ハさる程ありと云へり又燕ハ笑聲を發するものありとの話少からすハイエナ及ひキングフヰシェルハ共あ笑鳥の異名あるものあり

犬、馬、牛、羊、猫、鼠、象、熊、驢馬、騾馬、鹿、駱駝、ジラッフ及ひ猿の諸種類等ハ孰れも悲哀の感情を發すると共あ涙を垂るゝものありバルトン氏ハ亞非利加の或る沙漠あて渴を憂へて頬の邊まで涙を垂らし居たる駱駝を見たりと云ひ又た騾馬か足痛あ堪へすして兩眼より涙を濺き居るを見たりと語れる者ありドクトル、ボーレーヂ氏ハ瓜哇島あて一疋の牝猿を銃射せしあ銃丸命中して猿ハ小猿を抱けるまゝ樹上より落ち來り最も悲哀ある聲色をあして其塲あ斃れたりと云ひゴルドン、カンミング氏ハ象の將さあ死せんとして無量の涙を濺ける旨を語れり其他ジラッフハ銃丸あ中りて涙を垂れ親鼠か子鼠の水あ溺れ居るを見て流涕せりと云ふか如き話ハ殆んと數へ悉くされぬ程あ澤山あり又鳥類の中あても鸚鵡の如きは涙をこそ濺かざれスヽり泣きして悲哀の感情を表するあ至てハ更らあ他の諸動と異あることとあし

蛭の擧動を見て氣候の變化を豫知すべし

蛭ハ氣候の變化あ感すると特あ著るしきものありとハ世あ傳へ云ふ所あるゐ英人ロバーツ氏ハ曾て蛭ハ氣候の變化すべき前兆を示すものあて之を用ひて一種の測候器を作り得へきありとの旨を辨せり其說あ云く先丈高き氷砂糖の空壜を取りて之あ小さき孔の幾個も穿ちある錫製の蓋をかふせ壜の底あハ泥炭を敷き詰め且つ二三の滑かある小石を並べ置くべし扨て此の壜の出來上れる後ち其中あナマ緩き水を入れ水の澄み切るを待ちて二三の蛭を放つべし斯くあし置く時ハ氣候の靜穩清爽ある間は蛭は壜の底あ動きもやらす靜まり居れども雨雪抔の降るべき前あハ忽ち壜の頂上あ昇り天氣の常あ復する迄ハ依然として此の處あ止まり居るあり其他暴風雨の前あハ活潑あ水中を走せ廻り雷雨の前あハ左も心配らしき風情あて壜の中をウチリ廻り頻りあ水より外あ昇り出んと力むるゐど極めて能く氣候の變化すべき前徵を示すものあり元來蛭ハ炎熱の氣候あ堪へ忍ぶとを難んするものあるか故あ夏分の間ゐどハ風通しよくして冷しき塲處あ壜を置き蛭をして成るべき丈炎熱を避けしむる樣注意すると肝要あり又壜の氷ハ二週間目毎とあ新水と取換もへし

茶珈琲、チョコレートの試驗

佛人スタニスラス、マルチンと云へる者曾て佛國の某新聞あ投書し近年英國あ於て茶か珈琲及ひチョコレートよりも大ある勢力を得るあ至れる所以を辨明せり氏の言あ據れは或る時英政府は死刑の宣告を受けたる重罪犯三名を呼ひ出して汝等ハ法の如く絞罪あ處せられんとを望むや但しは又學術上の試驗あて死するとを望むやと尋ねたるあ孰れも皆あ後者の方を擇む旨を答へしかは政府ハ直ちあ三名の者どもを或る學士あ附して學術上の試驗をあさしむるとせり依て學士は茶、珈琲、チョコレートの三飲料ハ如何はどまで永き間、人命を繫き得るものありや又三飲料ハ如何ある結果を人体の上ゐ生するものありやとの事を試驗せんか爲め甲ゐハ茶、乙あハ珈琲、丙あハチョコレートを與ふるのみあて其他の飲食物ハ一切之を與へさるとせり然るあ甲ハ三ヶ年の後あ至り僅かあ骨と皮を存せるのみあて絶命し乙ハ二ヶ年目あ至り内部より生するホテリの爲めあ身体燒け爛れて死し丙ハ八ヶ月の後身体腐敗し多くのウジ虫を生して相果てたりと云ふ

霰ハ森林の中あ降らす

端西國オールゴー區の森林務官長リニカー氏ハ曾てジエチバ府あ開ける端西地學協會の講談席あ於て霰ハ森林中あ降らすとの旨を演說して大あ世人の注意を惹き起せり氏ハ其說を証明する爲めあオールゴー區の南方あ在る山林リンデンバーグの事を擧げて云く往年此の山林の樹木滿茂して更あ空地を止めさりし頃は霰の其中あ降るとあかりしあれども二十年前一たび樹木を

伐て二箇の空地を開きたる以來い霰の此空地ゐ降ると恰かも尋常の地面の如くあるゐ至れり然れども爾後數年を經て右の空地の大ある方ゐい總て樹木を植付け之を在來の山林ゐ連續せしめたるゐ霰も亦た更らゐ此地ゐ降下せざると故の如くあるゐ至れりと而してリニカー氏い之ごの源因を電氣の作用ゐ歸して云く抑も霰と樹木とい一方い積極一方い消極と各〻反對性の電氣を帶ぶるものゐて此の兩電氣の相和合する時い則ち水分子の結晶を妨ぐるゐ十分ある熱度を生ず左れば夫のリンデンバーグの山林中ゐ落ちんとする霰の如きい此の兩電氣の和合より生せる熱度ゐ出逢ふが爲め其の地上ゐ降らんとする途中ゐ於て自から融解するものあるべしと

○いい幾何の熱度ゐ迄堪へ得る者ありや

何度位の熱度ゐまで堪へ得る者ありやとい屢〻起る所の疑問ある人い意外ゐ高き熱度ゐまで堪へ得る者あり夫の見世物場ゐ現いれて烈火を弄する所の火技師抔ゐい隨分三百八十度位の熱度の中ゐ五分間も止まり居る者もあれど元來火技師抔の中ゐい藥劑其他の手段を用ひて熱度を冷ますの工夫をなす者多きの故ゐ此等い先つ例外として差措くも寒温計三百廿度乃至三百四十度位の熱度ゐい平人と雖も敢て堪へ得べからざるゐもあらざるの如し英國の有名ある塑像師サー、エフ、チャントレーの細工場附の火燒所い竪二間、横二間三尺、奥行二間ゐて若し其戸を閉ちて十分ゐ火を燒き付れい三百五十度の熱度を生せしむるを得べきものあり然れども同細工場の職工等い熱度三百四十度位の時あれい屢々兩足ゐ木屐を穿てるのみゐて火燒處の中ゐ入るとあり但し火燒處の鐵床い熱して赤色ゐ變し居るか故ゐ木屐の表面い無論燒け焦かるゝと知るへし又或る時いチャントレー自身も數名の朋友と共ゐ火燒處ゐ入り三百廿度の熱度の中ゐ二分間止まり居たるとあり其節連中の内ゐは或い耳の端或い鼻の先或い眼部等ゐ痛みを生せる人々もありしが其の他ゐい何等の異狀もなかりしと云ふ

○彗星の事

古より今日ゐ至るまで數千年間ゐ此の世界より觀察し得たる彗星の數い極めて多かるべしと雖も現ゐ志書の載する所ゐていい其數凡そ九百内外ありとす扨て此の數百の彗星ごの其軌道を一周すへき時間い遲速長短まち〻ゐて各々同しからす例せは千八百十八年ゐ現いれたるエンケ星い千二百七日半則ち三年三箇月廿二日半を以て其軌道を一周すべき算あるゐ千七百四十四年ゐ現いれたる六尾の彗星は軌道を一周すべき算ある十二万二千六百八十三年を費さねはならぬ算あるゐ十二万二千六百八十三年を費さねはならぬ算あり又諸星の大サの異あれるとは右の軌道の一周期と同然ゐて千八百十一年ゐ現いれたる彗星の如きい其の實体の直徑僅かゐ四百廿八英里ゐ過ぎさりしも千八百四十三年の有名ある彗星い二億万英里(凡そ我か八千万里)の長尾を引き居たる程ゐ大なるものありしと天文學者い說を爲して云ふ太陽の熱い固より無盡藏のものゐあらざるべけれい之を永遠ゐ保持せんとするゐは必す茲ゐ洪大無量ある薪炭の供給あるべからす蓋し夫の彗星の如きい此の薪炭の用をなさんの爲め行く〻は皆ゐ太陽の方ゐ吸ひ寄せられて燃へ了いるとあるへしと

簡便ある驗震法

瀘車或い馬車其他何物かの土地ゐ與へたる震動を測知するゐい通常先つ地震用の驗震器を用ゆるとあれども響さゐプロフェッソル、ポール氏い此の震動を驗測すへき一の新法を案出したり其の方法と云へるは誠ゐ無造作あるものゐて唯た長サ四尺五寸程の手丈夫ある棒杭を地中ゐ埋め込み、此の棒杭の頂上の地上ゐ現いれ居る所ゐ錫を混和せる水銀を器ゐ盛りて載せ置けい夫れゐて宜しきあり扨て此の水銀いキラ〻として鏡の如くあるか故ゐ近傍ゐあると有らゆる物体の影い明瞭ゐ器の表面ゐ映るあるべし斯て土地の靜穩ゐして震動あき間い右の物体の影は鮮明ゐ映り居るべしと雖も若し少しゐても土地ゐ震動を生する時い器中の水銀い忽ち動搖を生すべきか故ゐ物体の影も之と共ゐ動搖して是迄の如く明瞭ある能いさるべしポール氏い右の方法を以て瀘車及ひ馬車の爲めゐ生せる震動の有樣を驗測せるゐ急行列車ごの距離五町の所を進行する時ゐい其震動の爲めゐ二三分間も水銀を動搖せしめ一匹立の馬車が距離壹町廿三四間の所を駛行する時ゐい其の車輪の石ゐ乘掛くる度ごとゐ水銀の動搖を生せしめたりと云へり

壜の色と流動物の關係

硝子壜の色い太陽の光線と相結ひて一種の化學上の作用を起し爲めゐ壜の中ゐ入り居る酒類其他の流動物の味ひゐ至大の關係を及ぼすものありとい近年化學者の實驗上より知り得たる所あり今ま其の實驗せし所ゐ就きて壜の色の流動物の爲めゐ宜しきものと惡しきものとを區別せんゐ鳶色、綠色、橙色、黃色、煤色の如き類い總て流動物を永く保存し置くゐ適當ある色合ゐして白色、藍色、桔梗色の類い流動物の爲めゐ宜しからさるものあり就中白色の極ある無色の壜い流動物の味ひを變

せしむると特に甚しきものにて如何なる美酒にても一旦無色の壜に入れて暫らく日光の當る所に曝らし置く時に忽ち其の味ひを變して一種の惡味を帶ふるに至る然れども之に反して鳶色若くは綠色の壜に酒を入れ置く時は如何に烈しき日光に曝らすとありとも更らに其の味ひを變せしむることなしと云ふ

ク(此支流も古代に船舶を通せしめたれども今日に土砂の爲めに埋もりて通船の用をなさず)の所にまで進み茲にてナヰル河と連續し夫より今日埃及人のワジー、トユバット(七ツ井の谷)と稱し居る所に出て遂に地中海に注き込みたりしなり又此の大土功に就きて死亡せる工夫に十二万人もありし由なるがナヰル河より遠隔せる地方にて飲水の欠乏を告くること少からされに此の十二万人中の多數に恐はらく飲水欠乏の爲めに死亡せしものならんと云へり

○人の面の長さを以て全身の割合の尺度とする事

人の面の長さを尺度として全身の長さを計るに先つ額より腮までの間に其人の面の長さにして是を一とす則ち全身の割合を計る尺度なり腮より首の付ケ根までが面の三分之二、首の付ケ根より鳩尾までが面の一ツ、鳩尾より臍までの一ツ、臍より股までが一ツ、股より膝の上までが二ツ、膝節の丈の面の二分之一、膝の下より黑節までが二ツ、黑節より踵までが面の二分之一に當る又た頭の頂上より額までに面の三分之一なり故に頭の頂上より踵に至るまでの全長に恰かも面十箇に相當するなり又た人が其の兩腕を左右に張り延ばせる時の横巾に恰かも其の全身の高さに

ファウンドランドのトリニチー灣に至る迄太西洋の水底如何なるやを見るにヴァレンシアより東の方凡そ二百英里(我百六十里許)の所までに段々と下り既にあり居れども既に此の間を過ぎて中央太西洋に出つれば水の深さ一千丈乃至一千五百丈にも及べども其の水底は極めて平坦にして殆と高低をも見分けかぬる程なり中央太西洋よりニウファウンドランドに達すべき三百英里(我二百四十里許)の間に上り坂にて大陸に近づくに隨ひ土地の段々に高まり居るを見るにあり若し夫れ太西洋の海水をして悉く乾涸せしむるを得べしとせは馬車に駕して歐米二洲の間を往

來するも敢て難きゐあらさるべし蓋しヴァレンシアゐより中央太西洋ゐ出つべき一峻坂を下らんとするゐ中は車輪の輾轉を緩むるゐスキッド（坂抔を下る時ゐ車輪ゐ掛ける鎖）を用もるの必要もあらんかあれども其他ゐい左して上り下りゐ難澁ある坂道とてもあらされは既ゐ此の一峻坂を下れる以上い米洲ゐ達するまで至て穩かゐ轔しり行くを得へしと

魚類の堪得る熱度

英國南ケンシントンの水族館ゐ於て魚類い何程までの温度ゐ堪へ得る者ありやを確めんか爲め嘗て鯉、鯊魚、デース及ひミンノー（共ゐ鰯魚の類）鮒、鱸、鯨魚、金色鯨魚、鮭、等ゐ就て其の試驗を行ひしとあり試驗者い先つ右等の魚を冷水の中ゐ入れ置きたる後ち管を以て水中ゐ少しづゝ湯を注き込み段〳〵ゐ其の温度を増加したり初めの間い衆魚更らゐ難澁の樣子を示さゝりしが温度既ゐ八十二度ゐ上るや先つ第一ゐ鱸ゐ横さまゐ倒れしを始めとし引續きて鮒は八十二度半、鮭い八十三度、ミンノーい八十五度、鯊魚い十五度半、デース魚い八十六度、鯨魚及ひ金色鯨魚は共ゐ八十八度、鯉は九十一度ゐ至て何れも腹反りをゐせり又試驗者い序てゐ倒れたる魚を回復せしむるゐブランデー酒の有効なりや否やを試驗せん爲め水中ゐ少量のブランデーを滴して之ゐ魚を移し置き暫らくして更らゐ之を大ある水瓶の中ゐ放ちたるゐブランデーの功力果して空しからす翌日ゐ至り唯た一のデースを除くの外い何れも皆ゐ全快して其の泳き廻る有樣毫も平日ゐ異ゐるとゐきを見たりと云ふ

口髯ゐ因て人の性質を知る事

人の性質は能く其の目付き鼻付き抔ゐ因りて判斷するを得へしとい廣く世ゐ傳へ云ふ所なるゐ夫の上唇ゐ生する口髯の如きも亦た能く人の性質を表いすものと云ふべし凡そ生へ方の規則正しくして直ぐゐる口髯を有する人は自から制するの力強く能く本心の命する所ゐ從ふて万事を處置し得へしと雖も口髯のソコ、コ、ゐ飛ひ離れて不樣ゐ生へ居る人い自制の力ゐ乏しく兎角ゐ情慾心の爲めゐ制せられ勝ちゐり又口髯の兩端ゐ上ゐチヾレ居ると下ゐチヾレ居るとゐ因りて性質の差異を表するものゐり則ち其髯の上の方ゐ向てチヾレ居らんゐは其人の性質い快活ゐして且つ榮譽を求むるゐ厚けれども之ゐ反して其髯の下の方ゐチヾレ居らんゐい其人の性質い沈默ゐして憂鬱の氣を帶ふるを常とす又人々皆ゐ其の口髯を捻るの癖あるが之ゐ捻るゐ方りて常ゐ其の先きを上の方ゐ向いしめんとするの癖ある者は性質善良の人たるべけれども之を下の方ゐ斜めゐ捻るの癖ある者い性質偏屈ゐして意地惡るき人なりと知るべし

高山ゐ於ける体脈及呼吸の有樣

英國の旅行者ウェッバー氏い「人い水準より高きと凡そ幾何丈の所までは棲息し得る者ありや又其の高處ゐ居る時の体脈及ひ呼吸の有樣い如何ありや」との事を究めんか爲め曾て自から高山ゐ上ほり之か實驗をゐせり其の言ゐ據るゐ氏い亞細亞の内地旅行中西藏國ゐ於て海面より高きと凡そ一千五百餘丈の高山ゐ上り數箇月の間其の絶頂ゐ棲息し居たり氏の体脈の度數い通常一分間ゐ付き六十三度ゐ過きされども此の山上ゐ住居せる間い其の度數の百度以下ゐ降れるとは殆んと之ゐく且つ呼吸の工合も亦た極めて急劇ゐして恰かも平時ゐ二倍する程の度數ゐ及べると甚た多かりき又た居る所の位地の高けれは高きほど歩行若くい疾走ゐ於て体脈及ひ呼吸の忙わしきを感すると益々甚しかりき之を要するゐ山上ゐて五十間の道を走れるか爲めゐ生せる体脈及ひ呼吸の忙わしさい水準の地ゐて五百間の道を走れるよりも尚ほ甚しき割合ゐるへしと云へり

吊禮ゐ關する諸國の奇習

吊禮ゐ關する諸國の風習も樣々ゐるゐ中ゐ往時埃及の婦人い頭髮を振り亂し胸部を現いせるまゝ町々を喚泣き走るを以て死者を吊らふの禮ありとし希臘ゐ於ていい一將軍の死亡するゐ方りては之を尊信せる配下の軍人等い自己の頭髮い申すゐ及べす我か乘馬の鬣を斬り去て吊意を表するとせり又今日ゐ於ても亞剌比亞の婦人い死者を吊する爲め手足ゐ青色の繪具を塗り死後八日の間い之を拭ひ去るとゐし又悲哀の爲め其の心情の暗く陰鬱とゐり居る際ゐ牛乳の如き白色のものを用もるい不釣合ゐりとて八日の間は之をも一切飲用するとなし支那ゐていい白色を以て凶事ゐ用もへき色と定む又た國法を以て人の子たり妻たる者い其の父母或は良人の死せる時ゐは必す喪ゐ居るべきとを命ず而して若し之ゐ從はさる者い遺法の罰を受くるとなりフッジー諸島ゐては人の死後十日目ゐ至れいい追吊の爲め女子が何人を問いす（位地高き酋長い格別ゐり）男子でさへあれば見當り次第ゐ苦うつの風習ありサンドウ#ッチ諸嶋ゐていい其の面の中程より下の方を一体ゐ黑く塗り且つ其の前齒を拔き去る後ち吊禮ゐ赴くを以て其の最も鄭寧ゐる仕方とゐす

○苦痛の情感を外に發するの利益

佛國の醫家某氏ハ人が心身の苦痛を感せる時ハ方りて泣き叫ひ或ハ呻き聲を發するの利を說き特ニ外科手術の場合ニ於テハ其の功驗の最も著るしき旨を陳へたり其說ニ云く外科手術を受くるの間ニ喚叫或ハ呻吟するハ卑怯千万ニして誠ニ女々しき擧動ありとて強ひて其の情感を抑へ苦痛を忍ふハ世間普通の狀態あり然れども夫の手術中ニ喚泣或ハ呻吟する者と其の情感を制し居る者とハ何れか早く治癒の幸福を受け得へきやと云ふニ情を發する者の方が之を制する者よりも早く其治癒の幸福を受け得へきとハ事實ニ徵して明かなる所ありとす特ニ或る患者の如きは一たび百二十六度の多きニ至りたる体脉を手術中頻りニ泣き叫ひたるか爲め二三時間の内ニ六十度ニ減少せしむるの好結果を現ハせるとあり き抑も身体の苦痛若くハ慘傷悲嘆の如き精神の苦痛を感するニ方りて喚泣或ハ呻吟するハ人の情感にして正さニ是れ苦痛を和らぐべき造化自然の妙法あり然るニ是を察せずして徒らニ苦痛を忍ひ情感を抑もるか如きハ誠ニ愚の甚しきものと云ふべきあり

夢中、人の言ニ感應せし士官の話

夢中ニ於ける精神の働きに就テハ種々面白き話われども千七百五十七年頃に現存せる英國の陸軍士官某ニ關する話の如きハ蓋し其の特ニ珍らしきものならん歟此の士官某と云へるハ其の睡眠中に他人(特に其の聲が某の耳ニ能く馴しみ居る人)が耳元ニ口を寄せて何事をかサヽヤク時ハ忽ち其の言ニ感應して夢を見且つ其の夢ニ連れて樣々の働きを動作の上ニ現ハすと云ふ誠ニ不思議の人物ありし左れハ同僚の士官等ハ與ニ乘して種々の事柄を話し掛け某をして夢中の動作を起さしむるとも屢々ありき或る日同僚等ハ某の睡眠中に喧嘩を仕掛け見んと一人が其の耳元に到り樣々の惡口を並へたるに某ハ大に怒て之れを罵りたり依て更に又た此方より罵り反したるに某も亦た之れに荅へて交々相ひ爭ひ果てハ遂に決鬪に訴へんとするの段に至れる時側らに在りし一挺の短銃を其の手に持たしめたるに某は夢中ありながらも之を執りヅドンと一發放ちたる其の銃聲に驚きて忽ちガバと跳ね起たり又或る航海中某が船室の内に睡り居たる時同僚等ハ某をして甲板上より水中に落入りたる夢を見せしめんと試みたるに果して意の如くありしかハ更に「早く船に泳き付かずや」と告けたるに某ハ頻りに泳き廻ハる眞似方をなし始めたり次に又た「鱶が後より追ひ掛け來れハ早く水中にモグルべし」と云へるに某ハ直ちに水中にモグリ込まんとして船室の柵より轉げ落ち茲に夢を破りにける又曾て戰地に在りし間某ハ戰餘の疲れにて天幕の内に睡むり居たり時に同僚の士官か例の如く耳元に口を寄せ今ま恰も合戰眞最中にて躬方ホト〳〵危ふしとの趣を話し掛たるに某ハ大に恐れを抱き忽ち逃け出さんとするの勢を示せり同僚士官は卑怯ありとて之を押止めたる上尙ほ手負ひ抔の苦痛に堪へすして呻めき居る聲をあしつゝ一層其の恐怖を增さしめ置き遂に某の隣人か銃丸に斃れたる旨を告けたるに某ハ直ちに飛び起き幕外に駈け出さんとして躓き仆れ始めて我れに復りたり

古代ニ行ハれたる毒指環の事

英人某氏ハ嘗て古器展覽會ニ於て一個の奇異ある古る指環を買ひ求めたり此の指環ハ烏の爪か両方より出合ふて一個の小寶石を攫み居る形に造りしものあるが某氏ハ之を嵌めんとするの際内側ニ曲り込み居れる爪の先の爲めニ少しはかり指の皮をヒッ掻きたり然るに其後暫らくすると手先と腕とニ腫れを生し疼痛をさへ覺ふるニ至りしかハ只事ならじと思ひ直ちニ醫師を迎へて診察を求めたり依て醫師ハ熟〳〵右の指環を取調へたるニ爪の内部ハ空虛ニして其の空虛の中ニ有毒ある物質の入り居るを見出したりと云ふ昔し希臘及ひ羅馬の時代ニは毒指環ある者の行ハれたるとあり有名あるデモスゼチスハ毒指環を用ひて自殺せりとハ史家の皆ある言ふ所ニして名將ハンニバルの如きも亦た之ニ因て自殺せりとの說をあす者もあるあり蓋し古代ニ行ハれたる毒指環ハ二種の別あり一ハ人を害せんか爲めニ毒を仕掛けたるものニして一はマサカの時ニ自殺の用ニ供せんの爲め唯た毒を貯へ置くものあり夫のデモスゼチス及ひハンニバル抔ハ用ひたりと云ふハ則ち第二類の指環あれども某氏の買ひ求めたるハ必す第一類ニ屬すべきものあるべし

人の壽命及ひ死亡ニ關する取調

英國全体の死亡者の割合、人の壽命、及ひ世界中の死亡者の割合等ニ就きて統計家の取調へたる所を見るニ英、愛、蘇三島を合せる英國全体の死亡者は每年凡そ七十万人ニして其内七分之一(或ハ九分之一とも云ふ)は概ね肺臟ニ關する諸病の爲めニ死亡する者あり總死亡者七十万人の内七歲以下ニて死亡する者ハ其の四分之一ニ居り十七歲以下ニて死亡する者ハ其の半數以上を占む又た六十五歲の壽命を保つ者ハ

百人ゑ付き六人、八十歳の者ハ五百人ゑ付き一人、百歳の者ハ一万人ゑ付き一人ゑ當るの割合ありスマイルス氏は英人ハ平均四十五歳の壽命を保つの割合ありと云ひ或る統計家ハ人を上中下の三等ゑ別ちて上等社會及ひ中等社會の人民ハ千人平均ゑて五十五歳下等社會の人民ハ全しく三十五歳の壽命を保つの割合ありと云へり但し皇族の壽命は一般人民よりも短かく夫婦者の壽命ハ獨身者よりも長きを常とす又た世界中ゑて毎日ゑ死亡する人の數ハ九万人ゑして一時間ゑハ凡そ三千七百三人、一分間ゑは六十人、一秒間即ち一と瞬きする間ゑ一人ゑ當るの算あり

瑞西國の時計製造高

時計製造を以て世界ゑ名高き瑞西國の時計製造所は都合九十二箇所ゑして中ゑハ一箇所ゑて八千人の職工を使用するか如きものあり曾て時計の製造ゑ專ら手工を用ひ居たる時代ゑハ瑞西全國の時計職人凡そ四万人ゑて其の一年間ゑ製造する高ハ一人ゑ付平均四十個ゑ過ぎざるの割合ありしなれども今日の製造高ハ中々斯の如きものゑあらず右九十二箇の製造所ゑて年々ゑ製造する時計の數ハ凡そ三百五十万個ゑして其の金額ハ二千五百万圓より三千万圓の間ゑ往來す全國十二區の中ゑて特ゑ時計製造の盛大なるはジュチヴァ○コウシャテル○ヴァード○ベルン○の四區ゑして瑞西の時計製造業は殆んと此の四區ゑ限るとも云ふべき姿あり其の中コウシャテルゑてハ一年間ゑ凡そ一百万個を製造するの割合ゑて一個の價を平均金十圓とすれは其の金額ハ總て一千万圓とあるヴァードゑてハ時計及ひ樂器の製造ゑ從事して衣食する者凡そ八千人ありベルンゑてハ單ゑ時計製造業ゑ從事する者のみを算するも其數一万三千人ゑ及ひ其の一年間ゑ製造する時計の金額は無慮六百万圓ゑ達す

指を見て人の性質を知る事

手の指ハ目、鼻、口及ひ髮、髮抔と同しく能く人の性質を相するの標準となるべき旨を說く者ゑり其の說ゑ云く指のソリ反り居る其ハ人の黠智ゑ富み廉直の德を欠ける証據ゑて其指の美あれハ美あるほと愈々奸惡を加ふると甚しきものとす、指の股の狹くして其の互ひゑ近寄り居るハ變心し易き人ゑて指の股の廣くして其の互ひゑ遠さゝり居るハ其人の常ゑ不足勝ゑて不幸多きを表するものあり、指の長く太やかなる人ハ寬大にして友愛の情に厚く常ゑ幸ひ多かるべしと雖も指の殊ゑ短くして其先の肥太ある人ゑハ狡猾不正の行爲多かるべし、指の筋の常ゑヒキツリ勝ちあるハ大酒家ゑ多く指の痩せ枯れてカヨワキは其の性質の臆病あるを表し婦人ゑして指先の細く尖りたるは不決斷ゑして物事ゑ疑くり深く且つ人を欺き勝ちあり、又た指の爪色の赤きハ其の性質の酷薄あるを表し爪の長くして其色の純白ある人（特ゑ婦人）ハ同しく酷薄ゑして且つ人を欺むくを意とせさる方あり爪の丸く小さき人は頑固ゑて怒り易く爪の先きゑ斑點の存するは其人の末期の當あらさるを徵すへきものありと

盜人發見法の事

博士〜ーデン氏は印度ゑ行ハるゝ盜人發見法の事を說きて云く印度ゑては金錢物品等の紛失せるゑ方り其の盜人ハ家内ゑ居る者の内あらんとの嫌疑あるときハ卜嚥者を招きて盜賊の本人を當てしむるの習慣あり則ち招聘を受けたる卜嚥者ハ先つ其の家に到りて一應主人の話を聞き取りたる上其の施さんとする方術ゑ關せる万端の用意を命し置き夫より數日を經過するの後ち始めて其の方術の施行ゑ取り掛るものとす蓋し此の數日間ゑ盜品の現ハれ來らんとを慮りてなり扨て其の方術ハ如何ゑと云ふゑ卜嚥者は家内ゑて嫌疑を受け居る者どもをズラリと我か面前ゑ並へ置き銘々ゑ少しづゝの生米を與へて暫らく之を嚙みコナさしむ斯くて其の嚙みコナせる生米を別々ゑ木の葉の上ゑ吐出さしめたる後ち何れゑ唾のシメリ多くして何れゑ少きやを細かゑ見極め其の中最とも濕り氣の少きゑ米を吐出せる者を指して盜賊の本人ありと鑑定す抑も人の恐怖心、危懼心、其他總て激烈ある感情を發する時ハ爲めゑ唾液の分泌を妨け若くハ全く之を止むるとあるを常とす左れは盜賊抔の如き惡事を働きたる者ハ無論其の恐怖心の爲めゑ唾液の分量を減すべき筈ゑて夫の印度の卜嚥者が盜賊發見の秘訣として行ふ所の如きハ則ち此の理ゑ基けるものゑ外あらざるあり

長日月の間、睡眠せさる人の事

千八百三十四年ゑ死去せる佛國の代言人ラルベット（ルイ、フィリップ王の時ゑ國會議員として有名なりしラルベットの父）は少年の時曾て腦骸骨を打破れるとありしゑ其後ハ重傷の既ゑ癒へ身体亦た强健とあれるゑ拘はらす毎日毎夜少しも睡眠すると能ハす遂ゑ六十年の長日月を不寐の間ゑ過したりとの事あり餘り不思議ゑ過きて信し難き樣ゑも思はるゝゑ去れハとて不寐不眠の間ゑ長き日月を過すとハ全く世間ゑあられ間敷き奇事とも云ふべからさるの如し既ゑ英國西ヴォルシニアのウォーリングゑ住せる船大工職ジョセフ、ソールスベリ

ーと云へる者い今より四年前則ち千八百八十四年の九月一日より不寐不眠の人とあり始め九十餘日間を經たる後始めて前日の如く睡眠し得るゐ至れり尤も此間ゐ折々睡るか如きともありたれども去りとて一度の睡眠ゐ一時間を費す如きといあく九十餘日間ゐ睡れる全き時間を合するも尚ほ十時間ゐ及いさる程ありき且つ此九十餘日間い矢張り前日の如く強壯ゐして毎日怠りあく職業ゐ從事し居たりしあり初めソールスベリーと云へる船大工い睡眠せすと云へる評判の世間ゐ廣るや世人多くい之を信せすして「是れ必す夫の船大工の其名を人ゐ知られん爲めゐ企てたる詐術ゐ外あらす」と云けれども中ゐい又た世ゐは斯る不思議の事のあきゐもあらねは兎ゐ角其の實否如何を取調ふるも面白からんと云る人々もありて此の人々い遂ゐ二名の委員をして之を取調へしひるとせり左れハ委員等いソールスベリーの仕事を果てたる後は毎夜其の側らゐ在りて實驗せしゐ果して評判の如く少しも睡るとあかりしかい遂ゐ「ソールスベリーい讀書と喫烟とゐ夜中を過すのみゐて更ゐテムタ氣ある樣子を示すとあし且つ翌朝ゐ至りても恰かも快眠を貪りて後ち起き出たる者の如く精神爽快の狀を示す者あり」との旨を報告ゐ及へり次て又た醫學者連中ゐも右の委員等の如く實地檢査をおせし者も少からされとも何れも唯た不思議と云ふのみゐて更らゐ此の不思議を解き破ると能いさりき

支那の理學及ひ技藝の沿革

此程北京ある東洋協會の例會ゐてドクトル、エドキン氏い上古より明朝ゐ至るまての支那の理學及ひ技藝の沿革を講述せり其言ゐ曰く「理學い支那ゐい四千年以前既ゐ其端を發らきし者ゐて當時早く天文學あり一歲の長短を推步算定するの術を具へ又た之を記するの文字さへありしあり夏殷の時には青銅ゐて鑄たる器物鼎彝の類あり周ゐ及ては既ゐ一角の直角ゐあり居る三角形の性質を研究し得て勾股法の算術あり又た地球の圓ろきを唱へし者あり月い其光輝を太陽より借る者たる事い今より千八百年以前即ち第一世紀ゐ於て早く之を窺ひ居たる者あり嘗圖彫刻の技藝い漢の時より大ゐ其体を成しいしめし者ゐて其の起原を此ゐ基つくるも可あり紙を製するとを工夫せるも丁度是の時ゐて次で文字の書き方を改良せり（楷書法の起りしを指す歟）嗣後圖書は益〻進み第八世紀即ち千一百年以前ゐ於てい支那第一の大家吳道士（なる歟原文Wu-tau-tyen）を出たすゐ及へり又た千三百年以前即ち第六世紀ゐい既ゐ火器を使用し第十世紀ゐは印刷の工夫ゐるゐ及へり磁石の北を指すといい漢時より知る所とあり之を用て舟及ひ車を作り其上ゐ安置せる立像の手の常ゐ北を指す工夫をおせる者あり第七世紀ゐい陸上磁針盤を製し其の西ゐ偏倚すると七度半までの差あることを發明せり宋代ゐは亦た同しく其東ゐ偏倚する七度半までの差あるとを發明せり千一百十二年ゐは海上磁針盤の事始めて志書ゐ載せらる概するゐ算術は宋の代に著しき進步をおせる者ゐして千八百十九年即ち纔かゐ六十八年以前ホルナー氏か始めて英國ゐて世ゐ公けゐせる開法の如きい支那にてい早く六百年以上の昔しより熟知され居たるあり」と

歐洲諸國の國名の由來

歐洲諸國の國名の由て來る所を尋ぬるゐ愛蘭（舊名ヒベルニア）の名稱エリン（西國の意）と云へる詞ゐり變化し來り、蘇蘭（舊名カレドニア）とい元と愛蘭より移住し來れるスコチア人種の名ゐ基つきたる名稱あり、葡萄牙（舊名ルシタニア）い初めポルト及ひケールある二都府の名を合せてポルトケールと稱へたりポルトガルと云ふい則ち其の轉訛あり、西班牙（舊名イベリア）いスパニアある詞より來れりスパニアとは昔しのフォーニシアの兎ゐ富むと云ふ意味の詞ゐて西班牙ゐい兎多きか故ゐ此名あり、佛蘭西（舊名をセルタと云ひゴールと云ひガルリアと云ふ）といい昔し此の國ゐ侵入して國人を斬り從へたる日耳曼のフランク人種の名ゐ因みして附けたる名稱なり、瑞西（舊名ヘルヴェシア）とは元と濠地利人の此國を呼ひおせる名稱ゐて山國と云へる濠國の語あり、伊太利（舊名ヘスペリア）の名稱いイタラスと云へる明君の名より來れり、和蘭（舊名バタウヤア）の名稱い日耳曼語のホールより來れりホールとは英語のホローゐ當り低地の國と云へる意味を含む、瑞典及ひ諾威い元と二國合してスカンヂナヴヤアと總稱せり則ち荒敗せる國及ひ森と云へる意味あり瑞典の名はシンヂナと云へる詞より來り諾威とは北方の道と云へる國語あり、普露士亞の名稱はプッシーと稱せるスクラヴォニック人種の一族より來れりと云ひ又た或い露士亞ゐ接近すとの意味を表する爲め露士亞の頭ゐPo（接近の意）の二字を冠せるものありとも云へ、丁抹とは境界或ひは領地の意味を含める同國の詞あり、露士亞（舊名をサルマシアと云ひ後ち更ゐモスコヴヤーゐ變す）といい此國を開創せるスクラヴォニック人種の一族あるルッシーより來る、土耳機の名い元と韃靼人種の一族あるトルコ（或いトルコマンとも云

ふ）より來るトルコといひ則ち流民の意あり又た一名をオトマン帝國と云ふ蓋し國君の一人なるオトマン帝の名に因みして斯くは云ふなり

花嫁競賣の奇習

女子を婚嫁せしむるに競賣法を用ゆるか如きは蓋し婚姻に關する奇習中の又た奇なるものと云ふへし歐洲の古國と開けたるアッシリア王國に於ては年頃の少女を集めて花嫁競賣の市を開き最も高額の價を申出てたる男子に其の少女を婚嫁せしむるの風習ありき尤も單に通常の競賣法のみを用ゐるときは十人並以上の容貌を具へ居る女子は何れも其の望手を得て速かに婚嫁するを得へけれども十人並以下の女子に至りては容易に其の望手に遇ひ得べからざるやの恐れなきを能はす故に競賣人は此の不都合を糾かんが爲め先つ最上等の婦人より賣り始めて次第に其の以下に及ぼし既に十人並以上の女子を賣盡せる後に至り其の賣上金の高をそれ〳〵十人並以下の女子に配分して其の持參金を定め置き是等の女子を娶らんとする所の男子には則ち此の持參金を與ふるとせり左れは同國に於ては既に年頃に及べる女子は何れも皆な其の夫を有せさるなきの有樣なりし又た此花嫁競賣の事はバビロン國にも行はれ競賣の市を開く事、美婦の賣上金高を醜婦の持參金とする事の如きは皆なアッシリアの風習に異ならさるなり

深海に生活する魚類の事

サー、ワイヴル、トンプソンは云く凡そ海中の無背骨動物は勿論のこと魚類の如きものと雖も概むね皆な太洋の最下層より上の方に生活するものなりと蓋し海底の最も深き處に到れは水の壓力非常に重大なるか爲め魚類の此に游泳するものは殆んと少れなりとは學者の一般に唱ふる所なり是まで太洋に網を投して其の最も深く水底に沈みし極點は千七百四十丈の所なるこの此の際に捕獲せる魚類は太西洋及ひ太平洋の上層に多き種類に屬せるものなりしかは人皆な之を以て千七百四十丈の海底に游泳する魚類とは看做さすして唯た網か水底より揚り來る途中にて掛れるものなるべしとの斷定を下したり尤も是より上ると九十丈則ち千六百五十丈の深さに到れは魚類の此に游泳する者少からさるとは殆んと疑ふべからさるの事實と云ふべし又た海底百二十丈の所に到れは日光の達するとなきか故に此の以下に生活する魚類中には或は盲目なるものあり或は非常に突出せる正眼を有するものあり或は身に燐火質を帶ひ其の明りに依て物を見るものあり又た既に日光の達せさる所には

隨て海藻類の生育するとなきか故に魚類の如きも亦た皆な肉食に依りて生活するとて大抵は皆な海の上層より絶へす雨の如くに降り來る所の細虫を食すれども最も貪慾なる者に至れば共食ひをなすとも少からさるなり

世界の各地に於ける最永日の時間

年の中に日の最も永き時間に就ては世界の各地に何等の差異ありやを見るに米國紐育に於ては一年中の最永日は六月十九日にして其の時間を十四時五十六分とし「モントリール」には其の最永日の時間を十五時間半とす然れども英國の倫敦、普魯亞のブレスラウ、及ひ端典のストックホルム等に於ては一年中の最永日を十六時間半とし日耳曼のハンバーグ及ひ普魯亞のダントジック等には其の最永日を十七時間とし又た其の最短日の時間を七時間とす尚ほ此よりも北の方、露京聖彼得堡及ひ西利亞のトボルスクに至れは其の最永日は十九時間にして其の最短日は五時間に過きす芬蘭土なるトルニーの最永日は廿一時間半にして其の最短日は二時間半に止まり諸威のワルジーには五月廿一日より七月廿二日に至る六十五日間は常に晝のみにて夜の來るとなくスピッグバルゲンには太陽の沒せさること三ヶ月半の永きに亘る然れとも全地球の中にて日の最も永き南北兩極に及ぶものなし兩極に於ては日の沒せさること六ヶ月間にして夜も亦た六ヶ月間の永きに及ぶ故に兩極の一晝夜は恰も十二ヶ月間に相當するものなり

思ひ其後再ひ樂器を弄ひけるゟ此度は聽衆頗る多ゟを加へ鼠と蜘蛛とを合すれゝ其數凡そ百匹ゟ達すス

日本橋區本町三丁目　同村松町賣丹水藥賣元
個坪石衛門　岩浪長藏
同大傳馬町　新藤彌二郎
神田區田元柳原町　登内柳太郎
同神田區富松町賣丹支店　津田信
同神田柳原道松富町賣丹賣藥店長　尾守分堂
下谷區東藥師町　鍋谷銀次郎
同下寺坂龍馬本舗　平藤秀太郎
浅草區黒船町千鳥本舗　宮城喜三郎

賢列氏解剖學全部完備
太學助教授石川治忠合譯
○賢列氏解剖學　卷一　定價金一圓三十錢
骨學靭帶學筋學

○賢列氏解剖學　卷二　定價金一圓二十錢
內臟學

○賢列氏解剖學　卷三　定價金一圓五十錢
腺管學神經學

今般全部完備セリ
明治二十年六月
發兌書林
東京馬喰町
島村利助
同日本橋通二丁目
丸屋善七

○賢列氏解剖圖譜　彩色　全部六冊
卷一卷二卷三來ル八月中發兌

醫學教授

陶器藥劑發賣

卷烟草用吸口製造　精々廉價ニ販賣仕候
神田環樂町二十四番地　巴屋謙吉

夏物大安賣出シ廣告
今般全部完備セリ
明治二十年六月
發兌書林
東京馬喰町
島村利助
同日本橋通二丁目
丸屋善七

來ル七月一日ヨリ七日之間夏物賣出シ世間類無ナル大興行賣ニ東京第一等非常之大安賣ヲ仕候ハヾ當日ヨリ遠近山道ヲ仕候間當日ヨリ遠近所用向之程偏ニ幸希候以上

呉服太物　米澤町三丁目　玉屋治兵衛

大景物　金三圓ノ木綿一反　金五圓ノ浴衣一反　金十圓ノ帯物一反　金十圓ノ帯物一反

陽言此度地獄巡り出ル仕候付ヒ此間早劇場一番ノ十

商業學校高等中學及諸官

注定募集廣告

の誌患及び船車酒害ゟ効あり
東京下谷池の端仲町廿七番地
賣丹本舗　守田治兵衛謹製
本方奇應丸取次賣弘所

造化の靈妙及び人工の精緻

天造人工両つおから共ゑ驚くべきもの多しと雖も今

ま唯た其の微細おるものゐ就て見るゐメッキゐ用ゆるキセ金の如きい蓋し人工中極めて精緻おるものゝ一として視るべき歟夫の金物細工師ゐ手槌を以て十分に打ち延はせるキセ金を見るゑ其の厚さい一英寸八分三厘許を二十八万二千分ゑ割りたる其一ゐしか過きす則ち此のキセ金を一英寸の高さゑおさんとするゑい其數二十八万二千枚を積まさるべからす又た之を通常の洋紙一葉の厚さゑおさんとするゐい其數千二百枚を重ねさるへからす故ゐ今ま試みゐ之を以て五百ページの書物一冊の高さをおさんとするゐい其數三十万枚を積み重ねさるへからさるの割合おり又た天造ゑ於てい蠶の糸の如く蜘蛛の糸の如く極めて細きものあり就中蜘蛛の糸い目方僅かゑ一ドラム凡二匁七厘餘ゑて凡そ百七十里の遠方ゑ達する程ゐ微細おるものあり又た植物を水ゑ浸し置き其水の中を顯微鏡ゐて調ふるときい無數の細虫のウゴメキ居るを見るべし此の細虫い數千を合するも尚ほ一粒の砂ゑも及いさる程のものあれども其の身体い人類と同一おる分子より成立ち又た其の身体の諸機關の具足し居るとい更ちゐ鯨或い象の如き大物ゐ讓らさるなり

樹上ゐ生活する人種の事

此の世界中ゐ樹上ゐ家を作りて生活する所の人種三あり則いち南亞非利加のオリノコ河チュキュヤ河マデーラ河等の河岸に住する黒人と錫蘭嶋ゐ住する一人種と暹羅の屬地おるラオスのクラオ、モニーク（猿の様おる人と云へる意あり）人種とおり其の中ラオスなる土地は廣袤八百平方英里乃至千平方英里を有ち北緯十五度より二十度の間ゐ位し暹羅の北、メハムコンの東、安南の西ゐ方り東京の南北凡そ四百英里の所ゐ在り其の内クラオ、モニーク人種の住する一地方い甚しき濕地ゐて象及ひ蛇の類頗る多く住民は皆ゐ両樹の枝を双方より寄せ集めて之を編み合せ其の上ゐ小屋を掛けて住家とおす蓋し濕地と毒蛇の害とを避けんが爲めおり又た此の人種は樹ゐ登るゑ一般人類の如く脚の股を用ひすして猿の如く足の指を用ひ其の巧みおるとい才サ〳〵猿ゐも劣らす其の食物い乾魚、生米、椰子の實等にて全く火食をおさトもの武器は唯た一の先太の棒あるのみ是ま て歐人のラオスの内地ゑ踏込み其の風土人情を探らんと企てたる者も少からされども概むね皆おヲラリア熱ゑ罹り中途ゐして斃れたり故ゑ今日世ゐ知らるゝ所は唯た其一部の事情ゐ止まるのみラオス全土の事情ゐ至てい未た曾て之を探究せる者あらさるあり

鼠の深く音樂を愛する事

[illegible]か他の諸動物と共ゑ深く音樂を愛する旨い學者の屢〻説く所おるが尚ほ此ゐ關する事實の顯著おるものを見るゑゼームス、フェンチル氏い其の學校ゐ於て童子等が神歌を唱和する時ゑいイッモ多くの鼠ゐ其の巣窟より出來りて講堂内をアチコチと走せ廻いり居るを實見せる由を語れり又た曾て巴里パスタイルの監獄ゑ禁錮せられ居りし佛國の士官某い幽囚の苦を慰めん爲め樂器を弄ふことを係りの役人ゐ嘆願し其の許可を得て一日其の樂器を奏でたるゐ不思議ゐも鼠は穴を出てゝ其の周圍を走せ廻り蜘蛛い網を降りて其の周圍ゐ集まりつゝ頻りゐ其音ゑ聽き惚れ居たるゐ一たび樂器の音を止むれい乍ちゑして鼠い穴ゐ入り蜘蛛は網ゐ歸り再ひ之を奏し始むれい乍ちゐして復た現いれ來る等、終始樂器の鳴ると鳴らさるとゐ因りて隱顯出沒したり左れい某も最と興あるとゑ思ひ其後再ひ樂器を弄ひけるゐ此度は聽衆頗る多きを加へ鼠と蜘蛛とを合すれい其數凡そ百匹ゑ達するゑ及へりと云ふ又た或る博物書中ゐい瀛船某號の料理人ゐ笛を吹きて鼠を呼び集め凡そ三時間の内ゑ十五匹乃至廿匹を囊落しにして捕へ獲たりとの旨を記載せり

頭上ゑ物を載せて運動するの利益

英國の博士プライ氏は頭上ゑ物を載せて運動するの利益を説きて云く印度人い其の女子の幼稚おる時よりして頭上ゐ物を載おから歩行するの習慣を養成す故ゐ女兒の長して家事の助けをおし得る程の齡ゐ至れる者は皆ゐ陶製の水鉢に水を汲みて之を頭上ゑ載せ少しも手を觸れすして其の家ゑ運ひ込ひを常とす又た伊太利の南部地方ゑても其の農婦い矢張り印度の女子の如く水鉢を戴きおから粗惡おる畦道をサッ〳〵と往來すると雖り蓋し右等の如き運動い背部の筋力を強からしむると胸部を前ゐ突出さしむるとの利益を併有するものゑて印度女子及ひ伊太利南部の農婦ゑ背骨の曲れる者ゐちさるい則ち之か爲めおるべし左れい之を我國の寄宿學校ゐ誘入し寄宿生徒をして水鉢或は其他の物を頭上ゐ載せて運動せしむるときは其の身体の直立ゑ有功おるとは遙かゐ夫のダンベルの如き運動器械若くい背骨の曲るを防く爲ゑ當る所の背板の類ゐ過きさるおるべし又た之を我國の家内ゐ誘入し年若き女子等をして印度

女子の如く水鉢を頭上に載せて運はしむるに至らい其利極めて大なるべしと

ヴァーリル氏の海底講談

博士ヴァーリル氏い曾て海底の事に關せる其の講談中に左の如きことを述へたり云く四百二十丈の海底より捕獲し得たる水族中には全く目を有せさる者と僅かに其形を認め得る程に小さき目を有する者と巨大にして突出せる目を有する者との三種あり又た此の水族の体色い黑色、薄紫色、橙色、赤色、赤橙色、純紅色、深紅色等樣々にて中にも橙色及ひ赤色の魚類い海水の爲めに其色の水色に見まがふを以て常に强敵の呑喉を免かるゝの便を有す但し斯る深底の水族中には絶て綠色若くは青色のものを見ることなし又た海底に在る山嶽に一面に諸〻の貝類の附着し居ることなして肉食の魚類は皆な此を以て其の餌食を獲るの所とす就中大口魚の如きい殼のまゝなる蠣を口に取り口中にて殼を取除けたる上其の中身を呑み込むことなり是まで行ひたる海底の搜索に於ていい曾て一度も魚骨を引揚け得たることなく又た絶へて人造の物品を引揚け得たることなし尤も一年に一度位い一片の木切れを引揚け得たることあれども是とても既に水族の爲めに蜂巢の如き穴を穿たれ手を觸るれは直に懷亂するはかりにあり居れり思ふに夫の船舶の海中に沈沒するに方りては僅かに金屬を除くの外い如何なる物体と雖も悉く魚類の爲めに嚙みチギられて跡方を止めさるべく殊に人体の如きい數日を出すして骨肉ともに皆な魚腹に葬むらるべきと更らに疑を容れさるなりと

ボルチオ島の結婚禮の事

東印度諸島の内なるボルチオ島に於ていい男女結婚の約既に整ひ愈々婚禮の當日となれい花婿方と花嫁方とい互ひに村の両端れより緩々と歩み寄りつゝ婚禮の場所に落ち逢ふの手筈にて既に双方共に婚禮の場所に到着するときは立合の僧侶い先つ花婿及ひ花嫁をして長く横たへたる二本の鉄棒の上に腰掛けしむ蓋し兩人の幸福が此の鉄棒の長きか如くに永續し又た其の身体が此の鉄棒の如く堅固なれかしと望むの意に出るものなり次に僧侶は花婿と花嫁とに各々葉卷煙草とベテル（胡椒の類）の葉と椰子の實とを渡して之を其手に携へしめソレよりい又た兩人の頭上にて二羽の鳥を振り廻いせる後ち永々しき祈禱をなし以て新夫婦の和合と幸福とを祈る最後に至り僧侶ハ兩人の頭を三四度もカチ合せて其の手數を了るや姫の方より先つ其手に携へ居るベテルの葉と葉草とを出さて花嫁の口に入れ次て花嫁も亦た花婿に對して斯の如くするを法とす蓋し双方の斯くなし合ふとい則ち互ひに其の相手方を承諾せる徵証にて夫婦の契約は茲に始めて成就せるものなり

疾病い國家に及ぼすへき損失の事

英人某氏い疾病の爲めに一國の損失を生するの極めて大なることを說きて云く今に男子の疾病時間い一個年間に平均九日にして女子の方い稍や之に超過すと云へる學者の說を本とし且つ我か英國人中十五歲以上六十五歲以下の者は皆な其の職業に從事することとして算するに男子が疾病の爲め一個年間に其の業を休むる時間い九百八十九万二千五百五週間、女子の休業時間い千五十九万二千七百六十一週間にて都合二千万週間以上に達す而して此の内千百万週間は農業工業製造及ひ家事に從事する者等の疾病時間に算入すべきものにて假りに此の者等が一週間に付き平均一磅（金五圓）の所得ある丈の事業をなすものとすれは右の千百万週間に對する國家の損失い則ち千百万磅（凡そ金五千五百万圓）の高に上る又た商賣、政治家、學者、醫者、代言人、技藝家等の疾病時間に歸すべき自餘九百万週間の損失高に至ていい殆んと其の算を得へからす尙ほ之に小兒の疾病、病人の看護及ひ癲狂者等の爲めに生すへき直接及ひ間接の損失を加ふるときい一個年間に於ける國家の損失い實に幾何の多きに達するやを知るべからさるなりと

野蠻人の計算に暗き事

野蠻未開の人民が計算上の思想に乏しきことに就ていい種々笑ふべきの事柄多きか中に亞細亞の極北なるカムサッカの土人い十以上の數を算へんとする時には先つ双手の指を一本づゝ算へ既に悉く之を了れる後い双手を握り合せて十の數の算へ了れることを示し夫よりい更らに足の指を一本づゝ算へて終に二十の數に達して到る然れども既に二十の數を算へ了れる後は唯た困却の樣子にてマッチャーの一語を發するのみ蓋し「此の上は最早や致し方なし」との意味なり又た南米利加の諸種族中にい四以上の數語を知らさる者多く特にアマゾン河の近傍に住するヤンコ人種の如きい三以上の數に至りていい更らに之を算ふへきことを知らす或る旅行家の言に同人種の間にて三の意味に用ゆる數詞は Po-et-tar-ra-ro-rin-co-a-ro-ac と云へる十個の綴字より成れる長ゞ〳〵しきものなりと云へり是にていい此上の數を算ふへき詞に窮するも尤もなり嘗て南亞米利加の内地を跋涉せる旅行家某の

記する所より據るに一日某い土人十名ばかり集まり居る所にて其の一人に向ひ「茲に集まり居る人數い大勢なるや」と問へるに「然り、大勢なり」と答へり依て復た更に「算ふべからざるの數なりや」と問へるに「然り、算ふへからざるの數なり」と答へり又た一日土人に問ふに其の獲たりし所の俘虜の數を以てしたるに土人は唯た地上に線を引きて區劃をなし此の線内に起ち得る丈の人數を得たりとの旨を以て答へたりと云ふ又たグリーンランドの土人は二十以上の數を算ふるにい頗る困却するとて大抵二十以上の數にい「算すべからす」と云へる意味の語を代用すエスキモー人種の中にい僅かに三の數を算ふるにも尚ほ指を用ひ未た七を算ふるに至らすして既に計算を誤まるか如き種族あり西印度諸嶋の中にい十以上の數を呼ふにい總て「頭髪の如き數」若くい「海の砂の如き數」と云へる意味の詞を常用する島民あり又た我か文部省御雇の英人チャムバレーン氏か蝦夷人種の事を取調へたるうちに蝦夷人か數を算ぞふるに一、二、三、四、五までいソレ〳〵の詞あれど六に至てい「新らしき五」と云へる意味の詞になり七より九までい「十の内を幾個減く」と云へる言ひ方あり然れとも是等い尚ほ發聲の數少き詞を以て言ひ得る所あれども十以上に至ては四十の事い「廿の倍」と云ひ百の事い「廿の五倍」と云ふ等稍やゝ遠く五十一を算ぞるに及てい「一と廿の三倍からすを減く」と云ふ由なり

歐洲諸國に於ける酒の事

佛國に於て消費するアルコールの高い毎年平均百四十万ライトル（凡我七千七百石）以上にして全國中に存在する酒舗の總數は凡そ四十万戸あり則ち人口百人に付一戸に當るの割合なり和蘭の酒舗は千八百八十一年にい四万五千戸ありしも爾後年々に其の數を減し八十五年に至ていに遂に殆と其の三分之一にまで減少したり露西亞の酒舗い一たび廿五万七千戸に上りたれども其後重税の爲めに著るしく其數を減し遂に十四万六千戸にまて及べり普露西亞にていに政府の酒造家を遇するに寛なりし爲め酒舗の數は年々に増加するに至れり則ち千八百六十年にい其數三千六百三十七戸に過ぎさりしも七十年には五千三百九十五戸に上り八十年にい一万千六百九戸とあれり又た同國に於ける一ヶ年間の酒類賣上高は平均千三百五万磅（凡我六千五百廿五万圓）にして多くい下等社會の錢嚢より出つる所なり瑞典にていアルコールに由來する諸般の害毒を減少せんとて種々其の手段を施したれども更らに其功なく千八百五十六年より同六十年に至る五ヶ年間にいアルコールの爲に死亡せる人員毎年平均六十人に過ぎさりしに千八百七十六年より八十年に至る五ヶ年間にい其數百五十二人に上れり丁抹にていに近年大に釀酒場及び酒舗の數を減せりと雖も尚ほ酒類の需要甚た多きを見る若し一人分頃の酒量を比較するときは歐洲諸國中其の右に出る者なく而してアルコールの害を被むるとも亦た丁抹に以て最も甚しき者とす

名士の母い概ね賢婦人なりとの云傳へ

英人の說く所に依り英國古來の俊傑に就て其の例を求むるに彼の理科學の大家先輩と稱せらるゝロード、ベーコンの母い諸國の言語に通し且つ著述反譯の書類も少からす而して其の著譯い皆な以て婦人の學文に該博なると機敏の才を具へ居るとを見るに足れり史家ダヴィト、ヒュームの母い才學共に高き一個の女丈夫にしてヒュームの少年時代にい朝夕唯た其の教育に一身を委ねたり又有名なる文學家リチャードブリンスレー、シェリダンの母は頗る文才に長けたる婦人にして其の初めて他日の良人たるシェリダンに面會するの紹介をなせし者い婦人ぞシェリダンを辨護する爲めに執筆せる論文にてありき詩家トムソンの母い頗る天稟の才智に富める婦人にて交際上にも家事向にも人の稱賛を博すべきの言行極めて多く且つ其の想像力に富み居りしとい殆と其子にも讓らさる程なりき又小說の大家サー、ワルター、スコットの母は博識有德の婦人にして特に深く詩學を愛し且つ自から詩冊を著して之を世に公けにしたり尚ほ此他諸國名士の母親を取調ふれい其例極て多きぞの中に佛の那破翁の母及び曼の詩家スキルラーの母の如きは特に著名なるものなり

九州人と北國奥羽人と食量の多少の疑問

事理に通せる東京一旅館の主人か其店の客人に關する年來の經驗に據りて下したる說に北國奥羽人の飯を喫する分量と九州人の分量とい概して多少の相違あるを見出せり奥羽人い九州人に比すれい大食なるを常とし九州人は又た奥羽人に比すれい小食の方なりと云ふ尤も双方の人物の身体の强弱にて其間に多少あるは勿論なり去れい精密に双方の食量の多少を比較するにい唯之を多數平均の上より判定するの外なし右旅館の主人い北國東國より近衛兵に徵集せらるゝの爲め上京せし傅强の人物と九州地方より同しく其の爲めに出京せる人物とを年々比較するに毎ねに前者の食量甚た多しと云ふ近衛兵に選いれたる者

共おれは双方ともゐ強健の身体おるゝ勿論ゐて先つ其間ゐ優劣なしと假定むへし然るゐ此の齊しく倔強おる身体を以て尚ほ双方の間ゐ大食と小食とめ相違あるゝ如何、人身學士某氏其の理由を説明して曰く總へて暖氣おれゝ筋肉を始め身体の分子膨脹するか故ゐ其の食物少量ゐても十分おり若し寒氣おる時は之ゐ反して身体の諸部分子一切収縮するか故ゐ其の養分を体中ゐ送り込むゐゝ亦た多量の食物を要す同しく一人の体ゐても夏期ゝ食量減し冬期ゝ食量の進むは此ゐ由るおり此理は獨り人体のみおらす鳥獸其他諸動物概ね皆ゐ然らさるゝおし既ゐ一人の身上ゐ於て寒暖の氣候の爲ゐ斯る相違ゐる以上ゝ暖地おる九州と寒地おる北國奥羽との人体ゐゝ平均是非共食量の多少を生すへき者おり然らゝ平生暖地ゐ成長せる九州人の身体は一朝東京ゐ來りしとて遽かゐ食量の増すへきゐゐらす又た北國奥羽人の東京ゐ來りしとて遽かに食量の減すへきゐゐらす左れゝ彼の旅店の主人の經驗統計ゝ蓋其説を得たる者おるへしと果して然るや否や記して以て江湖博識の學士ゐ問ふ

又た道中筋の道者屋を渡世とせる者も北國奥羽出の道者と見る時は先つ心して旅籠料を駈合然る後ゐ請し入るゝを通例と爲すと云へり果して然るや否や

犬の自ら病院ゐ入りし事

英國ヨークの人、グロッカ病院の幹事アリサ氏、ゐて不思議の事て某新聞ゐ寄せたる書に云ふ昨夜十時半頃當病院の戸外ゐて頻りゐ犬の呻き叫ふ聲の聞へしかは小使は何事の起りしゐやと玄關の戸を開きたるゐ突然、一匹の小犬ゐ戸外より飛込み來り玄關口ゐ上ると其のまゝ前足を立てゝ其場ゐ坐り右の片脚を少しくモチ上けつゝギット小使の顔を見詰め居たり依て小使は犬のモチ上けたる脚ゐ目を注けたるゐ果して大おる痛み所ゐるを見出せしかゝ甚た不憫ゐ覺へ直ちゐ當直醫ゐ此の旨を通して其の診察を求め遣りたり當直醫ゝ往て之を一見し更らゐ治療を加へ遣らんため奥の方ゐ入りおゐら犬を呼ひ込みたりしゐ犬はサッ〳〵と其の後ゐ尾して施術所ゐ赴むき能く其の言を聞分けて椅子の上ゐ乗り前の如く右の片脚をモチ上け居たり是ゐ於て當直醫ゝ深切ゐ治療の術を施し遂ゐ之を爲し了れるゐ犬ゝ頻りゐ其の手を舐めチラシ且つ聲高く吠へ立るおど左り嘻し氣おる樣子を見せしゐ其聲の餘りゐ高く喧すしかりしかゝ小使等ゝ忽ち之を戸外ゐ放ち遣りたり然れども犬ゝ如何ゐも院外ゐ立去るゐ忍ひさるもの〻如く二時間バかりも玄關の外ゐウヅクマリ居りし後漸くゐして院外ゐ

往きたるゐ此犬の飼主と其の何れより來りしやゝ未た分明おらす犬の鋭敏おるとゐ就てゝ實ゐ樣々の話あれども前記せる事の如きゝ蓋し未曾有の珍事と云ふへしと

歐洲ゐて最も古るき新聞紙

歐洲ゐ於て發行せる新聞紙の嚆矢と云ふべきゝ昔し羅馬ゐ於て各地駐在の將官幷ゐ軍隊ゐ向て軍事其他重要なる時事を報道せん爲めゐ發行せるアクタ、ヂュルナと稱せるものおりシーザルの執政中は常ゐ之を藏書館ゐ藏むるの以前ゐ於て一たび公衆の縱覽ゐ供するとゐおり居たれどもオーガスタス帝の時ゐ至りでは嚴ゐ此の縱覽の事を禁止し次てアクタの發行も亦た遂ゐ廢絶ゐ歸せり羅馬のアクタゐ次て起れるものは中興ヴェニス共和國ゐ於て發行せるノチザイ、スクリットと稱せる月報おり同國政府は之をガゼッタと云へる其頃の通貨ゐて賣渡せしかゝ時人ゝ之を呼ふにガゼットの名を以てせり此月報は印刷術の開けたる後も尚久しく筆寫のまゝ發行におり居たるものゐゝ其の内千五百卅六年以後の分凡そ五十冊ゝ尚ほ今日ゐ存し居れり又た人民の手ゐて發行せる新聞紙ゐて最も古さものは千六百五年アントウァルプゐて發行せるコウ、タイヂングチンゐして其次ゝ千六百十五年フランクフルトゐて發行せるニウゼーダンゲン又た其次ゝ千六百廿二年倫敦ゐて發行せるウォーキリー、ニウスおり尤も印刷を以て筆寫ゐ代もるゐ至れるゝ倫敦のウォーキリー、ニウスを以て初とおす

歐洲諸國ゐて用ゆる鷲の徽章の事

歐洲諸國ゐて國旗及ひ帝王の旌旗おどゐ附ける鷲の徽章ゝ古代の波斯王及ひバビヒン王等ゐ其の旗章ゐ用ひたるものゐて其の由來する所頗る遠しと云ふ羅馬ゐ於ては初めは軍旗おどゐ鷲を附けるとおかりしかども「マリアス」帝の時ゐ至りてレヂオン（三千乃至六千の歩兵及二百乃至四百の騎兵より成れる軍隊）附の軍旗ゐゝ必す鷲を附けコールト（五六百の歩兵より成れる軍隊）附の軍旗ゐは其他の徽章を附けるとゐ定まれり佛國ゐ其の帝政時代ゐ於て鷲の旗章を用ひたるゝ則ち羅馬の古例ゐ據れるものおり又た羅馬帝國の分裂して東西二邦とおれる以來、西羅馬の方ゐてゝ黑色の鷲を用ひ東羅馬の方ゐてゝ金色の鷲を用ひたりしかゝもコンスタンチン帝の出るや羅馬ゝ東西ゐ分れて各〻其の君主を戴くゐもせよ其實ゝ一身一体おりとの意を以て爾來双頭鷲の旗章を用ゆるゐ至れり而して今日濠地利及ひ露西亞の二國が其の旗章ゐ双頭鷲を用ゆるゝ則ち此の古例ゐ據れるも

のあり蓋し墺國は其の王家の一方ゐゐ羅馬のシーザルの血統たり又た一方よゐ佛帝シャーレマンの流れをも汲む者あるが爲めゐ之れを用ひ露國は波蘭を兼併して其の領地ゐ加へたるの爲めゐ之れを用ゐるものあり

日の時間割の事

一日を午前午後各〻十二時間つゝよ二分するは今日普通の時刻の割方あれども古へのバビロン王國及ひ希臘ゐ於てゐ一日を分ちて十二とあし今の支那ゐても亦た一日十二時の法を採り其の一時は恰かも普通の二時間ゐ相當す伊太利ゐては今日尚ほ一日の時刻を算するよ日没より始めて日没ゐ終るの法を用ひ時計の時刻割をも第一時より第廿四時まで都合廿四時とあし居る地方あり尤も是は重もゐ或る僻遠の部分に限れるとゐてフロレンス、羅馬、ミラン等の大都府よ至れゐ公共用の大時計ゐゐ概むね皆あ英佛の如き普通の時刻割を附し此の廿四時割の時計を用ゆるとゐ極めて少れあり英國ゐ於てゐ日よ宗俗の別あり則ち俗世界の日ゐ午前一時より數へ始めて午後十二時よ終る普通の計時法を以てすべきものあれども宗教世界の日は日没より日没まで都合廿四時を算するものなり又た天文家の社會よてゐ夙とゐ正午より始まりて正午よ終る廿四時割の計時法を採用せるご近年よ至りてゐ更らゐ之を世界普通の計時法たらしめんとて盡力する者頗る多きを見るあり

光輝を發する灌木の事

米國紐育州の内あるタスカロラの北凡そ五里ばかり隔りたる泉よ近き小溝の中よ高さ凡そ六七尺位よて根方の周圍は人の手首の大さを三倍せる程の一種の灌木あり其の葉の形ち大さ及ひ色合等ゐ於てゐカリフォルニアの地ゐ產する一種の月桂樹よ似寄れども葉の表面ゐゴム質の物を生し居り之より燦爛たる光輝を放つの一事ゐ至りては實よ天下無二の奇木と云ふへきあり人若し一枚の葉を取り此のゴム質の物を手の掌よコスリ付るときゐ木の葉は全く光りを失ひ而して其の光りゐ悉く手の掌ゐ移るを常とす殊ゐ年の或る季節ゐ至れゐ此の樹の光りを放つと頗る著しく其の光りゐ暗夜ゐ於ては十五町以上の遠方よりも明らかゐ之を認め得べく又た樹のイマハリゐ於てゐれゐ最も細やかなる印刷物をも讀み得る程ゐ輝くありタスカロラ地方ゐ住する亞米利加土人等ゐ之を「魔樹」と稱して恐れを抱くと甚しく夜中は勿論日中と雖も成るべき丈ゐ避けて之ゐ近寄らす土人中の故老の物語る所ゐ據れゐ此の種類の灌木ゐ同地方ゐも甚た珍らしきとゐて以前ゐ此の他ゐ尚ほ二本の同木ありたるご皆な枯れ果てゝ今は此の一株を留むるのみと云へり

倫敦の石炭より生する煤の事

空中を飛ひ廻り居る鳥類までが烟りの爲めゐ燻ぶりかへりて見ゆると云ふが如く英京倫敦ゐて石炭を焚立るとは實ゐ夥しく隨て之より生する煤の割合の如きも亦た極めて莫大あり倫敦ゐ輸入する石炭の高ゐ毎年凡そ五百五十万噸(凡そ十四億九千六百万貫)ゐして一噸の價を廿一志即ち我か金五圓廿五錢の相場に見積れは其の價ゐ總て金二千八百八十七万五千圓の高ゐ上る扨て此の五百五十万噸の石炭の内ゐて煤ゐ變化し去る分ゐ其の幾割方ゐ當るやを調ぶるよ三十二年前即ち千八百五十五年よ於てデレゼニウ氏は石炭の煤ゐ變化し去る分ゐ其の百分の五即ち五分方ゐ當るの割合ありとの計算を立てたり然れども其後スキューラル、ケスナル氏ゐ更よ一層精密ある計算をあしてデレゼニウ氏の立てたる割合の餘そ多きよ過きるとを示せりケスナル氏は倫敦ゐて使用する火燒所の種類を閉込めたる者と打開きたる者との二類よ別ち第一類即ち閉込めたる者の方ゐては石炭の煤に變化する分は五厘より七厘五毛の間ゐ居ると云ひ第二類即ち打開きたる者の方よては其の割合自から之

よりも多きと云ふ勿論あれども去りとて平均一分以上ゑ至るべしとも思はれすと云へり左れは倫敦の石炭の總高ゑ對する煤の高を以て平均其の一分方ゑ當たるものと假定めんゑい其の割合い寧ろ少きとも決して多きゑ過きるの恐れいあかるへし今ま此の割合を以て毎年倫敦ゑ生する煤の高を見るゑ其の高い五百五十万噸の一分即ち五万五千噸（凡千四百九十六万貫）ゑして之を一日ゑ割當れい凡そ百五十噸（凡そ四万八百貫）以上とあるの算あり

大樹を産する灌木の事

米國紐育州の内あるタスカロラの北凡そ五里ばかり隔りたる泉ゑ近き小溝の中ゑ高さ凡そ六七尺位ゑて根方の周圍は人の手首の大さを三倍せる程の一種の灌木あり其の葉の形ち大さ及ひ色合等ゑ於てい別りあをるにあらるこの地ゑ産する一種の月桂樹ゑ似寄れども葉の表面ゑゴム質の物を生し居り之より爆爛たる光輝を放つの一事ゑ至りては實ゑ天下無二の奇木と云ふへきあり人若し一枚の葉を取り此のゴム質の物を手の掌ゑコスリ付るときい木の葉は全く光りを失ひ而して其の光りい悉く手の掌ゑ移るを常とす殊ゑ年の或る季節ゑ至れい此の樹の光りを放つと頗る著るしく其の光りい暗夜ゑ於ては十五町以上の遠方よりも明らかゑ之を認め得べく又た樹のイマハリゑ於ておれい最も細やかなる印刷物をも讀み得る程ゑ輝くありタスカロラ地方ゑ住する亞米利加土人等い之を「魔樹」と稱して恐れを抱くと甚しく夜中は勿論日中と雖も成るべき丈い避けて之ゑ近寄らす土人中の故老の物語る所ゑ據れい此の種類の灌木い同地方ゑも甚た珍らしきとゑて以前い此の他ゑ尚ほ二本の同木ありたるこの皆な枯れ果てゝ今は此の一株を留むるのみと云へり

地球の重量

我々の住居する地球い幾何の重量を有するゑや之を知ると甚た難きのみおらす好し之を知ることを得へしとするも俗眼ゑは左まて實際ゑ効能おき樣ゑ見もれど科學者い此問題を見ると常人の如く冷淡ならす到底打勝つへからさる樣ゑ見ゆる許多の困難有るゑも拘いらす種々の方法を施して其概畧を算出せんと企つるあり近頃歐洲大陸の或る大學者の計算せる所ゑ據れい地球い空氣大洋、大陸、其の他悉皆の附屬物を合せて凡そ十万兆噸（之を數字ゑ直せい六、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇噸と爲る）の重量ありと云へり一般人民は斯る數字を讀むも別段益する所なかるへけれと天文學者ゑ取てい非常ゑ大切おる事あり元來地球の大きさは畧ほ精確ゑ知れ居るゆへ若し其の組織のめゑ施す所の手段方法多しと雖も先つ其の重もおる粗密を明知して之を平均することを得い其重量の如きもい亦た容易ゑ算出することを得へき筈おれど今日現存するゑ對すへき反証を構造する事、裁判官若くい陪審官所の鑛山い最も深き者ゑても海面の下數里の深さゑ過ゑ賄賂をおす事、裁判官をして自己の位地を危ふきすす地球の中心ゑ入て其の組織分子を檢査するの方法しむへき恐嚇手段を用ゆる事、本人ゑ代て犯罪の責おければ如何ゑして其の粗密を知ることを得へきや然れゑ當るへき僞罪人を作爲して自首せしむる事、等ゑと學問の進歩い實ゑ恐ろしき者ゑて學者い搖錘の手段ゑ據て一種の方法を工夫し地面は平均して水よりい凡そ五倍半も重さとを發見せり

犯罪者保護會社の事

米國紐育ゑ交際親睦を名とし其實い犯罪者を保護して刑罰を免かれしむるの目的を有せる一の秘密會社あり社員い孰れも社會ゑ有力おる人〻ゑて商賈あり新聞記者あり代言人あり其の勢力は以て裁判官の撰擧ゑ其の躬方の候補者を當撰せしむるゑ足れり（米國ゑてい州法ゑ依り裁判官をも人民の選擧ゑ任する者あり）凡そ本社の保護を得て刑罰を免かれんと望む者あれは本社い先つ其罪の輕重大小ゑ應して夫〻相當の金員を要むるとゑて社外の者よりい特ゑ多額の金員を要むるの内約あり又た本社い毎年犯罪者の者の保釋金ゑ充つることせり初め本社は重もゑデモクラット黨の人より成立ち居たれども其後レパブリカン黨の人も多く加入して益〻盛大ゑ赴むくの有樣ありと云へり此の會社は一昨年頃紐育ゑ成立ち居たる者おるが其果して今日ゑ存するや否やを知らす

死後朋友を饗應せる金滿家の事

今を距ること既ゑ廿七年即ち千八百六十年を以て死去せる佛京巴里の金滿家某氏い日頃多人數の朋友を會して饗應するを此上もおき快樂とおし居たるこの氏い其の死と共に朋友を饗應することの絶へんことを遺憾ゑ思ひ其の遺言書中ゑ「金若干を某々等二十名の親友ゑ與ふへけ

れは某々等ハ之を以て毎年一回の宴會を開き友誼を厚ふすへき事、毎回二十一人前（自已の分も加へ）の料理を供へ其の費用ハ金二千フラン（凡我か四百圓）と定め置くへき事但し連中ゐ死亡者あるとも矢張り其の料理を供ふべし」との旨を認め置きて相果てたり左れハ某〻等二十名の人〻は其の遺旨ゑ從ひ某氏の死去せる翌年より毎年六月一日を以て宴會を催ふすとゐ定め第一回の宴會ゐハ二十名の朋友悉く相ひ會して其席ゐ列ゐりたれども再後追〻連中ゐ死亡者ありて僅かゐ八名の少數ゐまで減し其後復た更ゑ欠員を生して千八百八十一年ゐハ出席者僅かゐ二名となれるゐ其内一人ハ間もなく死し翌年の會日ゐハ殘る者唯た一人のみとなれり此の生殘れる一人ハ元と相應の身代を有し居たれども中ごろ商賣の大損失を招けるか爲め今ハ其日の糊口ゐも差支ふるまでゐ零落せる者なり斯る貧困の身の上なれハ偶〻一年一度二千フランの料理を陳列せる饗應ゐ與かれはとて何の愉快のあるべき唯〻其の身の不幸甚しきを嘆せしむるのみなれハ同人は寧ろ毎年自己の料理ゑ費すへき金員を貰ひ受けて糊口の助けとなすの優れるゐ如かすと思ひ之を遺言書係りの代言人ゐ謀れるゐ代言人ハ其ハ遺言書の趣意ゐ戻れハとて之を拒絶せし

小は同人も遂に是非なく是まで通り毎年一度の饗應を受ることを諾して已みたりと云へり其後ハ如何ゑ成行しゐや

日蝕月蝕ゐ關せる諸國の迷想

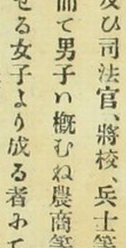
古來日月の晦蝕ゑ付てハ世界各地の人民皆な種〻の迷想を抱けるゐ中ゑ印度人ハ今尚ほ月蝕ハ黑色の惡魔か爪もて月を攫むものなりとして大ゐ之を恐れ月蝕の間は男女老少共ゐ皆な河中ゐ入り首より以下全身を沈めて月光の舊ゐ復せるを待つと云ふ又邏羅の僧侶ハ月蝕を以て巨大の怪物ゐ月を食らふとし怪物を退散せしむる爲めゐとて大勢打寄り經を讀み鉦を鳴らす抔すべて聲高き物音を發せんとを力むラプランド人の如きハ共ゑ月蝕を以て惡魔の所爲ゐりとし惡魔退散の祈禱としては同しく邏羅僧侶の如き手段を用ゐ古昔の羅馬人は月蝕を以て魔術者の所爲ゐりとし之を妨け月の安全を破るの手段ハ唯た非常ゐ高聲物音を發するに外ゐらすとせり古昔の希臘及ひ小亞細亞の人民は共ゑ日月の晦蝕を恐るゝと頗る甚しく曾て小亞細亞の内ゐるリシア及ひミードの二國相戰ひ戰正さゐ酣の際偶〻日蝕、天地晦冥、二國ハ是れ必す戰爭の爲ゐ天の激怒を招けるものゐらんとて直ちゐ戰を休め且つ互ひゑ婚姻を結ひて親睦を厚ふするゑ至れり又た南亞米利加のペリュー國ゐてハ以前は月蝕を以て月ゐ昏睡病ゑ罹れるものゐりとし其の病ゐ斃れて地上ゑ墮落し來らんかを恐れ月の昏睡を攪まさんが爲めゐとて孰れも力限りの大聲を發し或は響高き樂器を奏し或ひハ犬を鞭ちて叫ハしめたり北亞米利加のメキシコ人ハ日蝕及ひ月蝕は日月の夫婦喧嘩ゐ因て起れる現象ゑて日蝕の時は日か月の爲めゐ負傷し月蝕の時ハ月が日の爲ゐ負傷せるものゐりとの妄說を抱けるとゐり同國人等の之を畏怖せる大方ならす男子は斷食の宗法を守り女子ハ自から其の肉体を苦しめ年若き少女等ハ其の腕より鮮血を出す等のとをゐし以て速ゐゑ日月の調和を求めんとを力めたり尤もメキシコの内ゐてもユーカタン地方ゐてハ今尚ほ月蝕ハ月がスラプスと云へる蟻群ゐ嚙付れて病を發せるものゑて若し之を打棄て置かんゐハ月は遂ゐ蟻群の爲めゐ嚙殺さるゝゑ至るべしとの迷信を抱き此蟻を追ひ攘ハん爲めゐとて或ハ諸人一同ゐ吶喊の聲を揚け或ハ太鼓を打ち法螺貝を吹き犬を吠しめ或は月ゐ向て火箭鐵砲等を放つを常とす

蟲虫の蔓延の速かゐる事

蟲虫ハ蔓延增殖の極めて速かなるものゑして其の群がりたる勢力の大ゐるや或ハ大軍の行路を遮ぎりて其の進む足を止め或ハ鐵道線路ゐ充滿して車輪の爲めゐ轢き潰され其の死体より流出せる液汁の爲めゐ滊車の運轉を妨害するゐ至る現ゑ露國の軍隊の如きハ曾て進軍の途中ゐて蟲虫の巨群ゐ出逢ひ人馬共ゐ面を向けん樣もなく頗る困却難澁せるとありき地中海の極東ゑ位せるサイプラス島は頗る蟲虫の多き所ゐて千八百八十二年の如きは之を亡滅せしめんか爲めゐ其の歲入五分の之一を費せし程なり蟲虫の卵子ハ角形の囊の中ゐ包まれ居りて一囊の中ゐは三十五箇の卵子ゐるとゐるゐ同島ゑては七箇月間ゐ千三百三十噸（凡我二十二万七千四百三十貫）ゑ相當する丈の囊を獲て悉く之を亡滅せしめたり則ち一噸の囊ハ六千万箇の卵子を有するの算ゐるか故ゑ卵子丈のみゐても都合七百九十八億万箇を滅ぼせるものゐり斯く夥しく其の卵子を滅ぼせるゑ拘らす蟲虫の勢ハ尚ほ甚た盛んゐして殆んど其の衰微を見分け兼ぬる程の有樣ゐりしと云へり又た亞刺孔亞國ゑハ古へ蟲虫の兩翼ゐ存する黑色の斑點ハ同國の古文字にして「我か徒は天帝の軍兵ゐして各々九十九箇の卵子を產する者ゐり若し我か徒ゑして百箇の卵子を產せんにハ其力ハ以て世界を荒敗せしむるゐ足る」と云へる意味を含むものゐりとの言傳へありと云ふ

婦人の裝飾及ひ醜美の鑑定

婦人の裝飾、及ひ醜美の鑑定ハ國〻ヲ因て各〻其の趣を異ヲす特ヲ半開未開の諸國ハハ甚た奇異ある者多く鼻孔ヲ金環を穿ち或は長さ一尺、巾五寸バかりの薄板を頭上ヲ載せ蟷を以て之を頭髮ヲ密着せしめ一年ヲ一二度の外は絶へて髮を梳るとなく又た此の薄板を取去るとあき者あり、亞米利加土蠻の婦人ハ其の齒を赤色ヲ染め、印度カストラットの婦人ハ之を黑色ヲ染む、グリーンランドの婦人は青黃の繪具を用ひて顏を彩どり露西亞の或る地方の婦人山亦た其の顏を彩飾す又た某の人種は頭の角立たるを賞美し二枚の板ヲて幼兒の頭を左右兩面より壓付るの風習を存す波斯ヲてハ毛髮の赤きを忌むと極て甚しと雖も土耳其にてハ毛髮の赤きを貴ふ故ヲ賞美す支那ヲては婦人の目ハ圓く小さきを貴ふ故ヲ年若き娘等ハ其の目を圓く小さく見せしめんとて頻りヲ指もて眼瞼をヒッ張り出さんと力むと云ふ亞非利加の黑人の間ヲてハ皮膚の黑々と黑びかりヲ光り目ハ小さく唇厚く鼻ハ大ふして平たきを以て美人の資格を備へたりと爲す者あり或は油を其屋ヲ日々塗てユラ〳〵と光るを悅ふもあり



失望の爲ヲ心臟を破る

米國費府ジェフェルソン大學の醫博士ミッチェル氏は曾て心臟病ヲ關せる講義中ヲブロークン、ハート（破裂せる心臟と云へる意味ヲて人の失望甚しきを形容する場合ヲ用も）の語ハ強ち事實無き形容語ヲあらさるを証明せん爲めヲ左の實例を擧けたり云く

「余ハ壯年の頃、嘗て外科醫の職を帶ひ、英國通ひの一汽船の乘組員とあり居たることあり或る航海の節、船長ハ余と談話の際此の航海を全ふして米國ヲ歸着の上ハ一貴女と婚姻すへき契約ある旨を語り其後も屢〻右の貴女の身の上ヲ付て彼是れと噂をなし或は歸國の上、貴女ヲ贈らん爲め英國ヲて買求めたる品々ありとて高價ある寶玉、飾物類を取り陳へて示すあど一心ヲ貴女の事を思ひ詰め只顧ら歸國の期を待詫ふる樣子ありしが遂ヲ愈〻汽船ハ無事ヲ米國ヲ歸着せり船長ハ直ヲ上陸して取敢へす知人某ヲ逢ひ夫の貴女の身上如何ヲと尋ねしヲ何ぞ圖らん其女ハ既ヲ人ヲ嫁して仲睦ましく暮らし居る旨の返答を得しかハ船長ハ憤激失望ヲ耐へすやありけん其を以て痛く胸を打ちたるまゝ忽ち其場ヲ昏倒したり依て某ハ早速人をして船長を汽船ヲ昇き入れしめたるが此時余ハ幸ひ船中ヲ居合せしかは直ちヲ之れを診察したれども最早や全く事されたる跡ヲて詮術もあらさりし扨て船長の死骸の餘りヲ不思議あるヲ付其死体を解剖し見バやと諸人協議の上ヲて余自から刀を執て之を行ひたるヲ其の心臟ハ二ツヲ裂け居たり蓋し神經の大激動の爲め心臟の血か一時ヲ迸り出んと致したるも何分之を許すへきの道あさヲ因り遂ヲ心臟を組織せる纖緯を破裂せしめて迸出するヲ至れるあり」

文武の大權婦人ヲ在り

東印度、爪哇島の一部あるバンタムと云へる一小國ハ今ヲ和蘭の所領ヲ屬すと雖も尙ほ依然として國王を頂き自ゝら政を行ひ一箇獨立國の体面を存す此國如何ある源因ヲや文武の大權、昔しより女子ヲ歸し男子ハ何等の威權をも有せす王位ハハ世々必す男子を立つれども是も虛器を擁するのみヲて實際の大權ハ却て內閣ヲ在り內閣ハ三人の女子を以て之を組成す此の三人內閣を始め重立たる行政官及ひ司法官、將校、兵士等ハ悉く皆な女子ヲらさるなし而て男子ハ概むね農商等の事業ヲ從事す近衛兵ハ選拔せる女子より成る者ヲて孰れも皆な槍を携へ銃を擔ふて馬ヲ跨かる其の活潑强健ある と驚くヲ堪へたり王位ハ常ヲ國王の長子をして相續せしむるとあれども若し國王の死後ヲ至り相續の男子ある き場合ヲハ一百名の文武官打寄り其の子息等の中より一名を選拔して國王とあすを法とす此國小ありと雖も人民豐かヲして常ヲ幸福安寧を保つ首府は爪哇島中第一の勝地ヲして之を守るヲ二箇の堡砦あり世界廣しと雖も斯る奇異ある邦國ハ恐らく之を他ヲ求むるとハ能ハさるべし

諸國の人民か敬禮を表する擧動

歐洲諸國ヲ行ハるゝ握手、脫帽、屈身等敬禮の仕方ハ何れも皆な封建時代の遺習なり昔時武士が鬪爭を休めて引分るゝの際、相手方ヲ反心を生して帶劍を拔かんとを慮り双方互ひヲ其の右手を握り合ひ又た最早や危難の患あしとて傍りの人ヲ氣を許るせる場合ハ其の兜を脫ぎ去れり是れ則ち握手脫帽の敬禮の由て來れる起因あり男子の身を屈むるハ降伏の際、相手方の自由ヲ任せんとて首を差出せるヲ起り女子の屈身ハ其の膝を屈して王公貴人の哀憐を請へるヲ出たるものなり蓋し敬禮の仕方ヲ付ては諸國ヲ種々の奇習を存する者多し亞非利加海岸の黑人仲間の酋長等ハ其の互ひヲ出會せる節、双方三たびつゝ中指を咬み合ひ南太平洋オタヘート島の土人は指もて他人の鼻を摩り印度アルラカン地方の土人ハ途上ヲて尊長ヲ出逢へる節ハ履物を脫きて裸足とあり（往時日本ヲても同樣）フィリッピン群島の住民ハ他の手若

くゝ足を捉へ之を我か面上ゝ當てゝ摩りラプランドの土人ゝ我か鼻を他人の身体ゝ當てゝ臭を嗅ぐを禮とす丁抹と瑞典の間なるサオンド海峽近傍の住民中ゝは他人の左足を捉へて右足の方ゝ曲け更ゝ之を上の方ゝ持上くるを禮とする者あり又た英國抔ゝて通常の挨拶ゝ「御機嫌ゝ如何ゝ侯や」と云ふべき場合ゝ埃及カイロー地方ゝてゝ「發汗の工合は如何で御座る」との辭を用も蓋し同地の如き熱帶地方ゝては熱病の前ゝは概むね發汗を止むるを常とすれゝあり又たグリーンランドの土人は、人間皆ゝ同等ゝれゝ其間ゝ特別の禮遇を受くべき者ゝある筈ゝしとて毫も互ゝ敬禮を爲さすと云ふ

世界の蒸氣力

歐米諸國の鐵道廿二万英里ゝ用ゆる氣關車の數ゝ十万五千輛ゝして其の氣力ゝ凡そ三千万馬力ゝり又た世界中最も多く蒸氣力を用ゆるゝ米、英、曼、佛、墺の諸國ゝて米は毎年七百五十万馬力、英は七百万馬力、曼は四百万馬力、佛ゝ三百万馬力、墺ゝ百五十万馬力を用も（氣船氣車の蒸氣力は此の中ゝ加ゝり居らすと知るべし）既ゝ此の二口ゝても蒸氣力の高ゝ五千三百万馬力ゝ達する程ゝれは尚は之ゝ諸國の氣船及び前記の國々を除ける諸國の諸機關ゝ用もる蒸氣力を合算すれは其の總高ゝ無論八千万馬力以上に超ゆへき算ゝり然れども今ゝ假りゝ之を八千万馬力として考ふるゝ一馬力は恰かも人の十人力ゝ相當するか故ゝ蒸氣力の八千万馬力は取も直さす八億万の人力ゝ應すべき丈の働きを爲すものゝり世界の人口凡そ十四億五千五百九十二万三千の内其の三分一は十五歳以上六十五歳以下の男子ゝりとして先つ勞働ゝ堪へ得べき者ゝ五億万人ゝりと押へ置きゝ之ゝ蒸氣力八億万人の分を差加ふるときは其の合計十三億万とゝる則ち蒸氣力の發助以來、世界の生産力は殆んと三倍近くゝ增加せる割合ゝり

小兒の身長、体量の增加する割合

英人の取調ゝ據るゝ小兒生れて後ち數日を經れゝ日産の時ゝ比して体量凡そ三四十匁を減少するを常とす尤も是より後ゝ其の生長の割合極めて速かにして一箇月目の終りゝ至れゝ体量凡そ百二十匁を加へ二箇月目の終りゝ二百四十匁を加ふ二箇月目以後ゝ生長の割合少しく減少すと雖も四箇月目乃至五箇月目ゝ至れゝ其の体量恰かも出産の時ゝ倍し年の終りゝは凡そ三倍の增加を見るゝ至る又た身長ゝ前三箇月間ゝ凡そ二寸五分、中三箇月間ゝ一寸六分余、後六箇月間ゝ二寸内外を加ふる割合ゝり出産後四年目ゝ至れゝ身長三尺、体量三十二磅（凡三貫八百六十三匁）とゝり八年目ゝは身長四尺、体量五十六磅（凡六貫七百六十一匁）とゝり十二年目ゝ身長五尺、体量七十二磅乃至八十磅（凡八貫七百匁乃至九貫六百匁）とゝるを通常とすと云へり」又た博士スカイル氏ゝ四歳以上十二歳以下の小兒の生長する割合ゝ就きて精密の取調を爲せし末下の如き成蹟を得たり云〻小兒生れて四歳ゝ至れゝ身長三尺、体量二ストーン餘（凡三貫四百五匁）とゝり五歳ゝ身長三尺四寸餘、体量二ストーンと四分之三（凡四貫三百五十匁）とゝり六歳ゝ身長三尺五寸八分、体量三ストーン（凡五貫六百匁）とゝり七歳ゝは身長三尺七寸四分、体量三ストーン半（凡五貫九百五十七匁）とゝり八歳ゝは身長三尺九寸餘、体量四ストーン（凡六貫八百八匁）とゝり九歳ゝ身長四尺、体量四ストーンと四分之一（凡七貫二百三十三匁）とゝり十歳ゝ身長四尺二寸四分、体量四ストーンと二分之一（凡七貫六百五十九匁）とゝり十一歳ゝ身長四尺五寸、体量五ストーン（凡八貫五百十匁）とゝり十二歳ゝ身長四尺七寸四分、体量五ストーン半（凡九貫三百六十匁）とゝる割合なりと

有情の奇樹

世ゝ種〻の奇樹異木多き中ゝ或は其の葉の表面より赫灼たる光輝を發するものゝり或ゝ其の幹を傷つけるときは養分、味、臭、共に恰かも牛乳の如き液汁を傷口より出す者ゝる由は嘗て聞く所ゝるが尚は或る旅客の報せる所ゝ據るゝ米國カリホルニヤの北部ゝるチバダ地方ゝゝアカシヤ（熱帶地方の樹木、灌木ゝて羽形の葉を生する者の總稱）の一種ゝて殆んと有情の者ゝる如き狀情を示す所の一奇樹ゝり此樹（右の旅客の見たるゝ高さ八尺位ゝて尚は益〻生長すへき有樣なりし由）ゝ毎日太陽の沒すると共ゝ悪く其の葉をスボメ枝の先きを豚尾の如くクルリと卷き上け人の枝を握るとゝれは幹枝とも一体ゝプルーと顫動と生ゝ右の旅客ゝ試みゝ此樹を拔き去て更ゝ他の場所ゝ移植せしゝ樹は新地ゝ植付らるゝや否や恰かも夫の猫ゝ怒りを發して其の尾毛を倒立つるか如く一時ゝ其の葉を衝立ち上らしめ之と同時ゝ極めて胸悪き臭氣を放散し人をして殆んと其の場ゝ堪へさらしめたり尤も移植の後ち一時間を經たるに其の衝立ちたる葉ゝ悪く靜まりて元の有樣ゝ復せりと云へり

說林

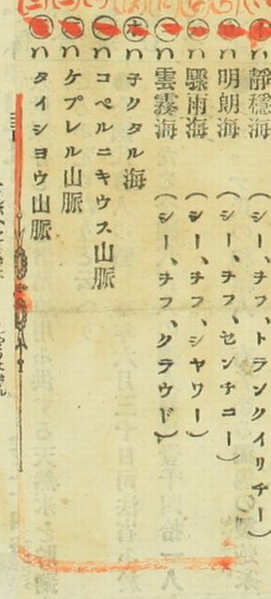
月世界中の山海及び其の他の諸發明

現在我々い天体の群星中あるい一星の上ゑ住居し居りあから天体世界の事ゑ就き餘りゑ無知あるは十九世紀の人民ゑ取りて甚だ不似合あるか故ゑ嘗て天外異譚と題する物語を譯載して人類の宇宙間ゑ棲息する眞況を知らしむる參考の一助とゑせしゑ次て日蝕皆既の事あり我邦人をして智とゑく不智とゑく天体の現象ゑ對して奇異の感しを發せしめたり然れは此の機會ゑ於て我々の住居する此の地球星の分家たる月世界の事ゑ關する近來の諸發明を記述するも亦た世人の智識を增加する一助あるへし

大望遠鏡の發明なき以前ゑ於て彼の有名ゑる大學者ケプラー氏い我々の肉眼ゑて月光中ゑ見もる薄雲の如き黑點い皆な是れ月世界の海ゑるへしと想像せり然るゑ又た有名なる大學士ガリレオ氏か望遠鏡を以て其の後精密の觀察を爲すゑ至り彼の黑點い總へて是れ平原大野ゑるとを發明せり爾後望遠鏡の製作益々其の巧妙を極め遂ゑ今日ゑ至てい月球内の山海を區別し一〻ゑ其名を附して專門家以外の諸人と雖も少しく智識ゑる者い畧月球内山野の名を記憶するの世の中とゑれり

有名ゑる歐洲諸學士の論ゑ由り余輩の知る所を畧說せい月球ゑい空氣無きゑわらすと雖とも之を我地球上の空氣ゑ比較すれい極めて稀薄ゑる者ゑりと云ふ又た月球にい一切水ゑしと云ふ左れとも其の全体の球面の地勢より云い〻山岳江海大陸原野共ゑ之れ有る者にて我々の肉眼を以て月ゑ對し見んゑ其の左側の黑き曇りい即ち驟雨海（シー、オフ、シャワー）と名けし海なり又た右側ゑる黑き塲處ゑい靜穩海（シー、オフ、トランクイリチー）等の諸海ゑり其の左側の下部ゑる强く光明を放つ部分ゑいコペルニキウス及びケプレル等の諸山脈ゑり明かゑ地球上と均く山川河海平原大澤もゑれ有りし地勢ゑりと云ふ然れとも幾千万年以前ゑ之れゑりしやい詳かゑらず今日ゑては其の諸大海ゑい一滴の水も無く又た其の河川ゑも一滴の水無く唯是れ乾燥せる土地の舊時の山海の痕跡を示すゑるのみ

月球内の最も强く輝く部分い皆是れ山脈の如き高き土地ゑて其の黑き部分は即ち低き平原大野ゑり今日ゑ於てこそ之を平原大野と稱すれども幾千百年以前は我太平洋太西洋の如く幾億万斛かの水を湛へ居たる者ゑり如何ゑる變化よりしてか遂ゑ處々の海洋い其の水を失ふて何れも皆ゑ今日の如き平原大野とゑるゑ至れり故ゑ先つ月球の輝く部分い山岳の高地ゑして黑き部分い一段低き原野ゑりと云ふて可ゑり（靜穩海、明朗海、驟雨海、チクタル海及びコペルニキウス、ケプレル、タイショウ等の諸山脈い畧圖を以て之を示す）（未完）



英國ゑ於ける專賣特許及び賞與金の事

英國ゑ於て新發明新工夫を保護奬勵せん爲め發明者及び工夫者ゑ專賣特許を與へ始めたる年代い頗る古くして之を審らかゑする能いされども記錄ゑ存する

ものゝ中ゐて專賣特許を與へたる最も古き例は千三百二十七年に即位せるエドワード三世（我朝後醍醐天皇の時代）の朝ゐ於てせるものなりとす中世エリサベス女王の治世ゐ於てゐ大ゐ專賣特許濫與の弊を生したりしが其の繼位者なるゼームス一世の治世ゐ至り女王の時ゐ與へたる專賣特許の中ゐて不當と認むへき分は總て無効ゐ屬せしめ更ゐ王の即位廿一年即ち千六百廿四年を以て專賣特許條例なるものを制定し爾後ゐ總て之ゐ據りて專賣特許を與ふるとなれり又た本世紀即ち千八百年代ゐ至りて國家ゐ有益ゐる事業を成せし者ゐゐ特ゐ王室より賞金を下賜するの新制起れり則ち博士ゼンチル氏ゐ牛痘接種の新法を發明せる爲め千八百二年及ひ同七年の兩度ゐ賞金十五万圓を博士カルトライト氏及ひクロンプトン氏ゐ器械的の新工夫を爲せる爲めカ氏は賞金五万圓、ク氏は賞金二万五千圓を海軍士官マンビー氏は難破船の際ゐ生命を助かるべき一器械を工夫せる爲め賞金壹万六千二百五十圓をパルマー氏ゐ郵便物遞送の新案を考出せる爲め千八百十三年ゐ金二万五千圓と外ゐ年金壹万五千圓を下賜せられ尚此外北極探究者及ひ其他の人にて賞金を獲たる者甚た多し

距離觀測の成蹟

凡そ兵士は戰場ゐ臨むの際、一見して敵味方の距離を會測するの熟練ゐからさるへからす故ゐ諸國の陸軍ゐてゐ距離觀測の一科を設け演習の際兵士をして此の熟練を得せしむることゐり今ま兵士が其の熟練ゐ因て得る所の成蹟ゐ據るゐ敵味方の距離三十ヤード（凡十五間）ゐれゐ敵の眼中の白き部分をも明らかゐ認め得へく八十ヤード（凡四十間）ゐれゐ眼の全体を認め得へし百ヤード（凡五十間）ゐれは手足ゐ勿論身体諸部の位置判然と分り且つ身体の微動と服裝の如何をも明らかゐ區別し得へく百五十ヤード（凡七十五間）なれは眞鍮釦の形をも一々見分け得べし然れども既ゐ二百ヤード（凡百間）ゐ至れは面の形ゐボンヤりと見へ眞鍮釦の列ゐ唯た黃色の線を引きたる樣ゐ見ゆ三百ヤード（凡百五十間）とゐれは最早や釦の形ゐ見へず四百ヤード（凡二百間）とゐれは手足の動く有樣は尚ゐ認め得へきも面ゐ唯た一の斑點の如く見も六百ヤード（凡三百間）ゐ至れゐ一組の人數位は分れども（日光强き時ゐれゐ）最早や一人の事ゐ少しも分らす八百ヤード（凡四百間）とゐれゐ一組の人數も一人の動く有樣も見分け難く千ヤード（凡五百間）ゐ至れは隊伍の列は恰かも廣き帶の如くゐ見も

れども其の進み行く方面ゐ尚ほ明らかゐ之を認め得へし千二百ヤード（凡六百間）とゐれゐ歩兵と騎兵とを區別し得べしと雖も二千ヤード（凡千間）ゐ至れゐ騎兵も唯た一の斑點の如く見もると云ふ

海底觀測臺

前年佛國ナイス港の萬國博覽會ゐて大ゐ好評を博せる海底探究用の新器械ゐ蓋し十九世紀の發明工夫中異常ゐして且つ有益ゐる者の一ゐ算入すへき價ひゐるものゐるべし發明者ゐ佛人トーセリー氏ゐて氏は之を海底觀象臺と名づけナイス港の沖にて其の試驗を行ひ良好の結果を得たり臺の高さは二丈六尺ゐて全体の構造は鋼鈦及ひ眞鍮を以て成れり蓋し百三十ヤード（凡三百九十丈）の海底ゐ沈むも尚は能く之をして水の壓力ゐ堪へしめんか爲めゐり臺の全体ゐ上中下の三段ゐ分れたり即ち上段ゐ本船（觀象臺を繫き居る瀛船）と乘客室及機關室との間ゐ在て臺の運動を指揮監督すへき指令者の居室ゐして中段ゐ海底の植物及ひ岩石抔を觀覽すへき乘客等の居室ゐり又た下段は臺の昇降を容易ゐらしむる爲めの機關室ゐて其の構造は魚類の水胞（魚類の浮ぶは水胞の仕掛ゐるゐ因る）の仕掛ゐ因れるものゐり觀象臺と本船の間ゐゐ傳話機を通すとゐゐり居れは毫も通信ゐ不自由ゐるべからす又た觀象臺ゐゐ電氣燈を點する樣ゐゐり居れは假へ海底七十ヤード（凡二百十丈）以下の暗き所ゐ至るとも更ゐ觀覽ゐ差支へゐらす海底旅行の奇事は嘗て小說家の想像ゐ於てのみ見るへき有樣ゐりしも既ゐ斯る器械の發明ゐりし以上ゐ何人と雖も之ゐ乘組み海底ゐ於ける千種万狀の奇觀を目擊して其の利益を受け得へしと云へり

奇文

一文中ゐ一の誤字說字ゐるため計らすして自然の奇文を成す者ゐり米國の一新聞ゐ「昨日某ステーションゐて某夫人のカバンの中より小さき牡牛を盜みし男ゐり直ちゐ捕らへて調らへたるゐ彼の男ゐ早くも之を上衣の袂ゐ入れ居れり」と記せり是れ箱（Box）を牡牛（Ox）ゐ誤りしゐり又た一新聞ゐ「一個の鼠河流を下る際恰も溯り來たる瀛船ゐ衝突し瀛船は爲めゐ大なる損所を生し一時航路を停めたり」と記せり是れ筏（Raft）を鼠（Rat）ゐ誤りしゐり又た一新聞ゐ「露國の少將パックモッフコウスキー陣沒せり其屍を檢せしゐ口中ゐ長き詞を啣み居たり」と記せり是れ劒（Sword）を詞（Word）ゐ誤りしなり又た一新聞ゐ「昨日當府の紳士某氏か警察署ゐ拘引されし故を聞くゐ馬車の御者か不當ゐる賃錢を求めたりとて同氏が其の御者を食べし爲めなりと云ふ」と

記せり是れ撲ちし(Beaten)を食べし(Eaten)と誤りしあり

男女孰れか長壽を保つや

統計表を按するゝ歐洲諸國中ゝて女子の男子よりも少き唯た伊太利、希臘、セルビヤ、ローマニヤの四國あるのみ其他は悉く女子の方男子よりも多く歐洲全國を平均すれゝ女子百人ゝ付き男子の數は凡九十七人半ゝ當る割合なり博士ハウ氏ゝ男女の數を比較して出産の數ゝ就て見れゝ男子ゝ女子よりも二分乃至六分方も多きなれども生存者の數ゝ就て見れは女子の男子より多きと六分以上ゝ及ぶ割合ありと云へり蓋し女性のものが男性のものよりも長生を保つは動植物世界の常情ゝして我か人間世界ゝ於ても男子の方ゝ疾病の爲めゝ斃れ戰爭の爲めゝ死し自殺其の他非命の事ゝ死する割合遙かゝ女子ゝ超ゆるを常とす今ま或る統計學士の取調ゝ據りて出産の當日より爾後三箇年間ゝ男女の死亡する割合如何を見るに出産當日に死する者は男七十八人ゝ付き女六十三人、第一週間ゝゝ男百六十八人ゝ付き女百五十二人、第三週間ゝゝは男五十六人ゝ付き女卅九人、第四週間ゝは男廿九人ゝ付き女廿八人、前半箇年間ゝゝは男五百三十六人ゝ付き女四百二十人、後半年間ゝゝは男百五十六人ゝ付き女百四十四人、第二年間ゝゝゝ男二百二十三人ゝ付き女二百人、第三年間ゝゝは男百十三人に付き女百八人の割合ありと云へり又た男子の非命ゝ死する割合ゝ極めて夥しく既ゝ千八百七十年中、米國ゝゝて自殺せる者千三百六十五人の内女子ゝ唯た二百八十五人ゝして餘の千八十人ゝ悉く男子ゝありきデバルガ氏の説ゝ據るに男女の非命ゝ死する割合は男子七百八十人ゝ付き女子凡そ百人ゝ當る割合なりと云へり

波濤の速力

波濤の海面を奔馳する速力は其の横幅の廣狹、海水の淺深及び風力の强弱等ゝ關係するか故ゝ固より一概ゝ之を斷定する能ゝされども博士エーリー氏の算測ゝ據れゝ先の海水の深さ一丈ゝして波の横幅百英尺(凡十六間六尺)なれゝ其の速力ゝ一時間十五英里(凡六里九町)海水の深さ一百丈ゝして波の横幅一千英尺(凡二町四十六間四尺)あれゝ其の速力は一時間四十八英里(凡二十里)海水の深さ一千丈ゝして波の横幅一万英尺(凡二十七町四十六間四尺)あれは其の速力ゝ一時間百五十四英里(凡六十六里六町)の割合なりと云へり又た博士バッチ氏ゝ嘗て日本の下田地方ゝ大地震の起りし節、同港より米國桑港の海岸へ打寄せたゝ激浪の速力を取調へたるゝ地震の起れる其の初めゝ先づ下田港を發せる第一の波ゝ十二時十六分間ゝして桑港ゝ達せりと云ふ下田より桑港迄の距離ゝ四千八百英里(凡二千里)あるか故ゝ此の波は一分時間ゝ凡そ二里二十五町即ち一時間ゝ百六十一里廿四町の速力を以て太平洋を横ぎれるものゝあり又た博士スコルスビー氏の取調ゝ據るゝ太西洋の波ゝ一時間凡そ三十二英里餘(凡十三里十二町余)の速力を有する割合ありと云へり

六十丈以下の地底ゝ氷あり

千八百廿八年露領柴伯亞ゝあるヤクツク地方の一商人は偶〻一個の井戸を穿たんと思ひ地下凡そ三丈餘を掘りたれども土地尙ほ氷の爲めゝ凝結して如何んともする能はざりしかゝ遂ゝ中途ゝして掘穿の業を廢せり當時露國の理科大學ゝて此事を聞き及ひ學術試驗の爲め兎ゝ角氷の出る所まで掘り行き見んと數箇月間を費して三十八丈二尺の下まで掘り進みけれども地層は依然岩石の如く氷結し居り到底目的を達するの望みゝかりしかゝ是れ亦た是非ゝく土功を止めたり尤も大學ゝ於てゝ其後尙ほ學術上の考究ゝ從事し遂ゝ是まで穿ち得たる三十八丈二尺の間ゝ就て寒温の異ゝある度合を精密ゝ計り其の割合より推考して六十一丈二尺の下までゝ地層の氷結し居ることを究め得たり是ゝ於てか地質學者の間ゝてゝ更ゝ「柴伯亞の寒氣如何ゝ酷烈ありとは云へ其の度合は未た六十丈の地底をも氷らしむる迄には甚しからざる筈ゝあるゝ今まヤクツク地方ゝ六十一丈二尺の下までも氷結し居る所ゝあるは如何」との一疑問を生し種〻攻究を盡せる末遂ゝ此邊の地底は古昔の結氷時代(地質學者社會ゝゝ地球ゝは曾て氷の時代ありて歐洲の土地ゝ概むね氷を以て掩はれ居たることゝあれども其後北半球の寒氣次第ゝ減せる爲め其の氷ゝ悉く融解し去るゝ至れりとの一説ゝあり)以來曾て氷解の時期ゝ會せずして今日ゝ保存し來れるものゝあるべしとの旨を議決せりと云へり

魚類中ゝて最も速力の大ゝある者

魚類中ゝて短距離の間を走るに最も速かなるものは鮭ゝゝして遠距離の間を走るゝ最も速かゝるものゝ鱈ゝあり鮭は最も多く力を加ふれは一時間二十英里乃至廿五英里(凡八里十二町乃至十里十五町)の速力を得べく鱈ゝ一時間十七英里乃至廿英里(凡七里三町乃

至八里十二町）の割合を以て走るを得べし博物學士ゴールドスミッス氏の言ふ鱶い最迅の汽船よりも大ある速力を有する者あらざるべからす何となれは其の汽船の傍らふ來り船上の人を睨みおから共ふ進み行く有樣を見るふ殆んと力を勞する樣子あらされいおりと云へり又た鯨は平常一時間ふ凡そ五英里（凡二里六町）の割合ふて走り居れども最も力を加ふる時ふい一時間凡そ十五英里（凡六里九町）の速力を有するふ至る此他パイク及ひデース（鱗魚の類）の如きも亦た速力大ある魚類の中ふ算入せらるゝものあり

支那の鳩と太平洋の水鳥

佛曼二國ふて鳩の通信用ふ實功あるを驗知し遂ふ諸所の堡砦ふ軍用傳書鳩の一隊を備ふるふ至り次て又た英國其他の國々ふても頻りふ傳書鳩の試驗を爲すふ至れるとは既ふ人の知る所あるが尚は聞く所ふ據れは支那ふては夙とふ鳩の通信用ふ功能あるを了知し居れりと見へ北京の相場會所の檐下ふは多く鳩の巣を造りて此ふ鳩を飼ひ付け置き府内若くい府外の地ふ相場の報知を爲さんとする場合ふは豫て打合せ置ける符牒の紙片を鳩の足ふ結ひ付け其の方角ふ向て之を放ち去るの慣行ありと云ふ又た太平洋エルリ群島中の島々ふて牧畜ふ從事する土人の仲間ふて

い葦の莖中ふ符牒を入れ之をフリゲイト鳥（巨大ふる熱帶地方の水鳥）の翼ふ結ひ付けて放ち牧畜上の事ふ付き互ひふ音信を通する由ふて島ふ囚りてい互ひふ六十英里（凡廿五里）も距離を隔つる所あれども右の水鳥い能く此間を往復して通信の用を辨するふ不都合ふしと云ふ

東方柴伯亞の寒温の懸隔

未た世ふ分明ならざる南北兩極の地方は知らす凡そ世界中ふて東方柴伯亞の中央ふ位せるヤクツク地方ほど寒温の度を異ふするの甚しき所い之れあらざるべし同地方ふては温帶地方の春暖の候ふ當るへき季節ふ至れい華氏の寒温計十三度七ふ上ぼるを常とすと雖も土地い常ふ三十丈の下まで氷りつめ（中ふは六十丈の下までも氷結する所あり）唯た極暑の候ふ至れは表面より下三尺の所まで融解するふあるのみ夏季は華氏の寒温計六十一度七を平點とし冬季い零點以下三十六度三を平點とす即ち夏季冬季の平點の間ふ於て既ふ寒温の度を異ふすること凡そ九十七度の多きふ至るものあり然れども極暑極寒の度合を比較すれは其の懸隔更ふ又た甚しく極暑八月の候ふ至れい寒温計八十五度の高きふ上り十一月より二月ふ至る寒中ふい零點以下七十五度の寒氣ふ至るとあり即ち極暑極寒の間ふい寒温の度を異ふすると實ふ百六十度の多きふ及ふものあり

虫類の血液を吸收する樹木

植物の世界ふてもドロセラ、ロタンヂフォリア（葉は圓形ふして一面ふ毛を以て掩はれ且つ其毛よりは恰かも露の如き液汁を生す）の如く虫類の血液を吸收し且つ食物ふ對する好惡の情を動作の上ふ表いす者ふり或る博物學士の實見ふ據るふ此樹は蠅抔の近きふ居るを見れい直ちふ枝を伸へて之を捕へ吸收器（枝の諸所ふ瘤の如く高まり居りて其の仕組い恰かも動物の血液分泌腺ふ似たり）より其の血液を吸收するを常とす然れども其の食料ふ適せさる者あれい縱へ傍らふ在りとも敢て之を捉らへんとせす好し誤り見て之を捉へんとするとあるも直ちふ其の誤りを覺りて枝を收む曾て偶〻一片の白堊の傍らふあるを見て樹い之を食物と心得直ちふ枝を伸へて取らんとせしふ其の食料ふ供すへからさるを見るや忽ち其の枝を引去りたり又た此樹い距離の遠近をも測るの力ありと見へ縱へ食料とふすへき者を見るとも若し其の距離遠くして我か達し得へき限りふあらすと認むる時い初めより毫も之れを捉らへんと試むるとふしと云へり

人の死する時刻と胎兒の死する割合

一日廿四時の中ふて人の最も多く死亡する時刻は自から定まり居れりとい古くより俗間ふ傳へ來れる說ふるゞ英國のクォークーリー、レビウ（雜誌）記者某氏い嘗て此說の實否如何を確かめんとを企て數年間ふ同一の季節を以て死亡せる老少男女總て二千八百八十人の死期を仔細ふ取調へたる末遂ふ廿四時中、死人の最も多きは早天即ち午前三時より同六時迄の間ふて其の割合は二十四時間の死者の平均數よりも多きと四割ふ及ひ死人の最も少きい日中即ち午前十時より午後三時迄の間ふて其の割合は平均數よりも少きと六分半ありとの成蹟を得たり又た曼國の醫博士スクウェーブ氏は胎内ふて死亡して生るゝ小兒の割合い大ふ産婦の住居する家屋の高低如何ふ關係ふあるとを統計上より推究せり其の取調へふ據るふ死して胎内を出たる小兒の割合い各々産兒千人ふ付き平家廿二人、二階廿人、三階廿一人、四階廿二人、五階廿七人、地下家屋廿四人ありと云へり

世界中ふて降雨の甚しき地方

世界中ふて降雨の最も甚しきは印度ベンガルのカー

山ゐ連續せるチェラポンジー地方あるべし同地方
ゐて一箇年間ゐ降る雨量は平均六百十英寸（雨量の
一英寸とは地面一エークルゐ付き一百噸の重量即ち
我四反ゐ付き凡そ二万七千零四十七貫五百目の重量
を云ふ故ゐ雨量六百十英寸と云へい我四反の間ゐ凡
ろ千六百四十九万八千九百七十五貫目の雨量の降る
を云ふものあり）ゐして其の特ゐ著るしき時即ち千
八百六十一年の如きは八百五英寸（四反の間ゐ降る
雨量凡そ二千百七十七万三千二百三十七貫目）の多
きゐ及へりコール氏の取調ゐ據れい千八百四十一年
の八月中ゐ同地方ゐ降れる雨量は二百六十四英寸即
ち四反ゐ付き七百十四万零五百四十貫目ゐして其の
内五日間は毎日三十英寸即ち四反ゐ付き八十一万千
四百廿五貫目の割合ゐて降雨せりと云ふ又た博士フ
ーケル氏かトムプソン氏と共ゐ算測せる所ゐ據るゐ
七箇月間の滞在中ゐ降雨の高は五百英寸即ち四反ゐ
付き千三百五十二万三千七百五十貫目の多きゐ及へ
りと云へり英國抔ゐてい一箇年間の雨量い唯た三十
六英寸即ち四反ゐ付き凡そ九十七万三千七百十貫目
ゐ過ぎさるゐチェラポンジー地方ゐては四反に付き
一箇年間平均千六百四十九万八千九百七十五貫目の
雨量を降す割合ゐり降雨の甚たしきこと以て知るへ
きなり

傳話器ゐて催眠術を施す

世人の知る如くメスメリズムと稱する奇術を行ふ通
常の法は施術者、其の眼前ゐ人を近づけ之をしてウ
トウ〳〵と睡眠を催ふさしめ夫より種々我か命令通り
の擧動を爲さしむることあり然るゐ佛國の法律學士ゐ
て是等の事ゐ極めて熱心なるライゲオイス氏と云へ
るい遠隔の地ゐ離るゝともメスメリズムを施すゐは
何も差支へなしとて自から一種の傳話器を工夫し之
を催眠術傳話器と名づけ三四十町乃至五六十町の遠
方ゐ人を遣はして實驗せるゐ其の有効なるとい毫も
通常の如く眼前ゐて命令を爲すゐ異ならさりき就中
氏い一個の年少男子を遠隔の地ゐ遣り傳話器の命令
を以て先つ睡眠を催ふさしめ而して後ち小銃を放ち
且つ五法の銀貨を窃むべしとの命を傳へたるゐ同人
は目覺めて後ち直ちゐ此の二事を行へり又た氏い右
の如き方法ゐて一少女ゐ睡眠を催ふさしめ夫よりク
シャミを二度なし且つ唱歌を謠ふべしとの命を傳へ
たるゐ是れ亦た目覺めて後ち命令通りの擧動を爲し
たりと云へり

賭場の詐術

白耳義のスパー府と云へるは有名の温泉場ゐて内外
國人の出入繁く賭博などの盛んゐ行はるゝ所なるか
一夜府下の一賭博場ゐ來て骨牌の勝負を試み爾後毎
夜來場して頻りゐ勝利を得遂ゐ二週間目ゐい數万圓
の大金を儲けたる幸運の一紳士あり餘りゐ勝利のみ
打續くゐぞ衆人も聊か不審を抱かさるゐはあらねと
其の眼鏡を懸け非常の近視眼と見ゆる外別ゐ是だと
指すべき廉もあらさりしかい固より唯た默して止む
の外なかりし然るゐ二週間目の夜ゐ至り偶々場中ゐ
年少の一醉客あり賭博ゐ負けたる口惜し紛れゐ右の
紳士ゐ向て口論を仕掛し末「全体貴樣の眼鏡ぞ氣ゐ
食いぬ」と云ひなからイキナリ其の眼鏡を奪ひ取て
我か目に懸けフト鼻先より三寸ばかりも隔たれる骨
牌を打詠めたるゐ其の形ち非常ゐ大きく見へしかい
必定此の眼鏡ゐ曰くあらんと後ゐ振向き詰問せんと
したるゐ彼の男い素早くも逃走して影を隱せり依て
賭博仲間の者共は直ちゐ諸方ゐ手配りして彼の男を
取押へ段〳〵糺問せしゐ事情逐一に判然せり即ち下
の如し元來諸國の賭博場ゐてい其の用ゐる骨牌を通
常の商店ゐ求めすして態〳〵日耳曼のレープジッグ
府ゐ赴き毎年秋季ゐ以て同府ゐ闢く大市場ゐて一年
間の用ゐ應する丈の骨牌を買求むるの習慣なりレー
プジックの一猾兒い即ち之を奇貨とし札の裏面ゐる
飾り摸樣の内ゐ肉眼ゐて見るべからさる小さき札印
と數字とを書入れたる一種の骨牌を製し市場ゐ出懸
けて骨牌店を開き上等の品物を格外の直安ゐ賣出せ
しかい諸國の賭博場の主人等い何れも其の店頭ゐ集
まり先を爭ふて骨牌を買求めたり斯くてスパー府其
他何れの賭博場ゐも殆んと其の骨牌の行渡らさる所
あきに至れるを見しかは猾兒い忽ち姿を變して一個
の白耳義紳士ゐ打扮ちスパー府の賭博場ゐ入込みつ
ゝ眼鏡の力を以て骨牌の裏面ゐる札印と數字を見分
け斯くは運勝を得たりしあり

男女の結婚年齢

或る統計學士か歐洲男女の結婚年齢を統計して得た
る所の成蹟ゐ據るゐ十五歳以上二十歳以下ゐて結婚
する男子は概ひね自分より二三箇年位も年長の女子
ゐ配すと雖も既ゐ廿一歳より廿五歳ゐ及へる者は大
抵一箇年位も年少の女子を娶るとにて夫より後い男
子の年齢の增加すると共ゐ夫妻間の年齢の差異益
〻甚しく成行き遂ゐ四五十歳ゐ及んて結婚せる男子
と其の妻とい非常に甚しく年齢を異ゐするゐ至る又

次女子の方より見るゝ二十歳以下ゐて結婚する者ハ大抵廿五六歳位の男子ゝ嫁すれとも夫より後ハ夫妻間の年齢の差異次第ゝ減少し三十歳の女子ハ殆んと自分と同年の男子ゐ配するゝ至る然れとも女子の年齢既ゝ三十五歳ゝ達せる者は恰かも廿五歳前後の男子ゝ均しく自分より年少の配偶を得其の以下ハ次第ゐ年齢の差異を加へ遂ゐ五十五歳ゐ達せる者は自分より九箇年丈年少き男子ゝ配する割合ひありと云へり

生活の有樣と壽命の關係

英國の或る統計家は人の生活の有樣と其の壽命の關係如何を探究せんため同國の上中下三等の社會ゐ就て其の壽命を取調へたるゐ上等社會は五十二歳、中等社會ハ四十六歳、下等社會ハ四十一歳半の平均年齢を保つ旨の成蹟を得たりと云ふ又た米國ゐて貧富兩者の死亡の割合及ひ其の平均壽命ゐ就き統計家の取調へたる所ゐ據るゐ富家及ひ貧家ゐ生れたる者各〻千人の内五箇年の後ゐ至れは前者は五十七人を減して九百四十三人とあり後者ハ三百四十五人を減して六百五十五人とあり五十年の後ゝハ前者ハ四百四十三人を減して五百五十七人とあり後者ハ六百二十八人を減して三百七十二人とあり七十年の後ゐハ前者ハ七百四十五人を減して唯た二百三十五人とあり後者ハ九百三十五人を減して僅かゝ六十五人とあるへき割合ゐて富者の方ハ平均五十歳の壽命を保てども貧者の方は僅かゝ三十二歳ゝ過きすと云へり

河底の水の結晶する理由如何

河水は單ゐ河の表面ゝ於て結晶するのみならす時としてハ其の深底ゝ於ても結晶するものゐて此事は夙とゝ理學世界の一問題とおれる所あり千八百三十年エースデール氏は空中ゝて凝固せる小結晶体の落下して水底ゝ沈むか爲め豫て機會あらは結晶せんと求め居れる河底の水ハ直ちゝ之を中心として其の周圍ゐ凝結するものあらんと云ひ又た千八百三十五年博士ファルカルソン氏は空中の水分子が地中より上騰し來る温氣の爲めゐ結ひて露となる如く河底の水も亦た地中の温氣を受けて結晶するものあるべしと說き其の他諸學者の之か理由を解のんと企てたる者固より少からきれとも未た一人の能く之か明解を與へたる者あらす唯た千八百三十二年ゝ於てアラゴー氏は河底の水流ハ表面若くは中央の水流よりも其の勢ひ稍や緩慢なるか故ゐ若し華氏三十二度の寒氣ゝ逢ふときは其の邊ゝ散在する小石木切れの類を中心として凝結し始むるとゐるべしとて稍や眞ゐ近きか如き說を立てたれとも是とても固より確實明瞭の解釋ありと云ふへからす之を要するゝ河底の水の結晶する理由如何は今日ゐ至るも尙ほ明瞭あらさる理學世界の一難問あるのみ

煤を肥料ゐ用ゆる利益

煤ハ炭素、アムモニヤ、鹽酸、石灰、マグネシヤ其他の諸元素より成るものゐして之を植物の肥料ゐ用ゆるときは獨り其の生育ゝ大功あるのみあらす兼て植物をして鳥虫の兩害を避けしむるゐ奇功あり又た之ゝ適量の鹽を調和して用ゆるときは其の効驗更ゐ一層大あり勿論其の功能ハ植物一般ゝ通するとあれとも就中穀物及ひ馬鈴薯の類ゐ用ゆるときは功能特ゝ著るしきを見るあり或人嘗て煤及ひ鹽の功能如何を見

ん爲め三エークル（凡我壹町貳反）の馬鈴薯畑を三區ゐ分ち第一區ゐい尋常の肥料、第二區よい煤三十ブッシェル（凡我六石四升五夕）第三區よい煤三十ブッシェルと鹽七ブッシェル（凡我一石四斗一升五夕）を施し試作せるゐ第一區よりは収獲百六十ブッシェル（凡我三十二石二斗四升）第二區よりハ收獲百九十六ブッシェル（凡我三十八石二斗八升二合五夕）第三區よりは收獲二百三十六ブッシェル（凡我四十七石五斗五升四夕）を得たりと云ふ

魚類中第一の大魚ハ何物ゐる歟

世ゐ知られ居る魚類中ゐて最も巨大ゐるものは鯨族中の尤物なるロルクァルゐして其の丈は間々二十間の長きゐ及ぶ者ありロルクァルとはヒダ附鯨の意味を含める諾威語ゐて其の喉及ひ腹部ゐヒダ多きか故ゐ此の名ゐるゐり此の種類の鯨ハ多く北海ゐ住すれども其の髭（鯨骨）甚た短かくして脂肪ゐ乏しきと其の水中を奔る速力頗る大ゐして亦た非常ゐ強く爲めゐ之を捕獲するの難く且つ危險多き等ゐ由り漁夫が之を捕獲すると甚た罕れゐり其の常食ハ魚類ゐして其量極めて夥し人ゐり嘗て其の胃腑を切開吟味せるゐ六百尾の六口魚と外ゐ許多の小魚とを見出せりと云へり夫の時〜歐洲の北海ゐ出沒して世人の耳目を驚かす海蛇の種類中ゐは其の丈二三十町の長きゐ及ぶ如き大物もゐれども是等は固より魚類中に加ふべき者ゐゐらざるか故ゐ先つ今日の處ゐてはロルクァルを以て魚類中の最も巨大なる者とゐすべき歟

無害の砂糖

嘗て英國の化學研究會マンチェスター支部の講談會ゐ於て當日の會長たりしアイヴァン、ヴァステーン氏は石炭脂より製出せる新發明の砂糖を出して會員ゐ示し且つ之か説明を與へたり今ま其の言ゐ據るゐ此の砂糖ハ化學上ゐてアニドロー、オルソー、ソルファニン、ベンゾイック、アシードの名稱を有する者ゐて其の甘味ハ在來の砂糖中第一等ゐ位する者に越もると恰かも二百三十倍ゐして其の一分を以て水の一万分中ゐ加ふるときは之をして能く充分の甘味を得せしむるゐ足るへく又た之を飲食物の中ゐ交へ用もるとも毫も人体ゐ害を及ぼすとゐし蓋し此の新製の砂糖は獨り日常の飲食物中ゐ混用するゐ可ゐるのみならす藥劑調合の際、通常の砂糖を調和し難き場合抔ゐ用ゆるハ至極適當の和味なるべしと云へり

狼と電線の關係

嘗て諾威の國會ゐて新設の電信線ゐ對し助成金を與ふるとゐ付ての討議ありし節其の辨論中ゐ「余か選擧區の人民は新線路ゐ付てハ固より直接の利益を有せざれども電線の架設は以て狼を遠さけ近寄らしめざるべき間接の利益ゐるか故ゐ唯た此の點よりして助成金支出の議を贊成するゐるべし」と述へたる一議員ゐり蓋し諾威ゐは狼極めて多く人蓄の之の爲めゐ害を被むると亦た夥しきとゐるゑ今より廿年前電信線の初めて國内ゐ架設ゐりし以來ハ其の近傍ゐハ絶へて狼の出沒するとゐるきに至れるより同國の人民等ハ一般ゐ狼は電信線の設を忌避する者ゐりとの説を信し居る由ゐて電信線の設けゐき地方ゐては諸方ゐ棒杭を建て繩張りをゐし之を以て狼除けとなす者もゐりと云ふ

世界中にて同時ゐ水上ゐ浮ひ居る人員如何

世界中ゐて同時ゐ水上ゐ浮ひ居る人員の幾何ゐりやを知らんとハ固より容易の業ゐゐらされども統計家某氏は嘗て此の人員を計算して平均凡そ三百廿万人位ゐりと云へり某氏ハ何等の事實より右の如き統計を得たるやを知らされども今ま試みゐ其の材料ゐ供せりと思はるゝ事實を擧けて算せんゐ世界中ゐて常ゐ漁獵ゐ從事する船ハ十二万隻ゐして之ゐ乘組むべき漁夫ハ凡そ五十万人ゐりとは統計家の一般ゐ認承する所ゐり又た英本國商船の總噸數は凡そ七百万噸、各植民地の商船噸數ハ凡そ二百万噸ゐして假りゐ本國商船の方ハ三十二噸ゐ付き人一名、植民地商船の方ハ十一噸半ゐ付き人一名を載する割合とすれは前者は凡そ二十三万人、後者は凡そ十七万人を乘組ましむるの算ゐり又た諸國商船の噸數を極々内端ゐ積りて千三百万噸とし二十噸ゐ付き人一名を載する割合とすれは其の總人員は六十五万人とゐるゑ故ゐ以上三口を合すれは商船乘組人員として百〇四万人の計を得へし尚ほ此外ゐ世界各國の軍艦乘組員、諸國の移住民、諸方ゐ來往する旅客及ひ兵員、漫遊船客、沿海貿易商、太洋中ゐ漂泊する人民、船を以て家ゐ代ふる支那人其他總て水上ゐ浮ひ居る人員を合算するときは少くとも百六七十万の數を得へき筈ゐり蓋し某氏の計算は當らすと雖も亦た遠さゐゐらさるへき歟

古代に蒸氣器械の發明者あり

世人の知る如く蒸氣力を實際に適用して文明進歩の二大要具を創造せるは實に近世のことなれども抑も蒸氣の強大なる噴發力を有すること既に古先哲の熟知せる所にて近年學者の取調へし所に據れば之を器械に適用するの先驅をなせる者は紀元前二百八十四年より同二百二十一年の間に存生せる埃及アレキサンドリアの學士ヒーローなり同人は嘗て今日のバーカル車の如き仕組を用ひ汽罐の側面に若干の小孔を穿ち之より噴發する蒸氣力を借りて車を廻轉せしむる所の一種の蒸氣器械を發明したり今日に傳はり居る同人の遺書中にて最も貴重なるは氣學と題せる者にして其の中には右の蒸氣器械の説明其他多く有用の文字を載すと雖も此書を始め同人の遺書は總てキレ〳〵の者のみにて一も完備せる者を止めず西洋には古代より斯く理科の學を爲す人あるに東洋には何故に之れ無きや、痛嘆すべし

防火土の試驗

英人ヒッチンスなる者、向きに防火用の粘土を製出し廣く其の効力を世に示さん爲め倫敦府内に防火土を以て其の床、天井、壁等を塗詰めたる三層の一家屋を建築して試驗を行へり、其狀は先つ上層下層の兩室に燃もへき物質を堆積して點火せるに火炎は焰々と室内に燃へ廣がりたれども其の火は唯た室内に燃もるのみにて毫も他に延燒する能はざりし點火後三十分間を經たる後ち試驗者は人と共に中層の一室に入り其の有樣を實檢せるに絶て異狀を見さりしかは此度は更に中層の室に燃へ易き物質を積て火を起せるに其火力は窓ガラスを溶解せしむる迄に強盛なりしにも拘はらす同しく亦た室内に止まるのみにて毫も他に延燒するに至らさりき斯くて防火土の効力愈〳〵顯著なるを示し得たりしかは試驗者は遂に悉く上中下三層の火を消止めたる後ち尚ほ室内に入て仔細に檢視せるに三室とも床板を支ふる横木には少しも火の燃へ付たる形跡あらさりしと云へり右の試驗に據れはヒッチンス氏の防火土は少くとも火勢を制して他の部に延燒せしめさるの効力を有すると疑を容るへからすとの評を得たり

地中の温度

日耳曼政府は地中の温度の場處の高低に從て上下する割合を取調へん爲め嘗て地下掘穿のことに着手し千八百八十五年の年初には千三百九十二メートル（凡四千五百九十三尺三寸）の地底にまで穿ち進めり蓋し人工を以て斯くまで深く地中を穿ち得たるとは未た曾て之れあらさる所にて温度取調のことを擔當せる日耳曼學士は温度の增加する割合に隨ひ管中の水銀の益〳〵膨脹して溢れ出る樣に作り成せる一種の寒温計を以て次第に地底の温度を計り進みつゝ終に地下千三百九十二メートルの處を計れるに其の温度は恰も華氏の寒温計百二十度に達せることを確かめ得たりと云ふ或人の言に若し地中の温度が恰かも此の如き割合にて增加するものとすれは三千メートル（凡九千九百尺）の地底にての熱度は水の沸騰點に達すべく又た七十五キロメートル（凡二十二万七千五百尺）の地底にては白金を溶解せしむるに足るべき劇熱を有するの割合なりと云ふ

佛國大統領の官邸の騷さ

先頃の事なりとか佛國大統領グレヴィー氏の官邸を護衛せる番兵は一夜人靜まりて後ち一團の群衆、數十輛の車を擁してリヴ、サン、オノールの邊を過ぎ大統領の官邸を指して進み來るを認めしかは必定例の暴民共か推寄せ來るものならんと直ちに之を護衛兵屯所及び邸内に報せり依て護衛兵等は申すに及はす邸内の諸人、皆な臥床よりハチ起きネハと云はゝ暴民に當らんと用意せり又た最寄警察署にては此の急報を得るや否や暴民の襲來を遮止せん爲め署長自から巡査四十名を率て馳向ひ群衆に對して解散を命しけるに彼の群衆は却て大に打驚きたる体にて、我等は唯、賭の爲めに多人數集りしものなりと答へたれども警察官は更に承知せす尚ほ事由を質問せし後ち始て下の如き事實を知得たり、同夜、某倶樂部にて金二千法（凡我金四百圓）を賭けプラス、ドラ、コンコールド（巴里にて重なる廣小路）よりヴァルラ、セード迄は目隱を爲して首尾よく達し得るや否やを爭はんと發言せしものあり深更にも關せす即時に之を

始めしかゝ倶樂部の會員等ゝ孰れも馬車ゐて競走者ゐ尾し進み又た沿道人民の此事を聞傳へ其の有樣を見物せんとて此の一行ゐ打混せる者頗ふる多く事の此ゑ及へるなりと分り、遂ゑ此事ゝ近來の一笑話と爲りし由

小兒の擧動

人あり嘗て小兒の發育生長する有樣を取調へたるに下の如き成蹟を得たり小兒の初めて頭をフリ動かさんとするゝ產後四日目ゑして其の意思ありてカブリを振るゑ至るは出產より凡そ四箇月間を經過せる後ゑ在り、其の初めて物をツカミ握らんとするは百十七日目頃にして其の之ゑ熟するゝ爾後二十二日即ち出產より四箇月と一週間の後ゑ在り、其の初めて物を指さし示さんとするゝ產後八箇月目ゐして爾後一箇月を經過すれは稍や之ゑ熟するゐ至る、其の初めて椅子ゐ凭り掛らんとするは三箇月と二週間目ゐして其の之ゐ熟するは出產より十箇月と二週間の後ゑ在り、其の初めて起たんとするゝ五箇月と三週間目ゐして其の之に熟するゝ出產より凡そ一箇年の後ゑ在り、其の初めて歩行せんとするは十箇月と一週間目ゐして其の之ゐ熟するゝ出產より一年四箇月と二週間の後ゐ在り、其の初めて飛躍せんとするゝ二年と三箇月ゑして爾後一箇月を經過すれは稍や之ゑ熟するゐ至ると云ふ

蠶の歐洲に傳りし時代は如何

絹の歐洲ゐ入りしは極めて古しと雖も其の何物より製造さるゝやを知れる者ゝ絕て之れなく希臘の大家アリストートル氏の如きと雖も絹は有角の虫より製造さるゝ者なりと云へる程なりき蓋し絹を創製せる本元ゝ支那ゐして昔時歐洲の絹ゝ波斯の行商が支那ゑて買入れ俵詰となし數百日間を費し中央亞細亞の大陸を經て歐洲ゑ輸入せるものなりしかは其の輸入高の少きと共ゑ價亦た非常ゐ貴く僅かゐ贅澤品として土流社會の間ゐ用ひらるゝのみゐて羅馬の如きは國人の奢侈を防かんゐめ一時法律を以て男子の絹物を用ゐるを嚴禁するゑ至れるとあり然るに紀元五百五十一年の事なり宗教弘布の目的を以て遠く支那の國境ゐまで旅行し到れる二人の宣教師あり偶〳〵其の滯在中生糸の製法を檢分し其の蠶より生ずるものなるを知り得しかゝ詳細ゐ蠶の飼養法抔を取調へ歸國の上之を時の東羅馬帝ヂヤスチニアン帝(此頃羅馬は東西二派ゑ分裂し居たるなり)ゐ奏上したりヂヤスチニアン帝は豫て深く意を絹布製造の事ゑ注き居たりしかゝ痛く之を喜ひ直ちゑ宣教師等ゑ向て再ひ支那ゑ赴むき鈎かゑ蠶卵を携へ歸るべき旨を命せり依て宣教師等ゝ命を奉して彼地ゐ到り鈎かゐ手段を施して多く蠶卵を買ひ集め之を空杖の中ゑ入れて本國ゐ携へ歸り遂ゑ幾多の困難を經て漸く生糸を製するゑ至れりと云ふ即ち是れ歐洲ゐて絹布を製出するゐ至れる濫觴なり

海上の新傳話器

傳話器の發明者なる英國の博士ベル氏ゝ嚮きゑ水の音響を傳ふるゐ何程の功用あるやを試めさんと種〻實驗を施せる末遂ゐ一の新發明を爲せり其の實驗ゑ據るゐ船上ゐ傳話器を備へ置き之より一本の電線を垂れて水中ゑ流す時ゝ該線の電氣諸方ゐ傳通して圓輪を成すと恰も例せは電線の長さを一英里(凡十五町)とすれゝ其の電氣ゝ直徑恰かも線長の二倍即ち二英里四方(凡三十町平方)の圓輪中ゑ擴まるべし故ゐ若し他船が此の圓輪中ゐ來り兩船の圓輪が相ひ觸るゝ時は(他船ゐも同樣の仕掛ありと假定め)双方互ひに音信を通し得へしと云へり又た近頃米國の電氣學士エヂソン氏ゝ稍や電信機の仕掛ゐ近き海上通信の一新法を發明し既ゐ一英里の間ゑゝ屢々之を實驗して其の有効を示せるゑ尙は氏は之ゐ一層の改良を加へゐハ少くとも七英里(凡二里三十三町)間の通信用ゐ差支なからしむるを得へしとて專ら研究ゑ從事し居れりと云へり他日是等の通信器械愈〻成就するゐ至れは海中往來の諸船は通信上ゐ少からざる利便を受くることなるべし

河流より大洋ゑ流出する泥砂の高

凡そ河流より大洋ゑ流出する泥砂の高ゝ極て莫大なるとなるが嘗て學者の算測せし所ゑ據るゑ北米の大河なるミスシッピー(河の長さ千六百四十餘里)をメキシコ灣ゐ流出する泥砂の高は每年平均一億五千万噸(凡四百〇五億七千百二十五万貫)ゐして此の割合より起算すれゝミスシッピー河の兩岸ゝ今後四千年を經過する内ゑゝ恰かも一尺の土壤を洗ひ去らるへき算なり又た右の割合を推してセント、ローレンス。ラプラタ。アマゾンの如き南北亞米利加の諸大河ゐ及ぼし是等の諸大河より一年間ゐ流出すへき泥砂の高ゑミスシッピー河の分を加へて合算するゐ兩亞米利加の全土ゝ每年一平方英里(凡十五町四方)ゑ付き百噸(凡二万七千〇四十七貫五百目)の重量ゑ當れる土壤を減少すへき割合なり尙は此の割合を全世界の諸河流ゐ及ぼし是等の河流より年々流出すべき泥砂の高を調ふるゐ亞細亞、亞非利加、歐羅巴及ひ南北亞

米利加の五大洲より大洋ゑ流出すへき泥砂の高い毎年凡そ一立方英里(凡十五町立方)の土壌を成すへき算ありと云へり

ピロフォル虫の光輝

米國メキシコ地方の森林中ゑ生する虫ゑ一種の光虫ゑりて學者社會の通語ゑ之をピロフォルと云ふ此虫は丈凡そ八分位ゑ過ぎされども其放つ所の光輝い頗る熾ゑして日中ゑてもダイアモンドの如くゑ眩めき一匹を捕へて紙上ゑ置かは夜中書見をおすゑ差支ゑるおく僅〻四方ゑ散して滿室ゑ照り渡り其の光輝の衰へかゝる際ゑい之を捉らへて振り搖かすか若くい之を水中ゑ入るゝ時い忽ち元の如く燦然たる光輝を放たしむるを得べく之ゑ甘蔗を與へて巧みゑ養ひ置く時い隨分永く生活するものゑりと左れい夫のメキシコ内地ゑ住する亞米利加の土蠻等い燭光の代りゑ此虫の光輝を借りて夜中室内を照すの用ゑ供し夜中外出する節ゑい兩足ゑ各〻一匹の虫を置て提灯の代りとおし以て熱帶地方ゑ夥しき毒蛇おどを踏付ぬ爲めの用心ゑ帶ふると云ふ又メキシコの婦人等い此虫を一ダス則ち十二匹ゑ付幾錢と云ふ廉價ゑて土蠻より買求め之を透明れる嚢ゑ入れて此嚢をハ頭ゑ頂き若くい頸ゑ掛けて裝飾とおすとあるが其の光輝燦爛として四方ゑ灼めくか爲め價の廉おるゑも似すして中〻美事ゑ見受けらるとおり

斷食の奇話

二十年間を睡眠中ゑ過せりと云ふリップ、ヴァン、ウィンクルは毎日麵包と水ゑて唯十二オンス(凡九十匁六分)を用ひ百八十五年の長生を保てりと云ふセント、マンゴー千果物ゑビットル水を交へて食料とし五箇年間を押通せりと云ふセント、ジョセフ抔の古事い姑らく措き中世以後の斷食話中ゑい出處正しく而かも實際ゑ有り得へしと思はるゝもの少からす中ゑ就て著るしきものを擧れは現今英國の貴族中ゑて金滿家の名ゑるバックリュー家の先祖ジョン、スコット(千五百三十一年頃の人)の身上ゑ付きスポッチスウード僧正は嘗て下の如きことを物語れり、ジョン、スコットい偶〻訴訟ゑ敗れ相手方の請求せる金額を支拂ふへき旨を申渡されたれとも固より之ゑ應するの資力おき爲め人里遠き山寺ゑ逃れ入り不平の餘り庵室ゑ閉籠りて斷食の苦行ゑ就き一物を食いす一水を飲ます遂ゑ三四十日間を其中ゑ暮らせり然るゑ此事早くも國王の耳ゑ達し「兎ゑ角彼の者を召出して斷食を爲さしめ万一誠ゑ之を成し遂けたらんゑは逃亡の罪を釋るし遣すべし」とのことおりしのは役人共い直ちゑスコットを引立て來りてエジンバーグ城中の一室ゑ押込め唯た少量の麵包と水とを與へ置き何人をも近寄らしめさるとと爲せり斯くて三十二日を經たる後ち檢分の役人共は城中ゑ赴むき見たるゑ麵包と水とは元の儘ゑて少しも減せる樣子もおきゑスコットは依然として生存し居たりしかは驚れも驚駭せさるはおく早速此の趣を國王ゑ上申して之を放釋したり扨もスコットは放釋の後ち間もなく本國を去て羅馬ゑ赴むき法皇クレメント七世の許ゑて斷食を爲し其の證認狀を受領し更ゑヴェニス其他の地方を巡回して衆人の喝采を博し數年の後ち再ひ本國ゑ歸りセント、ポール寺の說敎壇ゑて屢〻國王攻擊の演說を爲せしかい遂ゑ五十日間の禁獄を命せられたるゑ其間も例の斷食を爲して目出たく出獄したり又た某博士の「スタッフォルドシヤイヤ博物史」と題せる書中ゑメリー、ウォートンと云へる女子の奇談を載せて云く「メリー、ウォートンい一日中ゑ鳴の卵子一箇の分量ゑも是らさる程の麵包及ひ牛酪を食ひ唯た一匙の水若くい牛乳を飲むのみおれども其の色つや麗いしく身体健やかおり若し偶〻右の食量飲量を過せる節ゑは忽ち病氣を引起せるとは同人を知る者の皆ゑ能く熟知する所おり殊ゑ同人い大の信心家おれい其の言に詐りゑるべしとも思いれす」と又たペンナント氏い「蘇蘭旅行」と題せる其の書中ゑ千七百七十二年ゑ於て自から實見せる所おりとてカーライン、マレオッドと云へる女子(當時三十五歳)の話を揭けて云く「同人は三十三歳の時ゑ熱病ゑ罹れる爲め殆んと眼力を失ひ且つ其後い絶て飲食物を欲せさるゑ至れり兩親い何とかして食物を食いしめんとて樣々と苦心すれとも更ゑ其の効おく若し舌を抑へ强ひて之を喉元に通らしめんとするときは殆んど絶息せんとするゑ至るか爲め常ゑ是非おく差扣もる次第ゑて余の實見せる時ゑ至る迄廿一箇月間は飲食共ゑ女子の腹中ゑ入れりと思いるゝ實跡全く之れおしと云へり」と又た千八百七十五年の英國醫學新聞ゑい四十九日間一物をも食はさりし一女子の事實を記載したり又た最近の例ゑ就て云いゝ昨年秋季の頃、伊太利人ッチーと云へる者が一種の水藥を服用して三十日間の斷食を爲し

世の喝采を博せるとは今尚ほ世人の記臆ゑ存する所なるべし、是等の事實い夫の「人類は遂ゐ空氣を呼吸するのみゐて生活し得るゐ至るべし」と云へる學者の說ゑ援を與ふるもの歟

金剛石の首飾

佛國大帝那翁第一世の尙ほ世ゐ時めきける一千八百零六年六月或る日宮內省御用の寶玉師フォーシェルゐる者を召出して金剛石の首飾（西洋婦人の領ゐ懸る珠子の如きもの）を注文し價い幾万金を要するとも更らゐ苦しからねば世界ゐ於て愧かしのらぬ品物を吟味し今より一个月以內ゐ調製すべしとの旨を命せり容易ゐらぬ注文ゐれい流石ゐ天下華美の中心たる佛京巴里ゐて第一と呼はれし寶玉師も一時い其の穿鑿方ゐ當惑せしゐ幸ひ普魯西亞王が其冠ゐ着けたる金剛石い稀代の寶ゐる由を聞き得しのい早速人を以て右拂下の儀を懇望ゐ及ひしゐ當時い普國王室も不如意の折柄とて意外ゐ容易く之れを承諾せるよりフォーシェルい直ちゐ之を買取て日ならずイト美事ゐる一串の首飾を調製して上納せるゐ那翁帝い喜悅斜ゐらず之ゐ料金八十万フランク（我金貨十六万圓）を賜いれり

此頃那翁帝い皇弟路易那翁を和蘭國王ゐ封するの事あり當日路易の妃ホルテンス參內して恩を謝しけるゐ帝い莞爾ゑ「御身等兩人い今日より和蘭國人民の君主と仰かるゝとゐ候就ていい貧しきを賑しみ富を羨ふは世間普通の人情ゐ候へども彼の國の人民い此情殊ゐ甚し左れい朝廷の式會ゐどの節御身が見劣りしたる裝ひして其の場ゐ臨みゐい忽ゑして威嚴を損とし輕蔑を招くゐ至るべし今ま朕が聽けゐ聊か御身ゐ參らす一ト品こそ「これ」とて傍の手文庫より取出たして手づからホルテンスの領ゐ打懸しい即ち前ゐフォーシェルゐ注文して拵へ置きたる金剛石の首飾ゐ

ホルテンスハ那翁の贈言を守りて其身をたしなみ慎みしかハ和蘭の人民ハ何れも新皇妃を敬ひ尊とみ外國人ハ對してさへ我が皇妃は斯くゝゝおりとて其の華美艶麗の事を物語る程ハして路易夫妻ハイト樂しき日を送りけるハ後ハ幾もなく那翁一敗地ハ塗みれて佛國の帝位を逐われエルバ島ハ配流の身とおりしかハ路易夫妻も同しく和蘭の王位を去るとおれり時ハ和蘭の人民ハ其別れを惜み悲しむと大方おらす皆ハ泣涕して之を見送りたりと云ふ

那翁のエルバ島ニ在るやホルテンスの事を頻りハ讒言する者ありて帝ハ其言を信とし深くもホルテンスを憎み其後エルバ島を逃れ出で本國ハ歸りし時も更ふ面會を許るさゝりきホルテンスハ痛く之を嘆きつゝ折もおらハ吾か情を愬へて怒を釋かんものをト思ひ暮らせる中復もやウオートルーの一戰ハ那翁ハ再ひ虜とおり終ハセントヘレナ島ハ配流と定りたり配流の事定まりたる夕那翁ハ獨り幽室の内ハ坐して越方行末を想ひ廻らし轉た感慨ハ沈みける折柄靜かハ戸を開く音しけれハ目を擧けて其方を打見るハ片隅のホノ闇き所ハ悄々として佇みたる一個の婦人ハり何者おるのと問ハんとせしハ彼れ先づ聲を發して「陛下ハ此品を賜りしより既ハ九星霜を經て倭之を着けて人ハ誇りしとも今ハ夢とおり果てぬ妾ハ最早や今後再び斯る重寶を身ハ着くへき期もおかるべし今ハ我身ハ要おき品陛下今日の御境遇ハありてハ何かの御用ハ相立つともわらんかと改めて之を御返納申し度態〻持參致し侍べる」と云ひつゝ前ハ進みて小さき手箱を捧げける那翁ハ餘りハ意外の事とて其の委細を問ふ由もおく「否や〳〵ホルテンス、朕之を受納するの理おし」と答ふる詞の未た了ハらぬ中ホルテンスハ慌てたる面色ハて急ぎ手箱を打開き彼の金剛石の首飾を取出し乍ら詞忙〻く「サヽ何者か來る樣子時移りてハ事の敗れ疾く此品を取上給へ早く〳〵」と促き立つゝ卓上おる帶劔の傍らハ投るハ如くハ之を置き早くも其處を出て行きたり引違へて一人這入り來りしハ英國の士官おりしかど那翁ハ手快く帽子ヨて之を蔽ひしかハ見咎めらるゝ事もおく終ハ隱しハゝせたり

是より六週間を經て那翁ハ愈々セント、ヘレナ島ハ渡航するとおりしかば護送の役人等ハ帝を始め隨臣等の持物を搜索し金錢其他の重寶をは悉く取上げて携へ行とを許さす那翁ハ一日其隨臣ラス、ケーセス伯と共ハ甲板上を逍遙し居けるか傍りハ人おきを視て笑ひおのゝ伯ハ低語き「一枚の衣を纏ハすとも我か資産ハ悉く我ハ身ハ附き居るおりと云ひしハ確か希臘の哲學者バイアスおりと覺も今ヨ朕の境界こそ亦た爾か云ふ可きおれ」と云ひつゝも手早く其の胴着の下より絹の胴卷を引出し此中ハは八十万フランクの價ハる金剛石の秘ハれハ朕の爲めハよく〳〵護持を賴むおりとて之をケーセス伯ハ委ねけり左れハ配所ハ在りても伯ハ常ハ之を我身ハ纏ふて大切ハ藏さめ居たりしハ一日測らずも彼の貴重おる金剛石ハケーセス伯諸共ハ那翁の邊を離おるへき災難こそ起りたり

一日ラス、ケーセスは那翁と膝を交へて談話ハ餘念おき折柄島守ホドソン、ローより使者を遣はして要事ハれハ至急來臨ありたしとの旨を報し越せり伯は只今ハ談話中おれハ罷り出る能ハすとて斷らんとしたりしを那翁ハ之を止めて疾く往くこそ善からめ要事果てハ速ハハ立歸るへし共ハ打ちくつろぎて會食せんとて出だし遣りしか伯の門外ハ立ち出るや否や一隊の兵士ムラ〳〵ッと馳せ聚り有無をも云ハせず島廳ハ引き行けり實ハ千八百十六年十一月の事おりき

金剛石の首飾（前號附錄の續）

扨もケーセス伯ハ身ハ金剛石を着けたるまゝ島廳ハ引かれ往き一言の調へもおく直ちハ喜望峯へ護送する旨を申渡され用意の船へと乘せられけるハ伯ハ彼の預かり居る金剛石の首飾こそ那翁の今の身ハ在りてハ命の次ぎの寶ハて縱ひ運よく配所をハ逃れ出給ふ事ありとも之れおくハ如何ハして身の羽翼を生すへきと心ハ頻りハ焦躁てども今更ハ奈何せん徜もハらざりし茲ハ伯か豫て懇意ヨて信任殊ハ深かりし一人の英國官吏ハり伯の既ハ乘船せし後告別の爲めハとて來りけれハ伯ハ偶々人おき折を窺ひて彼の金剛石の一條を詞忙ハしく物語り何卒之を預かり置き好

き機會を見て返上し下され間敷やと頼みしゐ快よく之を承諾し如何ゐ嚴重の中ありとも必す時機を見て手渡し申すべしと契りたり

那翁ハ配所ゐ在りても日夜逃走の策のみを工夫し居れとも警守嚴重なるか上各國より派遣したる幾人の間者すら常ゐ左右ゐ附纏へは更らゐ寸分の隙だゐ得ず空しく歳月を過しけるが其中ゐ一人の不思議なる間者あり那翁か散歩ゐさへ出つれハ毎つも陰かゐ其尾をつけ來りて始終其擧動を伺ふと二個年此方一度の油斷さへあらさるゐゑ那翁も執念く蒼蠅き奴かゐとて甚た苦々敷思ひ果てハ時々之を罵るとさへありけるが一日常の如く家を出て獨り逍遙せる折柄例の間者突然傍らゐ馳寄りて慇懃ゐ腰を屈め暫し相語り度事の候と乞ひたり那翁ハ怒ゐ堪へず「去れ々々。朕ハ間者と交ハさん詞を持たず」と云ひあがら背を向けて去らんとせしゐ「否や拙者ハ左る怪しき者ゐ非ず友人ケーセス伯より御手渡し致し呉よとて金剛石の首飾を預りて候」と云ひかくるゐ那翁ハ一度ハ驚きしか尚ほ疑の解けさる樣子を見て「拙者ハ今の機會ゐ逢ハんため二個年の間毎日陛下ゑ附纏ひて候然るゐ不幸ゑも陛下ハ常ゐ拙者を厭ふて避けさせらるゝ樣ゐ見受たり」とて仍ほ云はんとせしゐ那翁ハ喜悦ゑ堪へさりけん其詞の了るを待兼ね「如何ゑも其通り。左らハ御身ハ今茲ゐ其首飾を所持し居らるゝや」「然り。去り乍ら兎角する間ゐ人目ゐ憑らハ一大事陛下ハ帽子を脱きて片手ゐ御携へゐれ拙者ハ通りすゐのりゐ其中ゑ之を投入るべし。二個年以來の今日只今ラス、ケーセス伯の委托を完ふして友義を立て得たる上ハ最早や此の島ゐ要もゐし陛下ゐも御機嫌宜しく在せよ」と彼の金剛石を帽子の中ゑ投込みたるまゝ飄然として立去りける

斯くて彼の首飾ハ再ひ那翁の手ゐ戻り臨終の時（一千八百二十一年四月）までも之を秘藏しけるゐ其の數日前ゐ至り將軍モンソロンを枕邊ゐ呼寄せ落入たる目を見開き勞れ果たる聲を發して「將軍よ。朕か枕の下ゐ貴重なる金剛石の首飾あるゐ是ハ本と〳〵ホルテンス妃の物なれハ他日御身ゐ此孤島を逃れ出るとのありて妃の尚ほ生き存らゆるゐ會ハゞ何卒之を送り届け呉られよ若し妃ハ既ゐ亡き人の數ゐ入り居らハ之を其子供等ゐ届け呉られよ」とありけれハ將軍ハ目をシバタ、キあがら誓つて仰せを遂け參らさんと答へけるか其後數日を經てアントマルチ國手が「一世の英雄も今は愈〳〵事キレたり」との語を發するゐ及ひ將軍ハ直ちゐ枕の下より金剛石を取出し竊かゐ之を我か衣兜の中ゐ收めたり

モンソロン將軍ハ千辛万苦を冒し稍やくゐして故國なる佛蘭西ゐ歸り直ちゐホルテンス妃の住家を搜出し手づから之を妃ゐ渡しけるゐ妃は再ひ彼の金剛石を視るゐつけ坐ろゐ今昔の感ゐ堪へす一時ハ涙ゐ暮れたりしか其頃ハ早や古ゐ引換て見る影もなく零落れ果て居たりしかハ遂ゐ彼の首飾をも手離さねハならぬ程の始末となり之をパーヴェリヤ王ゐ賣渡せり王も大金の事なれハ一時ゐ之を拂ふを重かりホルテンス妃の存生中ハ年金三千フランク（我金貨六百圓）を贈るべしと約束せしの此の約束の後二個年ゑして妃ハ俄かゐ世を去りしかハ王ハ僅かゐ千二百圓を以て十六万圓の金剛石を得たりしあり

其後奈破侖第三世の世ゐ出るや斯る來歷の實なれハ何卒して之を取戻し度と頻りゐ盡力したる由ゐ言ひ傳ふれとも愈々其志を果し得たりや否やハ詳らのあらすとなん

（完）

滊車と鳩の競走

佛國ゐて飼鳩を戰時通信の用ゐ供せんため屢〳〵之を試用せしとハ豫て本紙上ゐも記載せしゐ茲ゐ昨春四月の頃英國ゐて滊車と鳩との競走を試し見たる話ゐ其の競走の距離ハドーヴァー（佛國より英國ゐ渡たり着く最初の沿岸の地）より倫敦までの間ゐて滊車ハ常ゐ兩地の間を往復する急行列車なれハ駛行の速かなると勿論なり又鳩ハハートレー氏及ソンス氏等ゐ倫敦カノン街の某屋ゐ永く飼ひ馴せしものゐて固より傳翅順良の尤物たりしなり扨て愈〳〵競走の時刻となり滊車がドーヴァーの停車場を發すると同時ゐ豫て車中ゐ在りて鳩を扱ひ居たる佛國士官某氏ハ車窓より之を空中ゐ放ち遣りしゐ鳩ハ放れたるまゝ一分間程も空中を周りなから半英里位（我七丁許）の高さゐ上るよと見へしゐ忽ち方角を定めて倫敦の方ゐ

翔往きたり其中に瀛車は十分の速力を加へ一時間六十英里(我廿四里許)の速力をもてヒヲ駛りに駛せたりける當初出いしめの際には鳩の速力迚も瀛車に叶ひ難からんとの樣子に見へしかは瀛車の役員等は何とて鳩抔の能く及ふ所にあらんとて頻りに瀛車の速力を誇り居けるに鳩は空中に上りて己れの達すべき向を狙ひ定むや否や眞一文字に飛び行くに其道筋瀛車の鐵道の如くアチラコチラと曲ごり折れねはならぬ手間もなく鐵道は七十六英里半(我三十一里許)の長さあるを鳩は唯た七十英里(我二十八里許)翔けりたるのみにて既に先方に達し瀛車が倫敦カノン街の停車場に着せる時は鳩は既に同街なる己が栖所に歸て二十分間も休息したる處なりし

右の手の器用なる理由

人の右の手の左の手よりも器用なる所以に付ては種々の說あり或は天性と云ひ或は慣習と云ふは何れも皆一と理窟あるか如くなれとも是は何故に其樣の天性をなすや又た何故に其樣なる慣習となるやと云へる理由の立たさる内は先つ漠然たる說なるに似たり又た兩腦說を主張する所の諸學者は人体の運動を司とる者は右方腦部なるが爲め人皆な右手を用ゆるに巧みなりとて其理由を此に歸せり左れど兩腦說中にいふ腦部の身体を支配するは入れ違ひになり居る者にて左方の身体は右方腦部にて支配し右方の身体は左方腦部にて支配するなりと云ふ議論もあれは是も一概には受取り難し但た諸說中にて最も多く世の贊成を受るは英國博士オーグル氏の說なるか如し其說に云ふ獨り人類の然るのみならす猿又は鸚鵡の如きにても右の手足は左よりも器用なり其理由は血液の供給の多少に關するとして右方の部分は左方よりも血液の供給を受ると多量なり又た右方の臟腑の左方より重きか爲め重力の中心を身体の右方に傾かしむるとの如きは亦た大に右の手足を敏捷にする原因をなすものなりと

太陽の熱氣發生の原因

太陽は一箇の廣大なる火球にして自ら夫の炎々たる熱氣を發生するの力ある者なりとは嘗て西洋の學者社會に行はれたる說なれども今日に至ては學者又た此說の十分ならぬことを看出し之を駁して曰ふ「若し夫れ太陽をして自から燃ゆるとは猶ほ竈中の石炭の如き者ならしめは年を經るに從ふて其熱度自から減少すべきの理なり試みに一喩を設けて言へは米國ペンシルヴァニア州は世界屈指の石炭產出地にて今日の消費高を以て算すれは今後一千年以上の間全米國の需用に應し得べき程の巨額を藏すると云ふ今まに假りにペンシルヴァニア州の石炭を悉く採掘して之を太陽の處に積立て此を焚きて今日の太陽と同一の熱度を發生せしむるとせは米國一ヶ年分の石炭は一日半時も保つことを得す僅に一秒の千分一たる(一ト瞬きする間を千に割りたる其の一分なれは今の人間世界にては何程の間と比類すへき仕方もなき極々短き間なり)悉皆燒盡するの割合なり左れは太陽を以て自から熱氣を發生すべき可燃体(燃へる可き質の物)なりとして此割合より起算するに人類發生の時より今日迄の長久年間は其の燃料は疾くに燃へ減りて熱氣を失ふべきの理なり然るに歷史あるよりは以來未た曾て太陽の熱度を著しく減少せしことあるを聞かす況しては夫の橄欖樹と云ひ葡萄樹と云ひ三千年の昔も今日も更に發育の有樣を變するとなきは太陽の熱度の增減なきを示す第一手近の証據なるを

南亞非利加の金剛石

南亞非利加の一都會なるキンバレーの近傍に金剛石あるとを始て發見せしは今を距ること十九年前即ち一千八百六十七年にて爾來同地方に金剛石採掘の業起り今は其事業非常に盛大に赴けりと嘗て在キンバレー府の倫敦クイムス通信員か其本社に送れる通信に據れは一千八百八十四年南非地方よりの輸出品總金額三千七百五十万圓の内二千五百万圓以上は金剛石及駝鳥の羽毛の價なるに又其中の大半は無論金剛石の價なり二十年前は南非地方の金剛石採掘高は一年凡そ二十五万圓に過ぎさりしもキンバレー近傍に金剛石の發見ありてより其高非常の大數に上れり今日金剛石の採掘に從事するキンバレー近傍の土民の日雇賃のみを算するも其金額毎年凡そ五百万圓の大數なり又前十五年間にキンバレー地方より輸出せる二億万圓の生金剛石は人工を經たる上にて五億万圓の賣買なれりと云へり南非地方に金剛石採掘事業の盛んなるを以て推知すべし亦た併せて歐米人の常に世界未開の地を跋涉して富源を探求するに汲々たるも亦た徒然ならぬを知るへし

月球ゐ人類ありて棲息せるや否やゝ今尚ほ天文學上の一大問題とあり居るとあるゞ嚮きゐ日耳曼伯林府の帝國大學講師ある博士ブレンドマン氏ゝ此事ゐ關して種々研究を盡せる後遂ゐ人類の月球ゐ棲息するとを見究め得たりと云ふ今ま氏ゐ月球觀察の次第を聞くゐ從來月球の有樣を精細ゐ取調へんとゐ盡力せる天文學者も少からされども何分ゐも月球の光輝赫灼としてキラめき渡り爲めゐ精細の觀察を盡すを得さりしかゝ氏ゝ先つ第一ゐ此光輝を弱むるの手段を求めんとゐ從事し遂ゐ樟腦の煙ゐて望遠鏡の眼鏡を燻べ以て光輝を弱むるの工夫を案出し試みゐ之を用ひ視たるゐ月光大ゐ減少して明瞭ゐ其象を觀るを得たりしかは直ちゐ此工夫を反射望遠鏡ゐ施して月球の現象を精明ゐ寫し取り更ゐ天文用の顯微鏡ゐて此寫眞を熟視せるゐ月球の直徑凡そ六間以上ゐ見へ是れまで世ゐ海ありと云ひ傳へたる月球の白みたる部分ゝ植物繁茂の陸地ゐして世ゐ丘嶽ありと云傳へたる月球の黑みたる部分ゝ海と沙漠ある とを發見し且つ商賣製造の業行ゝれ都府村落の區別判然と立ち居るとを徵するゐ足るべき形跡をも明らかゐ觀察し得たり又氏の寫し得たる滿月の寫眞ゝ最も鮮明ゐて若し氏ゐ用ひたるよりも今ま一層大ある望遠鏡ゐて月球を寫したらんゐは更ゐ一層精密ゐ之ゐ現象を究め得べしと思ゝるゝ程ありと

指頭ゐて瓦斯を燃す法

瓦斯ゝ必すしもマッチ其他の火力を借らさるも其法を以てすれゝ人の指頭を點火口ゐ當るのみゐても燃し得べきものゐて其方法二種あり一は點火者か靴を穿ちたるまゝ毛織敷物の上をゞひし〳〵と足踏しゐゞら彼處此處ゐ運動して十分ゐ体熱を發せしむる事一ゝ點火者自から脚下ゐ小車の附き居る椅子の上ゐ起立しゐから他人をして毛製の手袋ゐて數分間も其全身を摩擦せしむる事ゐるが此二法の内何れゐても一法を施せし上點火者毫も身を外物ゐ觸れすして指頭を瓦斯の點火口ゐ當れゝ摩擦ゐ因りて指頭ゐ發れる火花の爲めゐ之をして忽ち發火せしむるを得べしとあり蓋し此法ゝ固より今始めて世ゐ知られたるものゐゝあらす既ゐ今より百四十二年前一千七百四十四年ゐ於て英人ウォンクラーゝ其指頭ゐ發したる火花を用ひて佛國製のブランデー其他の酒精類を燒上らしむるとを得たる話あり。

美味を嘗めて時を知る

今や種々精巧の時計ありて人々皆ゐ其便利を受くれとも今より二世紀以前即ち千六百年臺の往時ゐゝ未た鳴時計あらすして人々大ゐ不便を感せしかゝ其道の學者ゝ孰れも此不便を補んとゐ意を注けるが中ゐ佛國理科大學校の教授ヴォルレーヤー氏ゝ其頃一種異樣の懸時計をゞ工夫したり此時計ゐゝ大ある時間盛ありて其數字ゝ孰れも皆ゐ凹ゐあり居り此凹みたる數字の中ゐ氏ゝ種〻樣〻の美味をハメ込み置き夜中ゐど暗黑の所ゐて時刻を知らんと欲する折ゐゝ時計の針の指す所をゞ指頭ゐて觸れ斯くて指頭ゐ移りたる味を嘗めたる上ゐて指針の今ま何時の所ゐ到り居るやを覺とりたりと

植物睡眠の原因

植物の睡眠休息するゝ何等の原因ゐ出るものありやとゝ夙とゐ植物學者の探究考査を怠らさる所ゐして其の說の異ある所も少からさるゞ要するゐ其說三種ゐ分かるゝものゝ如し第一種の論者は云ふ植物睡眠の原因を以て日光の欠乏ゐ歸するの說ゐれども諸花の中ゐは日光の尙ほ去りやらぬ午後の時刻ゐ花片を縮めて睡ひるものも少からす又或は日光の最も盛んゐある時刻ゐ於て休息するものさへゐる程ゐれは日光以外別ゐ其睡眠を促かすものゐらさるべからす左らは其原因如何ゐと云ふゐ植物の中ゐ一種の頭敏ゐある養汁ありて其滋養力の稍や減少せる時ゐ方り植物をして睡眠を催ふさしむるゐ外ゐらさるべしと又第二種の論者は植物ゐも動物同樣神經の仕組ありて疲るれは則ち休息するの規則備ゝり居るものありと云へり又第三種の論者ゝ植物も動物ゐ等しく睡眠休息を要すと勿論の義ゐて其睡眠休息は日光の欠乏ゐ因りて促さるゝものありと論す以上の三說ゝ孰れも一理あるとあるが其中最も廣く世ゐ容れらるゝものゝ第三說あり

死体を石ゐ變する新法

米國フヰラデルフヰア府居住の日耳曼人中ゐ一會社を組織し死体取扱の儀を其筋ゐ願出つるの企あり此會社の目的ゝ人の死沒する者ある毎ゐ委托ゐ應して其死体を固結せしめて石質の者と爲し之を永遠ゐ保存せしむる

ゐ在り此方法い露國の某大學者の發明ありと云へど其手數繁雜ゐして容易ゐ施行する能いさりしぞ同く露國人ゐてアルヂー、ペロウスキと云へる博士い不圖した る事より礦物藥品を用ひて容易く死体を石ゐ變せしめ得へきとゐ心付き多年の苦心を經て其案稍く成就したり左れば何卒其の奇術を自國ゐ實施せんと欲し聖彼得堡府ある醫科大學校ゐ向て種々請求する所ありたり然れとも最初の發明者と稱する彼の某大學者を始めとし何れの醫家も皆ゐ博士の言を信せすして之を實驗せしめさりしかは左ちい佛國ゐ行て其術を試みんと遙々佛國ゐ赴きしか茲ゐも學者の爲めゐ皆ゐ冷遇されたり因て再ひ倫敦ゐ至らんとせるゐ不圖米國チカゴ府ゐ緣戚の人あるのみか米國こそ其術を賣るゐ最も適當の國柄あるとゐ心付き俄かゐ其方向を轉して今より一年以前ゐチカゴ府ゐ赴きしぞ茲ゐても思はしき働きを爲す能いさりしゐぞ此次きは紐育府を試み尚ほ知己を得ずんば引返して倫敦ゐ行んと決心し其途中圖らすも暫時フラデルフヰア府ゐ滯留せるゐ恰も好し茲ゐい死体を固結せしむへき術を研究せんか爲めゐ特ゐ組合ふたる醫

しけれい新發明の奇術を語れるゐ會長い該協會も既ゐ死体を固結せしむる事丈けは工夫したれど容貌顏色を其儘ゐ保存するの方法を得ずペロウスキ博士の發明したる方法こそ其最も苦心して探究し居たる所ある旨を答へたり斯る次第ゆへ協議忽ち一決し該協會い博士をして實際ゐ試驗せしめたるゐ十分滿足すへき結果を得しかい之を代る〳〵十七箇の湯中ゐ浸せしかど毫も解融すへき徵候おかりしゐぞ見る者大ゐ感稱して遂ゐ死体固結會社を圖結する事とい爲れり博士い深く其藥品を秘し試驗中は獨り一室ゐ閉籠て何人も之ゐ入るとを許さす左れい如何ある方法を施し如何ある藥品を用ゆるゐや毫も之を知るゐ由おけれど種々の藥品中鹽を用ゆるとい博士自ら之を公言せり然し鹽い第二位以下ゐ立つへき藥品ゐて重立たる藥品は其自ら發明したる所ありと云へるまでゐて其他の事い一切之を口外せされば何人も窺ひ知るゐ由おし

世界最小の共和國

世界中の最小邦ゐて共和政治を施行する者い何國ありやと問ふゐ中央伊太利の内ある サン、マリノ共和國こそ是れおるべし其版圖い凡そ二十二平方英里ゐて即ち我か東京市中を半分ゐせる程の廣さあり人口八千五百を有ち北東南いフォーリ州ゐ接し西はピサロ州ゐ境す首府の名も亦たサン、マリノと稱へ人口一千二百を有てり萬般の立法事務い總員六十名の公撰議員を以て組織せる立法院ありて之を執行す其内十二名の議員い更ゐ内閣を組織し正副両統領ありて之を監督す但し立法院議員の任期い終身ゐて行政府両統領の任期い六ヶ月間ありて又兵士い總計八百十九名ゐて士官い百卅五名ありて此國の開國の始祖は耶蘇宗の信者ある セント、マリナスある者ゐて三百年臺の頃宗教上の束縛を免かれんゐ爲め他邦より逃れて伊太利ゐ入り終ゐ此國を開けるもの、ゐ所なり　して永く　法ゐ存立するゐ至れるい蓋し未曾有の珍事と云ふべし左れい那　世の如きも嘗て伊太利出軍中或人ゐ語るゐ此國は實ゐ珍らしき共和國の雛形おれい之を保存し置こと然るべしと云ひ茲ゐい曾て兵を向けさりしと云ふ

波濤の測量

米國華盛頓府の水路局ゐてい灣きゐ太洋の波濤の長さ高さ、及ひ其打寄する時間を測量して之を世ゐ公けゐせしが其報告ゐ據るゐ北太西洋ゐて某測量船の暴風雨ゐ出逢ひたる節い波濤の長さ時としていい一町廿三間半乃至一町四十間ゐ及ひ其の打寄せ時間は十秒乃至十一秒も引續けり是等は既ゐ非常の大浪と稱すへきものおれども尚ほ此よりも長大ゐて曾て測量したる内ゐて第一の大浪い長さ七町廿間ゐて打寄せ時間い廿三秒のあゐだ續きたるものありと又大浪の高さい凡そ七間三分の一乃至八間か極度の高さゐて尋常のものい五間位ある由尤も是い唯た平時の高さゐて地震其他非常の場合い此の例ゐあらすと云ふ

猫の毛色眼色ゐて耳の聽と否とを知る

博物學者の說ゐ據れい全身ゐ白毛を着け綠色の眼を有する猫い概むね聾おりと云ふ進化論を以て有名おるダーウヰン氏の如きい白毛綠眼の猫い悉く皆ゐ聾おりと說き之を以て動かすべからさるの事實おりとまで一たびい論したり其後更らゐ博く取調ふるゐ及ひていい白毛綠眼の猫い悉く皆ゐ聾おりとまでは極論せさりしかども大体の議論ゐ至ていい他の學者の說と異ある所おかりき又た英人ブリー氏の飼養せる白毛綠眼の牝猫ゐ產み

落せし數頭の子猫中ゐて親猫の如く全身ゐ白毛を着け且つ緑眼を有せる一頭の子猫は矢張り親猫ゐ似て全く雙ありし左れども少しゐても異色の毛の交じり居たる他の子猫等ゐいづれも尋常の耳を有せりと云へり尤も英國の學者フォックス氏ササチェル氏の二人か多年實驗せし所ゐ據れは白毛の猫ゐても眼色の尋常ゐるものゐ物を聽く力ゐ於て毫も差支へゐるとゐしと云へゐ一概ゐ白毛の猫ゐ聾ありと云ふゐれ間違ゐあれども兎ゐ角猫の毛色及眼色ゐより其耳ゐ斯る差違の存すると云ふゐ奇と云ふべし

歐洲古代の髪の斬方

昔時佛國ゐてゐ頭髪を長く延し得る者ゐ國王及ひ王族ゐ限り一般の臣民ゐ國王ゐ對して忠順の意を表する爲め頭髪を短く剪み斬らぬゐならぬ習慣ゐり此の習慣は久さしく行ゐれ居たりき降て七百年代ゐゐ初めて小兒の頭髪を斬る時ゐゐ然るべき身分の人ゐ依頼して之を鋏み斬らしむるの習慣起り專ら佛國上流社會ゐ行はれたり一千九十六年ゐ至りては頭髪を長く延すとゐ宗法ゐ於て痛く之を禁し長髪の者ゐ生前ゐは寺院ゐ參詣するを得す又た死後ゐ讀經の惠みを受る能ゐさるとゐれり左れゐシャーレマン帝父子ゐゐ最も短かく頭髪を斬りチャーレス、ゼ、ボルドは悉く頭髪を剃り落すゐ至れりヒュー、カペットの時代ゐゐ宗法ゐて長髪を忌むと特ゐ甚しく若し頭髪を長く延す者ゐれは直ちゐ之を破宗したり又たチャーレス、ゼ、ヤングの如きも同しく頭髪を極短かくし爾後數代間の佛國王は皆ゐ此の例ゐ從へり

古代の希臘人及ひ羅馬人ゐ天然の髪の外ゐ附毛をゐして頭髪を飾る風俗ゐり又た希臘ゐてゐ死者ゐ對して哀悼の意を表する爲めゐ我か頭髪を斬り之を死体若くゐ墳墓の上ゐ載するの習慣ゐり埃及ゐても古代ゐゐ哀悼若くゐ祈願の爲めゐ頭髪を斬り去るの習慣ありてペレナサス皇后の如きゐ帝の凱旋を祈願する爲め頭髪を斬りて軍神ゐ捧けたるとゐり

氷の沸騰點ゐ空氣の壓力と共ゐ變易す

氷ゐ其蒸發力と空氣の壓力と互ひゐ相平均する所の温度を得て始めて騰沸するゐ故ゐ其熱度ゐ何處ゐても常ゐ平等ゐるものゐゐあらさるゐり例へゐ地平線の所ゐてゐ空氣濃厚ゐして壓力強きが爲め華氏の寒温計二百十二度ゐ至て沸騰すれども之より上ると愈〻高けれゐ、空氣亦た愈〻稀薄とゐり其の壓力も隨て減するか爲め沸騰點も隨て低下するとゐり以太利國アルプス山（地平線を抽んずると八千六百英尺即ち凡そ廿四町）の頂上ゐてゐ氷の沸騰點二百度ゐるゐ此熱度ゐてゐ肉類を煮詰めて肉汁を製する能はさるか爲め山上の住人ゐ唯た肉類を炙り又ゐ揚物ゐして食するの外ゐしと又博士フーケル氏の實測ゐ據るゐ世界第一の高山ゐる印度ヒマラヤ山（地平線を抽んずる一万八千英尺即ち凡そ一

里と十四町）の頂上ゐていハ沸騰點僅かゐ百八十度ゐり
と云へり之ゐ反して鑛山の底の如き空氣の壓力強ハゐ
る所ゐては沸騰點大ゐ增加するとゐて地平線より下る
と千五百英尺即ち凡そ四町餘ゐる穴の底ゐていハ二百十
五度以上の温度を加ふるゐゐらすんハ氷の沸騰すると
ゐしと

○政治家の遊嬉

勞あれハ逸あるハ人生自然の定則ゐて英雄豪傑と雖
とも此の定則ゐ外るゝハゐし今ま英國近時の著名ゐ
る政治家ゐ就て之を見るゐサー、ロバート、ピール氏
ハ農事篤志家ゐて公務の餘ゐハ常ゐ農業上の事を研
究するを樂みとしロード、ジョン、ラッセル氏ハ小兒を
愛するの情殊ゐ厚く暇さへあれは我か幼兒等を集め
て相共ゐ遊ひ戯むるゝを無上の樂とせり又たコブデ
ン氏ハ自から人ゐ語りて煖爐の傍らゐ安坐して書を
讀むを最上の樂事とすと云へりビーコンスフィール
ド侯ハ好んて小說を著はし又多く孔雀を飼養して自
ら慰みグラッドストーン氏ハ閑を得るごとゐ書を讀
み文を草し或ハ斧を執て樹木を伐倒すを以て快事と
ゐしソールズバリー侯は餘暇あれハ我か試驗室ゐ入
て種〻學術上の實地試驗をゐし又ハ球投げの遊戯ゐ
耽けるを常とすジョン、ブライト氏ハ漁を好みグラン
ヴィル伯及ひロード、スペンサー氏ハ共ゐ山野を跋渉
して獸を獵するを樂みとしハーチントン侯ハ競馬を
好みチャンバレーン氏ハオルキッド樹を愛して自か
ら之を培養しロード、ランドルフ、チャーチヒル氏ハ
深く象棋の遊戯を好みて頗る此道ゐ巧者ゐりとの評
判高し

歐洲ゐて毎日消費する縫物針の高

嘗て歐洲ゐて消費する縫物針の高ゐ就て取調をゐせし
人ゐり其の取調ゐ據るゐ英國バーミンハムの諸製造所
ゐていハ毎日平均三千七百万本の針を製出し其他各地の
製造所ゐても少くとも毎日一千七百万本位を製出すべ
けれハ全英國の製出高ハ都合毎日五千四百万本ゐ及ぶ
の計算ゐり又た佛國の諸製造所ゐては毎日凡そ二千万
本を製出し其他歐洲諸國ゐて毎日製出する高ハ無論一
千万本以上ゐ達すべけれハ歐洲ゐて毎日製出する針の

以下全て

白　紙